

五 華北における日本の權益發展策

329 昭和8年1月17日 在濟南西田總領事より
内田外務大臣宛

膠濟鐵路理事会の内債による同鉄道回収計画 について

付記 昭和七年十一月二十九日付在濟南西田總領事

より内田外務大臣宛公信普通第五三六号

右計画に関する理事会討議状況について

機密第二八號 (1月31日接受)

昭和八年一月十七日

在濟南

總領事 西田 畊一(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

膠濟鐵路回収計劃ニ關スル件

(欄外記入)
本件ニ關シテハ屢次既報ノ通りナル處本官過般青島出張ノ
砌客月十五日膠濟鐵路局各委員ト別用ニテ會談ノ際本件ノ
話出テ委員崔士傑ハ山東還附交渉會議當時中國側委員長ト

スヘキ恐アリト述ヘ置キタルカ翌日本官葛委員長ニ會見セ
ル際葛モ本件ニ付兎ニ角山東協定ニ基ク回收期限モ近付キ
タレハ具體案ヲ作成スル要アリテ國內公債ニ依ルコトトセ
ルモ右ハ鐵道部トモ商議ノ結果ニ非ラサレハ決定セサル次
第ナルカ過般赴京ノ節種々考究論議シ右具體案ニ内定シ居
レリト語り居タル處(右ニ就テハ當時本官ヨリ堀總領事代
理ニモ話シ濟)

本月十五日南京ヨリ歸青ノ途次當地ニ立寄りタル陸委員ハ
記者ニ對シ自分ハ今回上海ニ赴キ王理事長、鐵道部沙司長
ト共ニ膠濟鐵路問題及回收辦法ヲ詳細研究セシカ要スルニ
回收辦法ニ就キテハ理事會ハ鐵道部ニ呈請シテ會同辦理ス
ヘク回收方法ノ規定ハ民衆ヨリ團體ヲ組織シテ公債ヲ購買
セシメ若シ回收額ニ達セサル時ハ政府ヨリ協助スルコトト
セン計劃ナリ路政改良問題ハ理事會ヨリ膠濟鐵路管理局ニ
通令シ遵照辦理セシムルコトニ決定セリト談話セル由ナリ
右報告ス
本信寫送付先

公使 北平 青島 天津 上海 南京

シテ接抄^(傳カ)ニ當リ居タル王正廷カ目下本鐵路ノ理事長トナリ
居ル關係上回收期限迄ニ其ノ回收ノ出來サルト否トニ係ハ
ラス膠濟鐵路理事會トシテハ責任上回收方法立案ノ要アル
爲メ斯ク具體案ヲ立テタル次第ナリト述ヘタルヨリ本官ハ
山東協定ニ基キ貴國自力ニテ回收スルコトハ宜シカラシモ
協定ニ依レハ年利六分ニテ可ナルニ回收ノ爲發行セラルル
公債案ハ年利八分ナル由ナリト聞クカ斯クテハ膠濟鐵路ト
シテモ大ナル損失ナラスヤト反問セル處崔ハ六分ノ利息ト
言フモ金ノ六分ナル爲メ相場ノ關係上銀トシテハ一割二分
ニモ廻ハル時期アリタルカ銀ニテ八分ト決定セハ金銀相場
ノ變動ナキヨリ差シテ損失ヲ招カスト述ヘ又委員陸夢熊ハ
本件回收ハ外債ニ依ルコトヲ得サレハ國內公債ニ依ルコト
トセル旨述ヘタルニ付本官ハ貴國々内公債ト言ヘトモ該公
債ヲ擔保トシテ外國ヨリ借款ストカ曖昧ナル外國資本關係
アル中國人名義ノ會社等ニテ公債ヲ引受ケシムル方法ニヨ
ル變態外國借款ノ如キ事態發生ノ場合ハ何レ種々紛糾ヲ來

(欄外記入)

内債ト雖モ鐵路收入及財産ヲ擔保トスル限り日支間ニ豫メ協
定スルヲ要スル旨支那側ノ注意ヲ一應喚起スルコト如何

(付記)

普通第五三六號

(昭和7年12月13日接受)

昭和七年十一月二十九日

在濟南

總領事 西田 畊一(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

膠濟鐵路回收方ニ關スル葛委員長ノ談話要領

報告ノ件

本件ニ關スル王正廷ノ談話ニ付キテハ本月二十六日附普通
第五三三號拙信ヲ以テ報告シ置キタル處今般同理事會ニ參
加シ當地經由歸青セル膠濟鐵路委員長葛光廷ハ本月二十七
日記者ニ對シ理事會ノ狀況ニ付左ノ通り談話セリ
今回ノ理事會ハ殆ント回收問題ノ討論ニシテ本月二十五日
開會シ出席者ハ理事長王正廷、理事崔士傑、薩福均及自分
ノ四名ナリシカ各人共膠濟鐵路ノ滿期近キニ在リ速ニ回收

331

昭和8年3月27日 在張店福士(堯行)出張所主任より
内田外務大臣宛

告ノ同總領事應酬振ハ機宜ニ適スルモノト認メラルル處
元來本件回收ハ(イ)外資ニ依ルコトヲ得サルモノナルハ勿
論(ロ)所謂變態の外國借款ヲ以テスルコトモ我方トシテ承
認シ得ヘキ限リニ非ルノミナラス(ハ)假令内債ニ依ル場合
ト雖我方ノ同意ナキ以上鐵道財産及收入ヲ右内債ノ擔保
ト爲シ得サルハ山東懸案鐵道細目協定第九條ニ明定セラ
レ居ルコト御承知ノ通りナリ
ニ、尤モ支那現時ノ財政金融狀態ニ鑑ミ本件回收計劃ハ實現
方至難ト思考セラレ旁我方ニ於テ右回收計劃ヲ氣ニ病ミ
居ルカ如キ印象ヲ支那側ニ與フルコトハ之ヲ避クルヲ要
スルモ適當ノ機會ヲ利用セラレ葛委員長其他鐵路局側ニ
對シ前記(イ)(ロ)ノ點ノミナラス(ハ)ノ點即チ國庫證券回收ノ
爲ノ内債ヲ募集セントスル場合ニモ帝國政府ノ許諾ナク
シテ此等財産及收入ヲ右内債ノ擔保トスルコトハ協定違
反ナル旨ヲ可然注意シ置カルル様御取計相成度
本信寫送付先 在支公使、南京、上海、天津

ヲ準備スヘキ時ニシテ殊ニ日本金ノ下落ハ難得キ好機會ナ
リ現在國庫ニ於テ四千萬元ノ支出ハ至難ナルニ付公債發行
ニ依ルコトニ贊成シテ全體通過ヲ見タルカ其ノ發行ノ手續
ニ關シテハ政府又ハ本路若クハ人民團體ヨリ發行スルヤ否
ニ付中央ノ決定ヲ俟ツヲ要シ理事會ハ鐵道部ニ照會シ同部
ヨリ行政院ヲ經テ國府會議ニ提出ノ上決定施行セラルヘシ
將來公債ヲ發行スルニ當リ本路ヲ擔保トセハ皆踴躍シテ購
買スヘシ
而テ中央ヨリ國家政府或ハ地方政府ニ論ナク膠濟鐵路ノ款
項ヲ流用シ得ス又如何ナル軍隊モ本路ノ車輛ヲ抑留使用ス
ルヲ許ササルコトヲ命令シ以テ本路ヲ維持スヘシ目下日金
一圓ハ我國貨幣ノ八十仙ニ相當シ將來引續キ下落スルヤモ
知レサレハ三千萬元ノ公債發行セハ足ルヘク若シ辦理シ得
サル間ニ日金カ「フラン」ノ如ク金貨、紙幣ト區別セラル
レハ我國ハ大損失ヲ招クニ至ルヘシ
本路ノ營業成績ハ毎日現金收入四萬元記帳セラルルヲ合セ
ハ約五萬元トナリ本路ノ運賃減收ヲ示セルモ一時ノ現象ニ
過キスシテ營業成績ハ年々進展シ居レハ將來ノ希望甚大ナ
リ云々

330

昭和8年3月24日 内田外務大臣より
在濟南西田總領事
在青島坂根(準三)總領事 宛

膠濟鐵路國庫証券償還に充當する募債の担保
に關しては我が方の承認が必要の旨中國側へ
注意喚起方訓令

亞一機密合第二九八號

昭和八年參月廿四日

外務大臣伯爵 内田 康哉

在濟南

總領事 西田 畔一殿

在青島

總領事 坂根 準三殿

膠濟鐵路國庫証券回收計劃ニ關スル件

一、本年一月十七日附在濟南西田總領事來信機密第二八號報

張店・索鎮間に膠濟鐵道支線完成の場合の邦
人に与える經濟的影響について
機密第四八號 (4月4日接受)

昭和八年三月廿七日

在張店

出張所主任 福士 堯行(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

張索支線ト在留邦人トノ關係ニ關スル件

膠濟鐵路局ニ於テハ豫テヨリ張店ヨリ索鎮ニ至ル支線敷設
ノ希望ヲ有シ居タル處今同小官當地鐵路警務段ヨリ得タル
消息ニ依レハ張索支線ノ敷設問題ハ既ニ決定シ大体測量ヲ
終リシヲ以テ土地買收ノ段取りトナリ居ル處時恰モ一箇年
中最モ地價低廉ノ時期ナルヲ以テ近ク買收ニ着手スル苦ナ
リ但何時頃ヨリ起工スルヤ判明セスト
依テ小官ハ更ニ工務段及車務段等ニ就キ内容探知ニ努メタ
ル處此ノ方面ノ消息ハ全然反對ニテ
敷設ノ希望アルコトハ事實ナルモ土地買收並敷設費用等
調達ノ方法ナク又索鎮迄ノ支線ヲ敷設シタリトテ同地及
其沿線地方ノ實情ヲ按スルニ左迄有望ナリトハ認メ難ク

(欄外記入)

332

昭和8年3月30日 内田外務大臣より
在仏国長岡大使宛(電報)

急ニ敷設スルカ如キ計畫ナシ云々
トノコトナルカ偶閣下宛在博山出張所主任發本月十七日附
機密第五九號報告未段ノ次第モアリ或ハ警務段側ノ消息カ
事實ナルヤニ思考セラル
抑モ索鎮ハ當地ノ北方約四十支里ノ地點ニ在リ小清河ノ支
流烏河ノ東南岸ニ位スル部落ニシテ小清河ヲ經テ東羊角溝、
西濟南方面ト水運ノ便アリ張店ト共ニ桓臺縣内ニ大村落ノ
一二數ヘラレ市街ハ東索鎮、西索鎮ニ區別セラルルモ其距
離約三支里ニシテ戸數約一千五百戸ニ過キサルモ附近ニ於
ケル百數十個村ト共ニ一大土塀ニ圍マレ塀内ノ部落ニ對シ
恰モ中央市場タルノ觀アリ
當地ヨリ博興、蒲臺等ノ各縣ニ通スル舊大道ノ要衝ニ當リ
當地ヨリ博興縣城ニ至ル乗合自動車ノ中間停車場アリ支那
人側ニ於テハ支線問題ヲ離レテ將來商業地トシテ發展ノ見
込アリト稱シ有望視シ居ル者アリ尙同地ニハ桓臺縣第三區
區公所アリ
次ニ該支線ノ敷設カ當地方面ニ如何ノ影響ヲ來スヘキヤニ
付卑見大要左ノ如シ
(一)索鎮ヲ中心トスル一般商取引ハ主トシテ周村トノ間ニ行
セシムルコト緊要カト思考セラルル處右ニ關シ本省ニ於
テ適當ノ時期(即チ張索支線開通前)ヲ利用シ何等カノ名
目又ハ方法ヲ以テ邦人ノ同地ニ於ケル居住營業ノ途ヲ啓
カントスル御意嚮ノ有無ニ付豫メ小官含ミ迄ニ御方針御
内示相仰度此段報告旁訓請ス
本信寫送附先
在支公使 在濟南總領事
在青島總領事
在博山及坊子出張所主任
(欄外記入)
經費ハ鐵路收入中ヨリ支出スルモノナルヤ張博支線ノ場合ト
同様支出承認方ヲ我方ニ申出テシムル様仕向クルヲ要ス(會
計主任ヲ通シ)
我方ヨリハ右ヲ承認スルト共ニ延長線ハ当然膠濟線ノ一部ナ
ルコトヲ明ニシ置クヲ要ス

ハルル處該支線完成セハ恐ラク周村ヲ經由セス直接取引
開始セラレ周村ハ中繼市場タルノ地位ヲ失フヘシ
(二)張店トシテハ一般取引上殆ト影響ヲ受クルカ如キコトナ
カルヘキモ棉花取引ニ對シテハ日支人共多大ノ打撃ヲ被
ルコトナルヘシ何トナレハ當地方出廻棉花ノ產地ハ黃
河以北ノ各縣最大部ヲ占メ之ヲ荷馬車ニ依リ當地ニ輸送
シ來ル處張索支線開通セハ是等ノ棉花ハ自然產地ニ近キ
索鎮ニ集中スルコトナリ當地棉花問屋ハ勢ヒ同地ニ移
轉セサルヘカラサルニ至ルヘシ
次ニ在留邦人トノ關係ヲ按スルニ當地在留民ノ營業トシ
テハ棉花取引最重要ノ地位ヲ占メ現ニ日華蠶絲株式會社
棉花部及日本棉花株式會社等ノ出張所アリ又最近東洋棉
花株式會社ノ進出アリ其他個人經營ノ問屋又ハ其從屬者
多數アル處若シ卑見(二)ノ通り棉花取引ノ中心カ索鎮ニ移
リ而シテ支那側ハ同地カ未開放地タルノ理由ニ依リ邦人
ノ在留ヲ拒絕スヘク然ラハ即チ邦人ノ打撃極メテ甚大ナ
ルモノト思考セラル
就テハ張索支線敷設ノ場合同地モ膠濟沿線ニ於ケル邦人
在留地同様支那側ヲシテ邦人ノ居住營業ヲ少クトモ默認
ベルギー實業家よりの汴洛(開封—洛陽)鐵道
利權讓渡方申入れに對し我が方による買収は
困難なる旨回答方訓令
付 記 昭和七年十二月二十一日付在仏国栗山(茂)臨
時代理大使より内田外務大臣宛公信機密公第
七三二號
右ベルギー實業家申入れについて
本省 3月30日後4時0分發
第七三號
客年十二月二十一日附貴信第七三一號ニ関シ
同人申出ノ次第ハ多トスルモ支那最近ノ混亂狀態ニモ顧ミ
此ノ際我方トシテ本利權ヲ買取ルコトハ困難ト存スルニ付
右可然回答アリタシ
(付 記)
機密公第七三一號 (昭和8年2月8日接受)
昭和七年十二月二十一日 在佛
臨時代理大使 栗山 茂(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

汴洛鐵道利權讓渡申出ニ關スル件

(欄外記入)

○^蘭海汴洛鐵道等ノ利權ヲ有スル白耳義「ソシエテ、ジェネラル」前社長ノ息ニシテ巴里ニ常住スル Bayens 男爵最近當館ヲ來訪シ館員ニ對シ極秘トシテ大要左ノ通り申出タリ自分ハ亡父ノ關係上「ソシエテ、ジェネラル」ノ大株主ニシテ一九一一年ヨリ二五年迄「カルカツタ」市ノ「タキシ」會社ヲ所有シ現ニ「コンゴウ」鐵道其他鐵道會社ノ社長又ハ重役ニシテ日本及支那ヲ熟知シ居ルモノナルカ昨年中東京ニテ陸相ヨリ駐日白耳義大使ニ對シ支那ニ於テ白耳義ノ有スル鐵道利權讓渡方ニ關シ開談セラレタルモ同大使ニ於テ逡巡シ正式ニ本國ニ取次カサリシ關係モ有リ本件立消トナリタル消息ヲ「ソシエテジェネラル」側ヨリ承知シ居レリ右ハ日本側ニ於テ直接白耳義大使ニ話サレ非公式ニ事業家又ハ銀行等ヲ通シ爲サレサリシ爲不調ニ終レルモノト思ハルルニ付若シ日本側ニ於テ今尙汴洛鐵道等ニ關シ利權買取ノ御希望アルニ於テハ自分ニテ其間ニ立チ白耳義側其他ト内密折衝シ取纏メ得ヘキ見込有リ(之等鐵道ニハ白耳義「シンジケイト」ノ外佛國及和蘭ノ資本モ入り居ル處和蘭

ニ返事ノ都合モアルニ付陸相ノ白耳義大使ニ對スル話ナルモノ、眞相陸軍側ヘ問合中 守島

333 昭和8年5月2日 在中国有吉公使より 内田外務大臣宛(電報)

中国鐵道部と仏國財團間に正太鐵道收入を担保とする鐵道材料供給借款成立の情報について

上海 5月2日後発
本省 5月2日後着

第二二三號

客年往電第一二九七號ニ關シ

一日白耳義「シンヂケイト」代表者「ランベール」ノ館員ニ對スル談何等御參考迄左ノ通

○[○]沽石鐵道借款ニ關スル「マルタン」豫備契約ハ結局不成立ニ終リ正太鐵道ハ一名ノ佛人「オーデイター」及數名ノ佛人技師ヲ殘シ支那側ニ回收セラレタルカ鐵道部長顧孟餘ハ本年初メ更ニ自分ニ對シ隴海線延長、潼關、西安間鐵道材料借款ノ締結方申出テ來レリ

右借款ノ内容ハ

ハ持分ヲ手離ス見込有リ佛國側ハ同國外務省ノ諒解無クテハ手離ササルヤモ知レス)

自分ハ支那ニ於ケル事業ノ有利ナルコトヲ熟知シ居ルモ現在ノ如キ支那ノ政情ニテハ鐵道事業等モ利潤上ラサルヲ以テ支那ニ於テ實力ヲ有スル日本ニ經營ヲ譲リ其代リ將來白耳義ヨリ鐵道材料購入ノ約束ヲ得以テ支那ニ於ケル市場ヲ確保スルヲ得スト信シ之カ爲ニハ支那ニ於テ各國利權カ侵害セラレ居ル實狀ヲ歐洲人ニ知ラシムル要有リト思考シ先般汴洛鐵道公債ノ現狀ヲ株主其他ニ知ラシムルコトヲ主唱シ實行セル次第ニテ今回ノ申出モ何等自分ニ於テ口錢其他仲介ニ依リ利得スル考ヘ有ル譯ニ非ス云々

同人ハ當地ニ於テ相當社會上ノ地位ヲ有シ來年自分ノ「ヨツト」ニテ印度「ジャバ」方面ヲ經テ本邦ニ渡來スル計畫ヲ有スル趣ナルカ前記同人ノ申出ニ關シ何分ノ儀電報ヲ以テ御回示相成度

本信寫送付先在白大使

(欄外記入)

此ノ際汴洛鐵道買收ノ如キハ問題トナラスト思考スルモ先方

(一)金額三千五百萬乃至四千萬法

(二)擔保ハ正太鐵道ノ收入(「シンヂケイト」ヨリ正太鐵道ニ會計主任(チーフ、アツカウナント)ヲ入ル)

(三)材料ハ「フィツクスド、エキイプメント」及「ローリング、ストツクス」トスル

等ナルカ白耳義側ニ於テハ正太鐵道ニ對シ白耳義「シンヂケイト」ノ擔保權侵害及汴洛鐵道借款ニ關スル金法問題ノ未解決ヲ理由トシテ右契約ノ引受方拒絕シタル經緯アル處其ノ後聞ク處ニ依レハ當地「フレンチ、シンヂケイト」關係者 Pavlovsky (Le Matériel Technique 支配人)ハ二月末(或ハ三月初)大体右條件ニテ極秘裡ニ鐵道部トノ間ニ本件契約ノ締結ヲ了シタルモノノ如ク(此ノ點ハ當方ニテ「パ」ノ北上前確メ得サリシモ)白耳義公使館(正太鐵道ニ對シ擔保權侵害ヲ理由トスル)及佛國公使館(正太鐵道借款支拂ニ關スル金法問題ヲ理由トスル)ハ右ニ對シ支那政府ニ夫々抗議ヲ提出シタル趣ニテ「パ」今回ノ北上ハ本件ニ關スル佛國公使館側ノ了解取付ノ爲ト認メラル(本件發表見合サレ度シ)

北平、天津、滿、奉天、南京ヘ轉電セリ

334 昭和8年5月8日 在中国中山公使館一等書記官より
内田外務大臣宛(電報)

仏国財団の鐵道材料供給借款は対象鐵道が不
特定のため我が方既得の滄石鐵道借款契約に
抵触せずと同財団関係者談話について

北 平 5月8日後着
本 省 5月8日後着

第一九六號

公使發閣下宛電報第二三三號ニ關シ

六日 Pavlovsky カ極秘ノ含ミヲ以テ須磨ニ内話セル處左
ノ通り

(一)三月初メ大體冒頭往電ノ條件ニテ上海「フレンチ、シン
ヂケート」ハ鐵道部トノ間ニ鐵道材料供給ノ契約ヲ締結
シ既ニ一ヶ月前ヨリ開始シ本年内ニハ供給ヲ終了スル豫
定ナリ

(二)支那側ハ右供給ヲ潼關、西安間隴海線沿長線ニモ使用ス
ルモ主トシテ榆次、太谷間(太原ノ南)正太線沿長線三十

(五)「マルタン」ノ滄石鐵道案ハ目下ノ處問題ト成ラサルモ
佛側ニテハ右案ヲ是非トモ實現シ度ク思ヒ居リ實際上ノ
見地ヨリ日本ノ契約ニ抵触セサル様日佛合同ニテ實現ノ
運ヒト成ラハ最モ妙ナルヘク何レ本案具體化ノ時期トモ
成ラハ佛側ヨリ日本側ニ協議スヘシ云々
支、天津、南京、滿、奉天ニ轉電セリ

335 昭和8年6月14日 在青島坂根總領事より
内田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道材料購入に際する日本製品不買問題
に關し葛光廷同鐵路管理委員會委員長と意見
交換について

青 島 6月14日後着
本 省 6月14日後着

第八二號

膠濟鐵道ト當地在留邦人トハ其ノ關係經濟的ニ餘リニ密接
ナル丈ニ從來トモスレハ双方感情ノ齟齬ヲ來シ折合ヒ圓滿
ヲ缺ク恨アリ本官ハ着任以來特ニ此ノ點ニ留意シ之カ改善
ニ努力シ居レルカ最近又復膠濟鐵道ノ日本品不買ニ對シ本

六料ノ建設用ニ供スル筈(正太本線ハ「ナロー、ゲージ」
ナルモ今回ノ機關車ハ全部「スタンダード、ゲージ」ナ
ル處右ハ支那側カ今後ハ全部「スタンダード、ゲージ」
ヲ採用セントスル計畫ニヨル)ニテ借款ハ五年間ニ正太
鐵道ノ收入ヨリ支拂フ

(三)本契約ハ材料ノ供給ニシテ其ノ使用セラルヘキ鐵道ヲ特
定シ居ラサルカ故ニ日本側ノ滄石鐵道案ニモ抵觸スル事
ナク又一見白耳義「シンジケート」ノ正太鐵道收入上ニ
有スル擔保權ヲ侵害スルノ感アルモ元來白耳義側ノ權利
ハ右鐵道收入ノ「サープラス」ニ存シタルカ事實上ハ從
來支那側カ右「サープラス」ヲ流用シ常ニ擔保權ヲ侵害
セラレ勝チナリシニ今回ノ契約ニ依リ「フレンチ、シン
ヂケート」カ鐵道收入中ヨリ白耳義ノ分ヲモ支拂フ
Scheduleヲ建テタルニ依リ白耳義公使「ギョーム」モ右
ハ從來ノ實際上ノ侵害ヲ免カルル事ヲ得テ却テ白耳義ニ
トリ利益ナリト欣ヒ居レリ

(四)佛側ノ正太鐵道ニ對スル監督ヲ嚴重ニスル爲「ウィルデ
ン」公使トモ相談ノ結果再ヒ六名ノ技師ヲ更ニ増加シテ
收入及其ノ確保等ノ方法ヲ講ス

邦商ノ不平甚タシクナレル(脱)ニモアリ旁々一度葛委員長
ト隔意ナキ意見ノ交換ヲ希望シ居リタル處漸ク昨十二日其
ノ機ヲ得(葛ハ時局ノ爲殆ント不在勝ナリ)約二時間ニ亘リ
懇談ヲ遂ケタル結果相當ノ收獲アリ其ノ内本省ノ御參考ト
ナルヘキ點左ノ通

一、先ツ本官ヨリ鐵道材料購入ニ際シ日本品ヲ除外スルノ非
ヲ指摘シ之カ取締方要求セル處葛ハ滿洲事變以來其ノ傾
向アリタルハ事實ナルカ自分トシテモ環境上之ニ容喙困
難ナリシ處最近ニ於テハ一般對日空氣幾分緩和シ來レル
ヲ以テ今後ハ掛貝ニ對シ國籍ヲ論セス廉價第一主義ニテ
進ムヘキ旨充分指示ヘシトテ略々満足スヘキ回答ヲ與ヘ
二、次テ本官ヨリ鐵道ノ改善問題ニ言及スルヤ葛ハ本鐵道モ
五ヶ年後ニハ四千萬元ヲ償却セサルヘカラサル次第ニア
リ鐵道部及理事會ヨリ返還見込ノ有無ニ關シ喧シク諮問
アリタルヲ以テ不取敢鐵道財產六千萬元ヲ擔保トスル四
千萬元ノ公債發行案ヲ回答シ置キタルカ右ハ實ノ處單ニ
鐵道部ニ對スル申譯ニ過キス自分ハ他ニ幾多ノヨリ有利
ナル投資事業アリ今日直ニ四千萬元ノ金額ノ應募ヲ見ル
ヘシトハ期待シ居ラス從テ借款ノ償却ハ事實上ハ不可能

三、⁽³⁾

ノ儀ト豫想スルモ左リトテ此ノ儘放置センカ期限到來ト共ニ日本ハ返還不能ハ經營拙劣ニ依ルト爲シ技師ハ日本ヨリ派遣スヘシトカ工務局長モ日本人ヲ雇傭スヘシトカ又利息モ加重セサルヘカラス等種々ノ條件ヲ強ユルコト無キヲ保シ難キヲ以テ出來得ル限りノ努力ヲ試ミ居レル次第ナルカ自分ノ試案トシテハ日本カ過酷ナル條件ヲ持出ササルニ於テハ借款償却期限ヲ更二十年乃至十五年間延長スルコト日支双方ノ爲尤モ適切ナル方策ナルヘシト思考シ居ルニ付貴總領事ニハ適當ノ機會ニ於テ日本ノ當局ニ御執成シ置キアリ度必要ノ場合ニハ自分ノ意見トシテ御傳ヘアルモ差支ヘ無シ云々ト語リタリ

三、⁽³⁾本官ハ右延期案ニ對シテハ期間到來ニ未タ間モアルコトナレハトテ一應輕ク了承シ置ク程度ニ止メタルモ本年三月廿四日附亞一機密合第二九八號内ノ御趣旨ヲ徹底セシムルニ絶好ノ機會ナリト思考シタルニ付將來ノ誤解ヲ避クル爲申入ルル次第ナルカト前提シ近來一、二上海方面ヨリ聞込ノ點アルモ膠濟鐵路ノ回收ニハ條約上一定ノ制限アル義ニ付其ノ邊ハ平素ヨリ充分留意セラルル要アリトテ前顯御訓令ノ各項ニ付例ヲ擧ケテ敷衍説明シタル處

シテ從來ノ各種懸案就中最モ困難ナル土地問題ノ實際的解決ニ努ムル事ト致度ク尙各種不當課稅等ノ問題ハ性質上中央政府ニテ引掛カリ當地限り解決シ難キ點多キ所北平分會成立シテ青島特別市ヲ含ム山東全省其ノ管轄下ニ入りタル今日鐵道關係ノ交渉案件ト共ニ漸次南京交通部實業部財政部等ヨリ切離サレ北平分會ニ歸屬スル事トモナラハ或ハ一層妙ナルヘク何レニシテモ其重要ナルモノハ豫メ一々本省ノ御指圖(ヲ)仰ク考ナルト同時ニ將來當館ト南京、上海、又ハ北平、天津トノ聯絡ヲ一層緊密ニスル要アルヘシト存シ居レリ

二、⁽²⁾對鐵路局關係、從來市政府ニ比シ交渉上兎角遺憾ノ點鮮カラス居留民側ノ不平絶ヘサリシ處右ハ主トシテ幹部カ委員制ナルト殆ント事毎ニ中央ノ意嚮ニ從ハサルヲ得サル關係ニ基クコト多キ次第ナルモ山東ノ開發上膠濟鐵道ノ健全ナル發達ヲ望マサルヲ得サルハ申迄モナク且當地並沿線ニ於ケル交渉案件モ相當數ニ上リ居ルニ付最近同局ノ態度著シク改善ノ徴ヲ示シ來レルニ乘シ此上トモ聯絡ヲ圓滿ニシ懸案解決ニ資スル様努力シ居レリ

三、⁽³⁾居留民關係、土地柄特ニ之カ善導方ヲ必要トスル點アル

葛ハ充分承知シ居レリト答ヘタリ

支、北平、南京ニ轉電シ濟南ニ暗送セリ

336 昭和8年6月23日

在青島坂根總領事より
内田外務大臣宛(電報)青島市政府および膠濟鐵路局の対日態度なら
びに青島居留民団への指導対策について青島 6月23日後発
本省 6月23日後着

第九四號(極秘)

⁽¹⁾本官當地着任以來既二三ヶ月半、支那側各方面トノ接觸モ一應ツキ當地並ニ膠濟鐵路沿線各地在留邦人ノ實況ヲモ一通リ体得シタル積リナルカ私見ニ依レハ當館差向ノ主ナル仕事ハ

一、對市政府關係、沈鴻烈ヲ首班トスル市政府一体ハ當館、日本海軍及一般在留邦人トノ關係引續キ良好ニシテ近來沈ノ市長トシテノ地位モ落付キ更ニ北平分會ノ政治委員ニモ任命セラレタル結果、彼トシテモ親日政策實行ニハ益々都合宜シカルヘキニ依リ本官ハ極力此ノ氣運ヲ善用

コト往電第八五號ノ通ナルカ一方民團内部ノ紛糾ハ當館ノ嚴重ナル監督ノ下ニ大体ニ於テ漸次改善シツツアリト申得ヘク目下三百萬圓低資返還問題ニ關シ居留民間ニ相當議論沸騰シ居ルモ本官ニ於テ此ノ際民團側ノ意見ヲ一層的確ニ取纏ムル要アリト認メ民團當局ニ對シテ成案提出方折角督促中ニ付近々改メテ請訓ノ運ニ至ルヘク翻テ當地在留邦人ノ一般經濟狀況ハ他地ニ比シ現今概シテ良好ノ方ニシテ精肉輸出組合商其他土産物輸出商カ半數不況ニ苦ミ居レルヲ除キ各種日支合辦事業並ニ紡績業、水産業等當館トシテ特別ノ注意ヲ要スル方面何レモ前記市政府及鐵路局等ニ對シ懸案アル以外格別ノ難問題無ク差當リ大体順調ニ進ミ居レルニ付精々係官ヲ激勵シ山東ノ資源調査及物産、商況報告ノ方面ニモ及フ限り身ヲ入レシメ此ノ上トモ邦人ノ經濟的發展ヲ助成シ度考ヘ居レル次第ナリ

右當地最近ノ一般情勢何等御參考迄卑見ト共ニ電報ス

337 昭和8年6月23日

在南京日高總領事より
内田外務大臣宛

道清鐵道(道ロ―清化鎮)の濟南への延長問題などに関する同鐵路管理局長の新聞談話について
普通第三四六號
(7月4日接受)

昭和八年六月二十三日
在南京

總領事 日高 信六郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

道清鐵道延長ニ關スル件

道清鐵道管理局長范子遂ハ數日前來京シ鐵道部ト本件延長問題ニ關シ種々接洽中ノ趣ナル處往訪ノ新聞記者ニ對シ同鐵道ノ營業狀態、濟南迄ノ延長線築造問題、債務整理問題等ニ關シ語レルトコロナリトテ六月十九日中央日報ノ報道ニ據レハ

同鐵道ハ距離短少ナルカ爲營業頗ル不振ニシテ收入ノ大宗ヲ占ムル石炭ノ運輸モ毎月ノ平均收入僅カニ十餘萬元ニ過キス本年一月ヨリ責任運輸ヲ實行シツ、アリ最初ノ試ミトシテ二期ニ分チ第一期即チ一月ヨリ三月迄ヲ三里灣、道口、新鄉新站、焦作、水化ノ五驛間トシ第二期ヲ全線間トシテ實施セルカ現在ノトコロ昨年ニ比シ貨物運搬噸數及收入共

稍々増加セルヲ以テ此ノ上實直ニ整頓セハ毎月十五六萬元ヲ得ル見込ニテ目下平漢、津浦、隴海ノ三鐵路當局ト四路聯絡運輸辦法會商中ナリ

次ニ道清鐵道ノ豫定計劃ハ濟南迄築造スル筈ナリシトコロ經費ノ關係ニテ未タ起エスルニ到ラス現在ノ英商福公司 Peking Syndicate ニ對スル未拂債務ハ巨額ニ上リ居リ債務償還能力、營業發展、旅客ノ利便ヲ圖ランカ爲豫定計劃通り濟南迄延長スルコトニ決定セル次第ナルカ唯相當巨額ノ資金ヲ要スルヲ以テ二期ニ分チ實行セント目論見居レリ第一期トシテ先ツ大名迄延長スルコト、シ之カ所要經費四百萬元ナルカ右ハ Peking Syndicate ニ於テ材料費ヲ出資スル希望ヲ有シ居ルニ付鐵道部ヨリ築路經費支出ニ關シ何等問題ナクハ遠カラス起工ノ運ヒトナルヘク第二期ハ更ニ之ヲ濟南迄延長シ以テ石炭運輸ノ發展ヲ期セントスルモノナリ尙同鐵路借款ハ三種アリ何レモ Peking Syndicate 關係ノモノニシテ鐵路借款八十萬磅、車輛借款十二萬六千磅清孟借款(清化ヨリ孟縣ニ至ル鐵路)八萬七千磅計一百餘萬磅ナルカ鐵路借款ハ民國十五年ヨリ元金ヲ償還シ居ラス車輛借款ハ十四年下半年ヨリ利息ノ支拂ヒヲ十五年ヨリ元金ノ償

還ヲ爲シ居ラサルヲ以テ Peking Syndicate ハ現在頻リニ催促シ居ル有様ニテ自分(范)カ局長ニ就任以來精意整頓ニ當リ毎月收入ノ百分ノ十ヲ積立テ利息支拂ニ充當シ居ルヲ

以テ本年末ニ到ラハ先ツ五十萬元ヲ還シ得ル見込ナリ將來若シ全線延長ノ完成ヲ見收入増加セハ借款償還能力モ隨ツテ増加シ得ヘシ清孟借款ハ當時局ニ當リタル者ノ不用意ニヨリ高率ノ取極メヲ爲シタル爲自分ハ目下鐵道部當局ト之カ契約取消方接洽中ナリ云々

右何等御參考迄報告ス

本信寫送付先

公使 北平 濟南 青島 天津

338 昭和八年七月七日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛

海州築港および隴海鐵道支線建設計画に関する同鐵路工務処長の新聞談話について

公第二四九號 (接受日不明)

昭和八年七月七日

在中華民國

特命全權公使 有吉 明

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

海州築港及隴海線支線設計畫ニ關スル件

本件ニ關シ隴海鐵路工務處長吳士恩ノ談トシテ新聞ニ報道セラルル所御參考迄別紙ノ通り譯報ス

本信寫送付先 北平 天津 青島 濟南 南京 漢口

(別紙)

一、隴海線東端タル海州港築港ハ隴海線及海州ノ繁榮ニ關係スル所大ナレハ從前ヨリ種々計畫アリ即チ最初ノ計畫ニ依レハ三千萬元ヲ以テ大港ヲ建設セントスルモノナリシモ資金籌劃ノ見込ナキ爲中止ノ形トナリシカ昨年度ニ至リ豫算ヲ縮少シ百餘萬元ヲ以テスル築港計畫ヲ立テ一般商人ヨリ見積リヲ徴シタルニ何レモ豫算額ヲ超過セル爲是亦中止ノ已ムナキニ至レリ今春ニ至リ鐵道部ヨリ和蘭治港公司(曩ニ香港及胡芦島ノ築港ヲ請負ヒタルコトアリ經驗ニ富ム)ヲ紹介セラレ鐵道部及隴海鐵路局員ト共ニ同公司派遣ノ技師「トンプ」(登堡)ト共同調査ノ結果一勞永逸ノ見地ヨリ昨年度ノ計畫ヲ變更シ稍規模ヲ擴大

スルコトトシ上海ニ於テ該公司代表劉俊峯ト隴海鐵路局トノ間ニ該港建設請負契約ニ調印セリ
其ノ内容ハ大体

(一)建設費ヲ三百萬元トシ隴海鐵路局ヨリ之ヲ負擔支出ス
(二)該工事ハ本年七月一日ヨリ起工シ十八ヶ月間ヲ以テ完了ス之ニ要スル一切ノ材料ハ該公司ヨリ供給シ支那側ニ於テハ之カ運輸上ノ便宜ヲ與フ

(三)支那側ヨリ築港設計書ヲ提出シ且邵福^(本方)ヲ工事監督ノ爲派遣ス

ニ海州港ノ埠頭ハ老窖ニ建設シ長サ六十米幅三十五米三千噸ノ船舶ヲ繫留シ得ヘク滿潮ニ際シテハ五千噸ノ船舶モ繫留セシメ得ル見込該埠頭ノ基礎工事ハ地下六米ヨリ始マリ十三米ノ水深ヲ有ス港口ニハ浚渫作業ヲ行ヒ船舶ノ航行ヲ自由ナラシム又船渠ヲ設ク防波堤ノ長サ一千五米トス現ニ和蘭治港公司ハ技師ヲ派シ墟溝老窖間ニ材料器機ヲ運搬シ工事使用ノ人夫ヲ募集中ナリ

三、隴海鐵路局ハ東段ノ業務發展ノ爲趙屯(隴海線ハ義集停車場附近)ヨリ宿羊山、東輻山經由山東省台兒莊ニ至ル台趙支線建設計畫中ナリ

(欄外記入)

右契約上ノ權利ヲ主張シ得ヘキ義ナリ然レ共從來滿鐵側ニテハ國民政府ノ排日氣分ニモ顧ミ後日ニ於ケル支那側トノ折衝ノ餘地ヲ存シツツ差當リ不即不離ノ態度ニテ進ム外ナシトノ意向ナリシ處偶々滿洲事件ノ勃發ヲ見タルニ依リ本件ニ付積極的態度ニ出ツルコト愈々困難トナリ客年佛國側「マルタン」活動ノ際ニモ在支公使ヨリ國民政府ニ抗議(六月三日附覺書)スルニ止メ事態ノ推移ヲ見守ルコトトセル次第ナリ(第五十七及第六十四議會用亞一調書鐵道ノ部參照)然ルニ最近滿鐵北平事務所報ニ依レハ昭和四年ノ契約當事者タリシ何澄ハ北平ニ於ケル黃郛ノ顧問格トシテノ用務終リ次第南方ニ歸リ右契約復活運動ニ盡力スル筈ナリトノコトナル處(北平來電第二九〇號三モ本件ニ何等關係アルヤモ知レス尙北支ノ實權者ハ黃郛ナルヲ以テ當方トシテハ本件ノ如キハ黃郛ヲ相手方トシテ實現シ度キ意向ナル)近來國民政府ノ對日態度轉換ノ傾向アルノミナラス本件鐵道ハ北支政權ノ管轄區域内ニ存スルコトニモアリ加フルニ前記佛國側計畫カ停頓ノ形ニアルニモ顧ミ昭和四年契約ノ復活又ハ新契約ノ締結ヲ計リ以テ北支ニ於ケル我地歩確立ニ資スルコト事宜ニ適スト存ス仍テ再應滿鐵側ト協議ノ結果

右ハ中興公司經營ノ臨機台兒莊間ノ鐵道ト隴海線トヲ連結シ中興公司ノ石炭輸送ニ便セントスルモノニシテ最初同公司ヨリ出資ノ議アリタルモ鐵路利權ノ關係上隴海鐵路局ニテ引受クルコトトナリ既ニ測量ヲ終リ土地買収ヲ開始シ二ヶ月以内ニ之ヲ完了シ起工後一ケ年以内ニ完成ノ見込ナリ

339

昭和8年7月17日

内田外務大臣より
在中国有吉公使、在中国中山公使館一等書記官、在濟南西田總領事他宛(電報)

昭和四年滄石鐵道借款契約の復活ないし新契約締結のため中国側と交渉開始方訓令

付記 七月十七日付、作成局課不明

「滄石鐵道ニ關スル滿鐵側意嚮ニ關スル件」

本省 7月17日後10時0分発

合第一三八三號(極秘)

昭和四年訓印ノ滄石鐵道借款契約ニ關シテハ同年末華昌公司ヨリ契約取消方承諾ノ旨支那側ニ通告セルモ其ノ後該通告紛失シ居ルコト御承知ノ通りニシテ我方トシテハ引續キ

同社ニ於テハ本件ニ對シ出資ノ用意ヲ有スル趣ナリ就テハ敍上ノ次第御含ノ上結局我方ノ目的ヲ達成スルニ至ル様可然御配慮相成ルト共ニ此ノ上共必要ノ情報隨時報告アリ度尙ホ本件ハ絕對ニ外部ニ漏洩セサル様特ニ御留意相成度本電宛先支、北平、濟南、天津

支ヨリ訓令トシテ南京へ、濟南ヨリ訓令トシテ青島へ轉報アリ度シ

尙ホ濟南又ハ青島ニ於テ市吉^{イナヨシ}ニ對シ本電ノ趣旨可然内示セラレ度

(欄外記入)

發電前滿鐵ト打合ノコト

七月十七日スミ

(付記)

(昭和八年七月十七日)

滄石鐵道ニ關スル滿鐵側意嚮ニ關スル件

當方ヨリノ要求ニ依リ滿鐵大淵支社長ハ同本社ニ對シ本件滄石鐵道計畫カ進捗スル場合滿鐵側單獨ニテ又ハ佛國側ト

共同シテ同鐵道ニ出資スル決心アリヤ問合中ナリシ處同支社長ヨリ十七日守島亞一課長ヘノ電話ニ依レハ滿鐵本社ニ於テハ重役會議ノ結果條件如何ニヨリ滿鐵單獨ニテ本件計畫達成ノ爲出資スル用意アリ又情勢如何ニ依リ佛國側ト共同スルモ差支ヘナキ旨電報アリタル趣ナリ

340

昭和8年7月17日
内田外務大臣より
在中国有吉公使、在中國中山公使館
一等書記官、在南京日高總領事他宛

最近の日中關係好転および華北政局安定に鑑み
汴洛鐵道利權讓渡申入れへの対応振り再検討の意向について

亞一機密合第八二二號

昭和八年七月拾七日

外務大臣伯爵 内田 康哉

在中國特命全權公使 有吉 明 殿
在北平公使館一等書記官 中山 詳一 殿
在南京 總 領 事 日高信六郎 殿
在濟南 總 領 事 西田 畊一 殿

機密公第七三一號

昭和八年五月三日附澤田參事官宛半公信
(同半公信附錄ニ附屬スル別紙甲號以下契約佛文「テキスト」等ハ之ヲ抄略ス)

本信宛先 在支公使、上海、南京、北平、濟南、青島、天津
本信寫送付先 在佛大使、在白大使、在蘭公使

編 注 第332文書付記として採録。

341

昭和8年7月20日
在中國有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

我が方の青島開發および山東鐵道延長計画に
關する新聞報道への中国側反響について

上 海 發
本 省 7月20日後着

第四一六號

七月一日東京發電通ハ東京日日所載トシテ青島開發並山東鐵道延長ニ關スル外務省及陸軍省ノ計畫ナルモノヲ報道シ右ハ當地各新聞紙ニモ譯載セラレ相當ノ反響ヲ起シ居ル處

在 青 島 總 領 事 坂根 準三 殿
在 天 津 總 領 事 桑島 主計 殿
在 上 海 總 領 事 石射猪太郎 殿

汴洛鐵道利權讓渡申出ニ關スル件

曩ニ在佛栗山代理大使ヨリ昭和七年十二月二十一日附機密公第七三一號ヲ以テ白耳義人 Bayens 男爵ナルモノ同大使館ニ對シ汴洛鐵道利權讓渡方申出タル旨報告アリタルカ右ニ對シテハ本年三月下旬長岡大使宛電報ヲ以テ當時ニ於ケル支那ノ狀態其ノ他各般ノ事情ニ顧ミ差當リ本件利權買取方ニ考慮ヲ加フルコト困難ナルニ付可然申出人ニ回答方訓令シ尙ホ念ノ爲メ谷亞細亞局長發在佛澤田參事官宛五月三日半公信ノ通り送りタリ右様ノ次第ニテ貴方ヘハ別段轉報シ居ラサリシ譯ナルカ最近日支關係稍々好轉ノ徴アリ又北支方面ノ時局モ漸次安定ノ傾アルヤニ認メラレ旁々今後ニ於ケル一般情勢ノ推移如何ニ依リテハ本件ノ如キモ改メテ之ヲ考慮スルノ必要ヲ認ムルニ至ルヘキヤニ思考セラハ、ヲ以テ前記栗山代理大使來信及澤田參事官宛半公信並ニ其ノ附屬物寫何等御參考迄別紙送付ス

添付物 昭和七年十二月二十一日附在佛大使館來信

十九日ノ「デーリー、ニュース」ハ八日東京發通信トシテ又復ト同様ノ趣旨ヲ報道シ居レリ支那側ハ右計畫ヲ以テ日本ノ對支新經濟侵略ノ一步ナリトシ反對ノ氣勢ヲ擧クル一方本件ハ到底實行不可能ナルヘシト認メ居ル處中ニハ本件ト東北三艦ノ脫走トヲ關連セシメ今回ノ東北海軍事件ハ蔣介石カ沈鴻烈等親日派ヲ追出シ以テ日本ノ山東經路ヲ防止セントシタルモノナリ等ノ宣傳ヲ爲スモノサヘアリ就テハ當方參考迄本件計畫ノ進展及之カ發表ノ事情等御回報相成度シ

北平、青島、南京、濟南ヘ轉電セリ

342

昭和8年7月20日
在中國中山公使館一等書記官より
内田外務大臣宛(電報)

滄石鐵道借款問題に対する何澄の意向ならび
に井陘炭運搬鐵道建設に対する滿鉄からの出資方河北省要人より申入れについて

付 記 十月三十一日発在北平藤原(喜代間)公使館付

武官補佐官より津田(静枝)軍令部第三部長宛
電報機密第二〇〇番電

日本海軍に華北石炭購入の希望があれば便宜
を計る用意がある旨劉石蓀表明について

北平 7月20日後発
本省 7月20日後着

第三一四號(極秘)

貴電合第一三三三號ニ關シ

(一)二十日原田ヲシテ夫レト無ク何澄ノ意向ヲ問質サシメタル處何ハ右ハ時期尙早ニテ自分カ今同南下スルモ本件ニ關シ南京側ト談合スル意圖ヲ有セス又黃郛モ同様ノ見解ヲ有スルニ付差當リノ問題ニ非サルモ將來黃郛ノ北方ニ於ケル地歩確立ノ上ハ鐵道部ヲ動カシ再燃セシムル腹ニテ其際ハ自分ハ表面ニ立タス黑幕トシテ本件達成ニ助力シ度キ考ナル旨洩シタル趣ナリ

(二)一方二十日天津ヨリ來平セル橋ノ内話ニ依レハ天津ニ於ケル張志譚等^(譯カ)河北省出身要人ハ河北省有ナル井陘炭坑^(譯カ)ヲ委任經營等可然組織ニテ開發シ右運炭ノ爲石家莊ヨリ馬廠ヲ通過シ塘沽ニ至ル鐵道ヲ敷設シ年額五百萬元ノ利益ヲ得ン計畫ニテ之カ爲同代表者劉厚生ハ黃郛ノ同意ヲ取付クル爲目下來平中ナルカ之ニ黃郛カ同意ナラハ右ハ滿

鐵ヲシテ出資セシムルコト如何カト考ヘ居ルモ未タ内々ノ話合ニ付當分内密ニ願度キ旨述ヘタリ

(三)右様ノ次第二テ右(二)ハ果シテ成功スルヤ目下ノ處不明ナルモ假リニ成功ノ場合ハ滄石ハ自然消滅トナル次第ナルニ顧ミ國際的ニ紛糾セル滄石ヲ棄テ寧ロ新ニ(二)ヲ成功セシムルコト我方ノ北支ニ於ケル地歩確立上有效ナルヤニ思料セラル本件成行引續キ注意ノ筈
支、濟南、青島、天津、南京へ轉電セリ

(付記)

北平 10月31日後発
軍令部 11月1日前着

機密第二〇〇番電

最近黃郛ヲ廻リ何澄劉石蓀等ノ間ニハ取敢ズ日本ト經濟的ニ提携シタキ議アルモノノ如シ昨三十日劉ハ小官ニ對シ黃郛モ同意ナリト前提シ先ズ日支經濟提携ノ第一步トシテ日本海軍ニ若シ華北石炭購入ノ意向アラバ此際鐵路運賃ヲ極度ニ低下セシメ契約取極ニ對シテモ最大限度ノ便宜ヲ計ルベクサスレバ中國側モ之ニ依リテ潤ヒ延イテハ奧地ノ購買

力モ増シ日貨輸入ノ機運ヲ助長スルコトモナルベシ又斯

クスル内ニハ鐵道問題(正大線太沽延長問題ハ目下三菱ト交渉中)其ノ他ニ於テモ漸次考慮ヲ爲シ得ル空氣ノ醸成ニ努ムル用意アル旨申出アリ依テ小官ハ石炭問題ハ内地炭業者トノ關係モアルベクシカク簡單ニハ行ハレザルベキモ我中央部ニ於テモ恐ラク貴見ト同趣旨ノ經濟的提携策ニ付何等他ノ途ヲモ考慮シ居ルコトト思考セラルルニ付取敢ヘズ御意向傳達スベシト答ヘ置ケリ

右報告ス

343 昭和8年9月4日

在中国矢野大使館參事官より
内田外務大臣宛

井陘炭坑の日中合弁經營實現の可能性に關す

る滿鉄報告の送付について

機密第四八四號

(9月16日接受)

昭和八年九月四日

在中華民國日本公使館

大使館參事官 矢野 眞(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

井陘炭坑ニ關スル件

本件ニ關シ當地滿鐵事務所長發本社宛報告別紙寫ノ通滿鐵側ヨリ入手シタルニ付御參考迄別添送付ス

本信寫送付先 公使

天津

在滿大使

(別紙)

昭和八年九月二日

北平事務所長

總務部長殿

井陘炭坑ニ關スル件

首題ノ件ニ付別紙御參考迄報告ニ及フ

井陘炭坑關係者劉厚生ハ八月三十日上海ヨリ當地ニ到着シタルカ小職ニ對シ語レル所左ノ如シ

一井陘炭坑ニ對スル獨逸側持株ハ四百五十萬元ノ内百二十萬元ナルカ其ノ他ニ利益金未收ノモノ約六十萬元アリテ合計百八十萬元見當ナリ之カ讓渡ニ就テハ一應獨逸本國

側ノ意嚮ヲ確カムル必要アリ「ポーラー」ヨリ目下照會中ナリ尙右獨逸側持株ニ付曩ニ正太鐵道關係ノ佛人某ヨリ讓渡ノ申込ヲ受ケタルコトアリト謂フ

一、同炭坑ノ持株買收費、新設備費及運炭鐵道建設ニ要スル費用ハ概算二千萬元見當ナルヘシ可採埋藏量約六千萬噸現在ノ採炭設備ハ年額三千噸ノ見込ナルモ實際採炭額ハ千五六百噸ナリト

一、劉ハ過般廬山會議ニ出席シタルカ席上北支開發ノ爲ニ日本ノ資本注入及之ト提携ノ要アルコトヲ提議シタルカ何人モ之ニ反對スル者ナカリシヨリ觀レハ一般ノ空氣ハ日本ニ好轉シツツアルモノノ如シ

一、從テ井陘炭坑問題ハ一ニ懸ツテ黃郛カ敢然之ヲ爲シ得ルヤ否ヤニ在ルカ之カ爲ニハ鐵道部長顧孟餘ニ諒解ヲ求ムルト共ニ他方ニハ于學忠、張志潭及河北省政府ノ要人連ニ連絡スルノ必要アルヘシ但シ本問題ハ若外間ニ洩ルレハ面倒ヲ生スル虞アルヲ以テ連絡ノ時期ニ就テハ深慮ヲ要ス一、井陘炭坑ノ日支合辦經營ノ形式ヲ如何ニスヘキヤ表面上炭坑ヲ省ノ經營トシ運炭鐵道ヲ滿鐵ト合辦トスルカ或ハ炭坑ヲ民間ニ貸下ケ其ノ民間團體ト滿鐵トノ合辦トスル

344

昭和8年9月12日

在南京日高總領事より
内田外務大臣宛

正太鐵道の近況に関する仏國公使館員の内話
について

機密第五一八號

(9月25日接受)

昭和八年九月十二日

在南京

總領事 日高 信六郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

正太鐵道ノ近況ニ關スル件

八月中佛國「シンジケート」ノ「パヴロウスキー」及印度支那銀行天津支店員「ドゥーメ」ト全行太原地方ヲ旅行セル當地駐在佛國公使館書記官「ボーデ」ノ内話要領御參考迄報告ス

一、昨年支那側ノ正太鐵道同收後全鐵道管理局長王懋功(汪精衛派)ハ軍閥ノ擄取ヲ免ル、爲ニハ外國ノ利益ヲ存シ置クヲ有利ト認メタル結果支那側ニ於テ相當數ノ佛人技師ヲ存置スルト共ニ「パヴロウスキー」ニ於テ有效ナル會計監督ヲ行フコトヲ認メタルニ依リ佛國側トシテハ相

カ(本溪湖煤鐵公司ノ例)或ハ又約二十箇年間位ヲ一期間トシ省ハ獨人ノ權利ヲ繼承シタル滿鐵ニ炭坑ヲ委任經營セシメ其ノ代償トシテ年一定額ノ報效金ヲ省ニ納付セシムル等幾多ノ辦法アルヘシ

一、劉厚生等ノ本問題進行上憂慮シタルハ日本カ果シテ何處迄乘氣ニナリツツアルカ及黃郛カ他ノ反對ヲ押シ切ル勇氣アリヤノ二點ナリト稱セリ

因ニ劉厚生ハ本月一日天津ニ赴キタルカ三日頃奉天ニ赴キ同地ニ三四日滞在ノ後大連經由上海ニ行ク豫定ナル由ナルカ大連ニ於テハ十河理事カ面會ヲ希望サレツツアル旨承知シタルニ付機會アレハ御會ヒ致スヘキモ其ノ際モ本問題ニ就テハ問ハルル丈ケノ範圍ニテ答辯スル積リナリト稱セリ

(欄外記入)

日本側ノ意向ヲ答フル前矢ツ支那側ヲ纏メシムルコトニ努ムルコト 重光
守島了承

當ノ成績ヲ收メツ、アリ尙同線ノ廣軌改造ハ目下ノ處問題トナリ居ラス

一、南京政府及管理局長等ニ於テハ前記ノ考慮等ヨリ閻錫山等ニ對シ今回「ボ」、「バ」等ノ來訪ヲ利用シ佛國側ニ於テ各種事業ニ投資スル計劃アル如ク大袈裟ニ吹聴シ御祭り騒キヲ演シタルカ實ハ佛國側ニテハ此ノ際積極的投資等ノ考ナシ

一、閻錫山ハ單純ナル頭腦ノ所有者ニシテ同地方ニ鋼鐵廠其他各種工場ノ設置等ヲ夢見居ルモ現狀ニテハモノニナラサルヘシ

一、太原以南ノ路線ハ支那側ノ手ニテ相當出來居ルモ目下之ニ敷設シタル軌條ハ貧弱ナルモノニテ正太線ニ使用セル車輛サヘモ運行出來サル程度ナリ 云々

本信寫送付先

公使 北平 天津 奉天 駐滿大使

345

昭和8年9月13日

内田外務大臣より
在青島坂根總領事宛

膠濟鐵道材料購入に際する日本製品不買問題

の経過報告方訓令

亞一機密第一一三號

昭和八年九月拾參日

外務大臣伯爵 内田 康哉

在青島

總領事 坂根 準三殿

膠濟鐵路局日本品購入問題ニ関スル件

九月八日貴官膠濟鐵路管理委員会委員長葛光廷ヲ往訪ノ際
鐵路局日本品購入問題ニ対スル同委員長ノ盡力ニ謝意ヲ表
サレタル趣ノ処右ハ六月十二日會談ニ於テ同委員長ノ述ヘ
タル意嚮其ノ他ニ関スルモノナリヤ將又爾後本件ニ関シ何
等カ具体的進展ヲ見タル次第ナリヤ本件日本品購入問題ハ
支那政府直屬機關ノ対日差別的待遇ノ一例トシテ電話局材
料購入問題等ト同様当方ニ於テ特ニ重要視シ居ル次第ニ付
詳細御報告相成度

本信寫送付先

在支公使、南京 北平 濟南

~~~~~

五 華北における日本の權益發展策

ハシ居ル現在ニテハ博山支線ハ勿論道濟線ト雖工事ニ着手  
シ得ヘキニ付種々提案シタルモ何分ニモ現鐵道部長顧孟餘  
カ鐵道ノコトニハ素人ニシテ之カ利害ヲ辯別シ得ス容易ニ  
承認ヲ與フル模様ナキ爲全ク行惱トナリ居ル實際ナルカ(一)  
ソレニツケテモ現在何レモ財政難ニ苦シミ居レル山東省政  
府青島市政府及南京鐵道部ノ鼻先ニ此ノ大金ヲ遊ハシ置ク  
ハ甚シク危險ニ感セラレ然モ何等カノ名義ニテ一度持去ラ  
ルルカ如キコトアラシカ日本政府ノ抗議モ恐ラク現實ニハ  
效果ヲ齎ラシ得サルヘキニ鑑ミ自分トシテハ本年ノ會計年  
度末即チ明年六月右二百七十萬元乃至三百萬元ヲ元金ヘノ  
内入リトシテ日本政府ニ償還シ置キ若シ將來延長線等ノ爲  
ニ必要生シタル場合ニハ更メテ日本政府ヨリ借款スルコト  
トシ度ク考フル次第ナリト語リタルニ付本官ハ本年三月二  
十四日附亞一機密第二九八號貴信御來示ノ趣旨ニモ顧ミ  
「若シ事實右様ノ運トモナラハ更メテ御相談ニ與ルコトト  
致スヘシ」ト輕ク應答シ置ケリ  
尙本官ヨリ在留邦人ノ間ニハ膠濟鐵路ノ運賃ニ對シ今日モ  
不平多ク實際上燐寸其ノ他甚シク高率且ツ不公平ト認メラ  
ルルモノアルニ付經濟發展ノ爲改正方考慮アリタシト述ヘ

346

昭和8年9月13日 在青島坂根總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道剩余金を國庫証券償還に充当したき  
旨同鐵路管理委員会委員長表明について

付記一 九月二十三日付、守島(伍郎)亜細亜局第一課

長作成

「山東鐵道國庫證券償還阻止方法ノ件」

二 十一月十七日付、守島亜細亜局第一課長作成

「山東鐵道國庫證券償還阻止方ニ關スル件

(第二同意見書)」

青 島 9月13日後発

本 省 9月13日後着

第一八〇號(極秘)

往電第一七九號葛委員長ト會談ノ際余談トシテ本官ヨリ膠  
濟鐵路ハ平漢津浦等ノ各線ト異ナリ事故少ク事業成績良  
好ナル處此ノ機會ニ道濟線殊ニ手近ノ博山延長線等ノ計畫  
ヲ實現セシムル考ナキヤト尋ネタルニ葛ハ全然個人的ノ談  
話トシテ御聽取願ヒタシト前提シテ(一)鐵路局トシテハ資金  
ナキ兩三年前ノ狀態ナラハ兎モ角二百七十萬元ノ現金ヲ遊

タルニ葛ハ膠濟鐵路ノ運賃カ高キニ過クル點アルハ自分モ  
之ヲ認メ居レルニヨリ低減方目下折角研究中ナリト答ヘタ  
リ御參考迄

支、北平、南京、濟南ヘ轉電セリ

(付記一)

山東鐵道國庫證券償還阻止方法ノ件

8. 9. 23 守島私見

一、山東鐵道國庫證券四千萬圓ハ一九三七年末(現在ヨリ四  
年強後)ヲ以テ滿期トナル處支那側ニテハ該證券償還ノ  
資金ヲ工面シ得ルヤ多大ノ疑問ナルモ萬一支那側カ右工  
面ニ成功スル場合ニハ我方ハ山東鐵道ニ對スル特殊ノ關  
係ヲ失ヒ延テ山東方面ニ於ケル我方ノ地歩ニ重大ナル影  
響ヲ及ホス虞アルニ付我方ニ於テハ本件國庫證券償還ノ  
阻止ヲ計ルコト肝要ナリ而シテ右阻止ノ方法ニ付テハ目  
下亞一ニ於テ折角攻究中ナルカ山東鐵道關係ノ條約ニ基  
ク阻止方法ハ左記ノ如キモノナルヘシ

(一)支那側カ外資ヲ以テ償還セムトスル場合ニハ華府山東  
條約附屬了解事項第八及山東鐵道細目協定第九條等ヲ

延用シ之ヲ阻止シ得ヘシ尤モ支那側ハ實際上ハ外資ナ  
ルモ何等カノ細工ヲ施シ内資ノ形式トスルヤモ知レサ  
ル處此ノ場合我方ハ右細工ヲ追及シテ償還ノ實行ヲ阻  
止スヘキナリ

(二)支那側カ内資ヲ以テ償還セムトスル場合右内資カ山東  
鐵道ヲ擔保トスルモノナルニ於テハ我方ハ前記細目協  
定第九條ニ依リ之ヲ阻止シ得ヘシ尤モ支那側ハ實際上  
ハ山東鐵道ヲ擔保トシツツモ何等カノ細工ヲ施シ同鐵  
道ヲ擔保トセサルカ如キ形式トスルヤモ知レサル處此  
ノ場合我方ハ右細工ヲ追及シテ償還ノ實行ヲ阻止スヘ  
キナリ

ニ然シ乍ラ前記ノ如キ細工カ極度ニ巧妙ニ行ハレ居ル場合  
我方ニテ償還ニ反對スルコトハ我方カ横車ヲ押シ居ル様  
ニ見エ面白カラサル場合アルヘク又支那側カ本件國庫證  
券償還ノ目的ニテ内債ヲ募集スル爲山東鐵道ヲ擔保トス  
ルコトニ付我方ノ同意ヲ求メ來リタルニ對シ我方カ同意  
ヲ與ヘサルハ面白カラサル場合モアルヘク旁々前記ノ如  
キ山東鐵道關係ノ條約ニ依ル方法ノミニテハ不充分ノ感  
ヲ免レス仍テ右以外ノ方法ヲ考案スルコト左ノ如シ

ハ當方研究ノ結果ヲ俟チ改メテ交渉スヘシ」ト云フカ  
如キ趣旨ノ公文ヲ以テ駄目ヲ押シ置キ(尙ホ今後研究  
ノ進ムニ從ヒ細目ノ點ニ付適當ノ申入ヲナスコト可ナ  
ルヘシ)斯クテ愈々四年後ニ支那側カ山東國庫證券償  
還ヲ申出テ來ルニ對シテ我方ハ「ゴールド、パー」ナ  
ルコトヲ主張シテ之ヲ受取ラス(現在ノ相場ニ依レハ  
「ゴールド、パー」ノ四千萬圓ハ紙幣ニテ約八千萬圓  
トナルヘシ)而シテ支那側ハ到底我方ノ主張ニ讓ラサ  
ルヘキヲ以テ(支那側ニテ我方ノ主張ニ讓ラムカ他ノ  
莫大ナル債權ノ取扱ニ多大ノ不利ヲ來スヘシ)該國庫  
證券ノ返還ハ永年ニ亘リ不可能ノコトトナルヘク其ノ  
内ニハ我方ヨリ更ニ他ノ策ヲ施スコトモ出來得ヘシ

### (付記二)

山東鐵道國庫證券償還阻止方ニ關スル件

(第二同意見書)

昭和八年十一月十七日

一、山東鐵道國庫證券償還阻止方ニ付種々施策ノ要アリ而シ  
テ確實ニ阻止ノ目的ヲ達シ得ヘキ窮局<sup>窮乏</sup>ノ方法トシテハ我

(一)山東公有財産國庫證券(千四百萬圓)ハ不拂債券トナリ  
居ル處山東細目協定第二十條四ニ依レハ該債券ノ擔保  
ハ關余及鹽余ノ外確實ナル追加擔保ヲ設定スヘキコト  
トナリ居ル處右追加擔保ハ未タ設定セラレ居ラス一方  
最近山東鐵道ハ剩餘金ヲ生シ居ル狀況ニテ(最近一、兩  
年ノ剩餘金約三百萬圓蓄リ居ル由ナリ)右剩餘金ヲ以  
テ山東鐵道國庫證券償還ノ一部ニ當テムトノ考モアル  
様ナルニ付山東鐵道<sup>金庫</sup>ヲ有財産國庫證券ノ追加擔保トナ  
サシメ以テ剩餘金ヲ鐵道國庫證券ノ償還ニ當ツルコト  
ヲ妨クルノミナラス鐵道自身ノ募債ニ對スル誘引力ヲ  
減殺スルコト可然

(二)對支不確實債權整理問題ハ兩三年來何等ノ動キモナキ  
狀況トナリ居ル處此ノ際我方ヨリ支那側ニ對シ右整理  
實行方ヲ督促スルト共ニ「本件ニ關聯シ我方ハ帝國政  
府及本邦人ノ支那政府ニ對スル債權中ニハ「ゴールド、  
パー」ノモノ存スルニ付(註、山東鐵道國庫證券ハ「ゴ  
ールド、パー」ノモノト解スヘキ根據アリ)之カ元利ノ  
支拂ニ付テハ其ノ「ゴールド、パー」タルコトヨリ生  
スヘキ一切ノ利益ヲ主張スルノ權利ヲ留保ス尙ホ委細

方ヨリ該證券カ金拂ノモノナルコトヲ主張スル外ナキ次  
第ハ第一同意見書ヲ以テ具申シ置キタリ  
二、右第一同意見書提出後ニ於ケル詳細ナル研究ノ結果ニ依  
レハ本件國庫證券カ金拂ノモノナルヲ我方トシテ主張ス  
ルノ充分ノ根據アルコトハ別添調書<sup>調書</sup>ノ通ナリ

三、然ラハ我方ニ於テ右主張ヲ如何ナル手順ニ依リ行フヲ可  
トスルカト云フニ

(イ)利息ノ支拂ハ從來通ニテ受取り置キタル上支那側カ元  
本ノ償還ヲ現實ニナシ來リタル際ニ初メテ前記主張ヲ  
ナスコト可ナリトノ考アルヘキ處右ノ如クンハ支那側  
ハ我方ニ對シ「昭和七年初圓ノ激落ヲ見タル以來五年  
(即チ昭和七年初ヨリ國庫證券償還期限昭和十一年末  
迄ナリ)ヲ經過シ居ルニ拘ラス何故ニ利息ヲ從來通受  
取リタルヤ」ト反問シ來ルヘク(即チ我方ハ元本ノ償還  
期ニ至リ苦シ紛レニ前記主張ヲナスカ如キ姿トナル譯  
ナリ)我方ハ苦シキ立場ニ立ツコトトナルヘシ

(ロ)本年十二月末ノ利息支拂期ニ先チ我方ヨリ支那側ニ對  
シ「山東鐵道國庫證券ハ關係條約協定ノ文面、右條約  
等締結商議ノ經緯及一般ノ條理ニ照シ金拂債務ノ性質

ヲ有シ從テ該國庫證券ノ元利ハ金圓ヲ以テ支拂ハルヘキモノナリ、然ルニ近年紙幣圓ノ金圓ニ對スル比價下落セルニ拘ラス支那側ハ紙幣圓ヲ以テ利拂ヲナシ來レリ、就テハ本年十二月末ノ利拂ハ金圓ヲ以テ行ハレ度、尙ホ從來支拂ハレタル紙幣圓ノ金圓ニ對スル差損ハ我方ニ於テ精算ノ上改メテ請求スヘシ」トノ趣旨ノ公文ヲ送ルコト可ナリ而シテ此ノ場合支那側ハ我方ノ要求ヲ拒否スルト共ニ從來通紙幣圓ノ支拂ヲナスヘキニ付我方ハ金圓拂ノ權利ヲ留保シツツ右紙幣圓ヲ受取ルヘク次テ來年六月及十二月ノ利拂モ又昭和九年、十年、十一年ノ利拂モ同様ノ「プロセス」ヲ繰返シ結局元本ノ償還ニ際シ同様ノ主張ヲ以テ臨ムヘキナリトノ考アルヘキ處右ノ如クンハ支那側ヲシテ各種問題ニ對スル我方ノ態度ヲ極度ニ警戒セシムル結果トナルヘク山東延長線、滄石鐵道等新規權益ノ獲得ニ付甚タ不利ナル影響ヲ及ボスノ虞アリ

(イ)仍テ前記(イ)ノ如ク元本ノ償還ニ當リ初メテ金拂ノ主張ヲナスト云フカ如キ苦シキ方法ニ依ラサルト共ニ(ロ)ノ如ク支那側ヲシテ諸他ノ問題ニ付極度ニ警戒セシムル

必要生セサル限り我方ヨリ進ンテ(B)及(C)殊ニ(C)ノ點ニハ觸レサルコト(即チ斯クシテ前記(ロ)ノ如ク支那側ヲシテ警戒セシメサルニ資スルト共ニ前記(イ)ノ如ク元本ノ償還ニ當リ初メテ金拂ノ主張ヲナスノ苦境ニ立ツコトヲ防キ得ヘシ)

(ニ)右ノ如ク差當リ前記(B)及(C)殊ニ(C)ノ點ニハ成ル可ク觸ルルコトナク有吉公使ト國民政府側トノ間ニ不確實債權整理問題ニ關スル一般的話合ヲ進ムルコト

昭和8年9月15日 在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

中日實業の材料供給優先権に対する青島電話局の義務不履行に対し汪兆銘へ注意喚起について  
付記一 十月一日付、亜細亞局第一課作成

「中日實業ノ青島電話局實力接收方ノ件」  
二 十月十一日付、作成局課不明

「中日實業對交通部電話借款材料供給優先權問題對策」

コトトナルノ愚ヲ避クル爲以下記載スルカ如キ手順ヲ執ルコト可然

(一)有吉公使ヨリ國民政府側ニ對シ不確實債權整理問題ヲ開談スルニ當リ「(A)該問題ノ經緯ヲ簡明ニ記載シタル上」斯クテ本件ニ關スル日支間ノ話合ハ昭和六年初以來中絶ノ狀態ニアル處至急右話合ヲ再開シ整理ノ完成ヲ期シ度(B)尙ホ我方ノ有スル不確實債權中ニハ明ニ金拂ノモノ(註、明治四十四年支那政府五分利鐵道公債契約ニ「日本金貨公債」「金貨支拂」等ノ辭句ヲ使用セルハ其ノ著例ナリ)アル處帝國政府ハ右金拂タルコトヨリ生スル一切ノ權利及利益ヲ留保スルモノナリ(C)因ニ支那側ニ於テ引續キ利息ノ支拂ヲナシツツアル我方債權中ニモ金拂ノ性質ヲ有スト認メラルモノ存スルニ付帝國政府ハ更ニ調査ノ結果別途必要ノ要求ヲナスコトアルヘシ」トノ趣旨ノ公文ヲ發スルコト

(二)右公文ハ支那側ノ書面回答ヲ誘致セサルカ如キ形トナスコト(蓋シ前記(B)及(C)ニ付差當リ無用ノ議論ヲナスコトヲ避クル爲ナリ)且其ノ後ニ於テモ特別ノ

#### 第四五二號

有吉公使ヨリ

南京 9月15日後發  
本省 9月15日後着

十四日本使汪精衛ニ會見ノ際排日取締要求ニ引懸ケ中日實業ノ電話借款契約履行問題ニ言及シ本件ハ先般來日高總領事ヨリ交通部側ニ對シ再三交渉シ居リ契約ノ明文アルニ拘ラス電話局當局者カ日本ノ材料購入ヲ忌避シ居ルノ不都合ナル次第ヲ述ヘ國民政府カ兩國接近ノ方針ヲ決シ民間ノ排日取締リヲ爲シ居ルニ際シ官ノ當局者カ他ノ迷惑云々ヲ口實ニ契約ノ義務履行ヲ回避セントスルカ如キハ甚タ奇異ニ堪ヘストテ日本材料購入實行ニ付指令方要求シタル處汪ハ本件ハ今週ノ行政會議ニ於テ交通部長ヨリ事情報告アリ未タ處理決定シ居ラサルモ同部長トモ相談シナルヘク契約ニ合致スル様措置方取計フヘシト約セリ

支ヘ轉報セリ  
北平、青島、濟南ヘ轉電セリ

編 注 本電は同日發在南京日高總領事より広田外務大臣宛

(付記一)

中日實業ノ青島電話局實力接收方ノ件(八年十月一日)

一、滿洲事變發生以來我方ハ支那側ニ對シ不斷ニ軍事の壓力ヲ加ヘ來レルカ其ノ結果ハ他ノ原因トモ相俟チ北支停戰成立ノ前後ヨリ支那側ヲシテ其ノ對日方針ニ轉換ヲ加ヘムトスルノ余儀ナキニ至ラシメタリ、然レ共右支那側ノ方針轉換タルヤ東亞ノ大局ニ覺醒セルカ爲ニ非スシテ、前記我方ノ軍事の壓力堪エ難キニ至リシ結果此ノ上日本側ノ軍事行動ヲ挑發セサル限度ニ其ノ抗日策ヲ緩和セムトスルモノナルコト各般ノ事情ニ照シ明ナリ

二、敍上ノ次第ナルヲ以テ我方トシテハ支那側ニ對スル壓力ヲ緩ムルコトナキヲ要ス、唯夕前記ノ如ク支那側ニ於テ此ノ上我方ノ軍事行動ヲ挑發セサル様腐心シ居ルニモ願ミ同國ニ對シ軍事の壓力ヲ加フルノ機會少クナレル次第ナルカ、我方トシテハ此ノ上トモ其ノ根底ニ於テ武力的脅威ヲ感セシメツツ支那側ノ條約又ハ契約不履行等幾多ノ不法乃至不當措置中ヨリ適當ノ案件ヲ抽出シテ嚴重追

部内ノ排日の空氣ヲ理由トシ右最少限度ノ要求スラ頑トシテ容レサル現狀ナリ

五、惟フニ右中日實業ノ件ニ關スル日支双方ノ立場ハ日本側ハ百「パーセント」ノ理由アルニ對シ支那側ハ百「パーセント」ノ不法ナリ、從テ我方ヨリ強硬ニ主張シタルニモ拘ラス支那側カ右ノ如ク一點ノ非モナキ要求スラ頑トシテ容レサル不法ヲ看過スルコトアラムカ(本案件其ノモノハ事柄ハ小ナルモ)前記關稅率問題、生産國標記問題ハ勿論不確實債權整理問題、無線乃至航空連絡問題其ノ他今後提出スヘキ我方ノ要求ハ如何ニ強硬ニ主張スルモ支那側ハ我方最後ノ腹ヲ見縊リ我方ノ要求ヲ容レサルヘシ、斯クテハ各種案件ニ付日支間ニ論爭スルニ過キサル滿洲事變前ノ事態ヲ繰返スモノト云フヘク、支那側ニ對シ不斷ノ壓力ヲ加ヘ以テ日支關係ノ打開ヲ計ラムトスル前掲第二項ノ趣旨ハ何等ノ意義ナキコトナルヘシ

六、仍テ我方トシテハ此ノ際本件ニ付實力行使ノ決意ヲナシ必要ノ措置ヲ執ルコト當ニ本件解決ノ爲ノミナラス前掲第二項ノ趣旨ニ基ク日支關係打開ノ目的達成上極メテ得策ナリ、而シテ右實力行使トハ別紙乙號記載ノ通り大体

及ヲ加ヘ以テ支那側ヲシテ日支關係ノ打開ニ向テ更ニ歩ヲ進メシムヘク、且結局我方トノ提携ニ依リ國內ノ整備ヲ計ル外立國ノ方途ナキコトヲ痛感セシムヘキコトヲ期セサルヘカラス但シ以上ノ如ク支那側ニ對シ不斷ノ壓力ヲ加フヘシト云フハ其ノ間既存權益ノ保全及新規權益ノ獲得等建設の努力ヲ蔑ニシ可ナリトナスニ非スシテ、要ハ右壓力ト建設の努力トヲ具體的ノ事態ニ適應シテ併用シ我對支地歩ノ確保ヲ期スルニ存スル次第ナリ

三、以上ノ趣旨ニ基キ最近我方ニ於テハ支那側ニ對シ關稅率問題、生産國標記問題、中日實業電話材料供給優先權問題ヲ提起シ我方要求ノ受諾方ヲ強硬ニ主張シ居レルカ、今後ハ更ニ進ンテ不確實債權整理問題、無線連絡問題、航空連絡問題等ヲ携ケ支那側ヲ責メ立テムトスル考ナリ四、然ルニ別紙甲號ニ委細記載セル交通部ニ於テハ前記中日實業ノ優先權ヲ認メツツモ、青島電話局擴張材料ノ供給ヲ中日ヨリ受クルコトヲ肯セス、更ニ我方ヨリ最少限度ノ要求トシテ「今回ハ致シ方ナシトシ次回ヨリハ該優先權ニ反スルカ如キ措置ニ出テサルヘキ」旨ノ書面ヲ提出セムコトヲ要求シ執拗ニ交渉セルモ、先方ハ國民政府

ニ於テ中日側カ青島電話局ヲ接收スルヲ政府トシテ放任シ置クコトニ過キサル處之サヘモ我方ニ於テ決意ヲ示セハ現下各般ノ情勢ニ照シ實行ニ及ハスシテ支那側ハ屈服スヘシト認メラル

七、尤モ本件實力行使ニ付テハ種々ノ反對論アルヘキコト豫想セラルルニ付左ニ簡單ニ右反對論及之カ反駁ヲ掲記スヘシ(イ)支那側ヲ激發シ排日ヲ刺戟スヘク、少クトモ交通部ヲシテ今後ニ於ケル各種案件ノ解決ニ付頭ヲ曲ケシムルヘシトノ反對論アルヘキ處右ハ滿洲事變以來帝國ノ執リ來レル對支方針殊ニ前掲第二項ノ趣旨ヲ根本的ニ了解セサル主張ナリ、殊ニ現下各般ノ情勢ニ照シ本件實力行使ハ支那側ヲ激發スルヨリハ將來ニ亘リ支那側ヲ柔順ナラシムヘキ公算遙カニ多カルヘシ、況ヤ本件實力行使振ハ別紙乙號ノ通りニテ現在ノ形勢ニ於テハ左迄外間ヲ刺戟スヘシトハ思ハレス

(ロ)中日實業ノ件ハ余リ小ナル案件ナル一方關稅率問題、生産國標記問題等ハ未タ海ノモノトモ山ノモノトモ解ラサル現狀ナル處支那側カ今少シク斯種不法措置ヲ繰返シタル上比較的重大ナル案件ニ付實力ノ行使ヲ行フ

コト可ナリトノ反對論アルヘキ處右ハ我方カ隱忍ニ隱忍ヲ重ネタル末、遂ニ滿洲事變トナリ又上海事件ノ勃發トナリタルコトヲ忘レタルモノナリ、我方カ早キニ及ンテ實力ヲ行使シ置クハ支那側ヲシテ同様ノ過失ヲ繰返サシメサル所以ナリ

(イ) 中日實業ノ件ハ支那側カ契約上ノ義務ヲ實行セサル事件ニ過キス、從テ中日カ裁判ノ判決ヲ俟チ青島電話局ノ差押ヲナスナラハ適法ナルヘキモ、然ラスシテ直ニ同局ノ接收ヲ行フハ「イリーガル」ナリトノ反對論アルヘキ處右ハ文明國ニハ通用スヘキモ支那ニハ通用セサル議論ナリ、蓋シ本件ヲ支那ノ裁判所ニ出訴セハ我方二百「パーセント」ノ理由アルニ拘ラス敗訴トナルヘキハ從前幾多ノ前例ニ顧ミ明カナリ、又一方ニ於テ考フヘキハ本件ニ關スル我方ノ主張カ百「パーセント」ノ理由アルコト前記ノ通ナル處關稅率問題、生産國標記問題、不確實債權整理問題、無線乃至航空連絡問題等ニ對スル我方ノ主張ハ到底百「パーセント」トハ行カス(云ハハ fifty fifty ナリ)從テ中日實業ノ件ニ付實力ヲ行使シ得ストセハ右諸問題ニ付實力ヲ用フルコト

ルニ山東ノ實權者タル韓復榘及青島ノ實權者タル沈鴻烈ノ我方ニ對スル態度良好ナルニ顧ミ、豫メ本件實力行使ハ交通部ノ余リニ甚シキ不法行為ニ對スル止ムヲ得サル措置トシテ青島電話局(交通部直轄ニテ韓トモ沈トモ關係ナシ)ニ手ヲ付クルニ過キサルトヲ説示シ公安局等ニ於テ之ニ介入スルカ如キコトナカラムヲ警告シ置ケハ居留民ヲ危險ニ投スル等ノ虞ナシト信ス、若シ夫レ一部不良邦人ノ策動ノ如キハ海軍側トモ協力シテ嚴重ナル取締ヲ加フヘシ

(ホ) 中日實業ニ對シ其ノ權利行使ニ付實力手段ヲ許容セハ爾余幾多ノ本邦商社ハ本件ヲ先例トシテ同様ノ措置ニ出ツヘキコトヲ政府ニ願出ツルニ至ルノ虞アリトノ反對論アルヘキ處之亦一應尤モノ反對論ナリ、然レ共本件ハ我方二百「パーセント」ノ理由アル案件ヲ政治的必要ニ基キ利用シテ實力手段ニ出ツルモノナルニ付政府カ同様ノ必要ヲ感セサル限り同種ノ案件ト雖實力行使ヲ許容スヘキ限りニ非ス、況ヤ中日ノ件ノ如ク我方ニ充分ノ理由アル案件ハ他ニ余リ多クナキニ於テヤ、從テ政府ハ強固ナル意思ヲ以テ、且前記ノ趣旨ヲ可然

ハ一層困難ナリト云ハサルヘカラス、之ニ反シ中日實業ノ件ニ付實力ヲ行使セムカ、支那側ヲシテ日本ハ爾余ノ諸問題ニ付テモ實力ヲ用フルノ決意アルニ非ルヤヲ危惧セシムヘシ(殊ニ我方カ中日實業ノ件ニ付多少「イリーガル」ノ實力行使ヲ敢テスルコトハ支那側ヲシテ日本ハ「リーガル」トカ「イリーガル」トカ云フコトニハ御構ヒナシニ爾余ノ諸問題ニ付テモ實力ヲ用フル決心ナラスヤト思ハシムヘシ)

(ニ) 邦人居留民ノ多キ青島ニテ實力行使ヲナスハ居留民ニ危險ヲ及ホスヘキコトヲ懸念セラルルノミナラス一部不良邦人ノ對支挑發行爲ヲ獎勵スル結果トナルノ虞アリトノ反對論アルヘキ處右ハ一應ノ理由アル反對論ナリ、然レ共見方ニ依レハ青島ハ我方ニ於テ實力ヲ用フル爲ノ絶好ノ土地ナリ、蓋シ我方ニ於テ實力行使ニ出ツルトセハ奧地ハ不可ニシテ上海、青島、天津等海岸ニ近ク事態擴大ノ場合徹底的ニ力ヲ用ヒ得ヘキ土地タルヲ要ス、殊ニ青島ハ外國租界存セサル等實力行使ノ爲狀況「シンブル」ナルノ利アリ(此ノ點ハ昭和七年初海關差押ヲ考慮シタル際ニモ攻究セル次第ナリ)加フ

説示シテ爾余ノ商社ノ請願ヲ拒否スヘキナリ

(ハ) 本件實力行使ニ出ツル前ニ尙ホ執リ得ヘキ措置種々アルヘシトノ反對論アルヘキ處我方ニ於テ窮局ニ於テ實力行使ノ決意ヲナスニ非レハ何等有效ノ措置ヲ執リ得ヘキ餘地ナシ、之ニ反シ右決意ヲナシタル上ハ實力行使前種々ノ措置ヲ執リ得ヘク、其結果交通部ハ現實ニ實力ヲ用フル前ニ屈服スルニ非スヤト思ハル

ハ要之本件實力行使ニ付テハ種々ナル「プロ」ト「コン」ノ議論アルヘキモ前掲第二項及第三項ノ方針ヲ進ムル上ニ於テハ(此ノ點ハ現下對支問題ノ最重要事ナリ)「コン」ハ余リニ弱ク「プロ」ハ極メテ強シ、仍テ此ノ際本件實力行使ノ決意ヲナシタル上、出來得ル限り現實ニ實力ヲ用ヒシテ交通部ヲ屈服セシムル様措置スルコト緊要ト認ム、尙ホ本件ニ付テハ軍部殊ニ海軍側ノ諒解ヲ取付ケ且改メテ中日側ノ意向ヲ確メタル上出先(公使、南京、青島、濟南等)ト充分ノ打合ヲ要スルコト勿論ナリ

(別紙甲號)

中日實業株式會社對交通部電話擴充借款關係諸問題

ニ關スル從來ノ經緯概要(昭和八、十、五)

# 六、青島電話局擴張材料供給問題

本件交通部電話擴張借款ノ原契約(大正七年)ニ依レハ契約調印後七ヶ年間交通部管轄ノ電話事業ノ新設改善擴張ニ必要ナル諸材料ニ付テハ中日實業側カ優先權ヲ有スルコトトナリ居リ大正十四年ノ契約書替ノ際右優先權ハ更ニ三ヶ年延長セラレタリ(右大正十四年ノ契約文面ニ依レハ優先權ハ昭和三年滿期トナル理ナルモ大正十四年ノ契約中利拂、元金償還等他ノ條項何レモ履行セラレ居ラサルニモ鑑ミ中日側ノミ優先權ノ消滅ヲ認ムルノ要ナカハシ)

然ルニ前記青島電話局ヨリ一萬元入金方ニ關スル昭和八年二月頃ノ在南京上村總領事代理ノ對交通部交渉當時青島電話局ニ於テ擴張材料四百回線分ヲ外商ヨリ購入ノ計畫アリシヲ以テ同總領事代理ヨリ中日側ノ優先權ニ付篤ト支那側ノ注意ヲ喚起セル處交通部郭參事ハ交通部長ニ於テモ中日ノ有スル優先權ハ之ヲ認メ居ルモ正直ノ處日支兩國ノ關係今日ノ如キ狀態ニ於テハ公然日本ニ機械類

ヲ注文スルコトハ各方面ノ反對ヲ惹起スル始末ニテ青島電話局ニ對シ之ヲ訓令スルカ如キハ交通部長ノ立場トシテモ困難ナルヘク理窟ハ兎モ角トシ實行至難ナル旨ヲ繰返セルカ結局右四百回線ノ獨逸品購入ハ特別ノ事情ニ於ケル一回限りノ例外的措置トシテ看過スルモ今後ハ充分中日側ノ優先權ヲ尊重セシムルコトヲ口頭ヲ以テ約束セシメタリ

(當時右ヲ口約ニ止メス何等カ文書ノ形式トナサシメントセルモ支那側之ニ應セス愈々天津電話局ヨリ入金ノコトニ變更シテ交通部中日實業間ニ公文ヲ往復セル際(三月上旬)モ中日側回答ニ於テ本件ハ一回限りノ例外的措置トシテ之ヲ認ムルモ今後斯ノ如キコトナキヲ要スル旨申送ルニ止メタリ)

然ルニ六月頃ニ至リ青島電話局ニ於テハ又々中日側ノ優先權ヲ無視シテ第二回擴張材料千二百回線分ヲ外商ニ注文セントスル趣ナリシニ依リ右ハ郭參事ノ上村總領事ニ對スル口約ニ反スル次第ニテモアリ八月四日及十五日在南京日高總領事ニ對シテ嚴重交渉方ヲ訓令セリ右訓令ニ基キ日高總領事ハ交通部郭參事ノミナラス朱交

通部長(八月二十七日)ニモ面談シ本件優先權ハ契約ニ明記セラレタル權利ニシテ曩ニ中日實業側ニ於テ外國品購入ヲ默過セルハ唯一回限りノ措置トシテ支那側ノ懇請ニ應シタル次第ナルヲ以テ支那側カ前回同様ノ口實ヲ繰返シ恬然トシテ其ノ義務ヲ回避セントシ居ルヲ默過スル能ハサル所以ヲ説明シ嚴談セル處交通部側ハ本件優先權ヲ無視スル意嚮ナキハ勿論ナルモ現下ノ政情ニ於テ日本品ヲ注文スルコトハ自分等ノ政治的立場ヲ危クスルモノナルコト、天津電話局ノ一萬元内入金ノ支拂ニ付キテサヘ部内ニ非常ナル反對アルヲ押切り支拂ヲ實行セル自分等ノ好意ヲ諒トセラレタキコト、及所謂第二回材料購入ハ昭和八年初ノ第一回擴張ノ際既ニ豫見セラレ其ノ續行トモ看做スヘキモノナルコト(事實外國會社トノ間ニ第一回當時ヨリ契約済乃至ハ豫約済ナルカ如シ)等ヲ述ヘテ今回ノ分モ默過セラレ度シト懇請スルノミナリキ依テ八月二十九日重ネテ日高總領事ニ宛テ左記趣旨ノ訓令ヲ發セリ「支那側排日ノ結果在居留民又ハ權益ニ侵害ノ及フ場合我方ニ於テハ何時ニテモ實力保護ノ決意アルコト累次支那側ニ申入レアル通ニテ本件優先權ノ如ク契約上

何等ノ疑點ナキ權利ヲ無視シ而カモ其ノ理由トシテ排日風潮ニ藉口スルカ如キコトヲ際限ナク容赦スルハ甚タ面白カラス從テ支那側カ右様ノ態度ヲ繰返ス場合ニハ結局我方トシテモ青島電信局ノ實力差押等斷乎タル措置ニ出ツルノ外ナキニ至ルヤモ知レサル次第ナル處(此ノ點ハ貴官限りノ含ニ止メ中日等ニ對シテハ絕對ニ祕密ニシ置カレ度)此ノ際本件ニ付支那側ヲ「プレス」シ置クコトハ將來前記ノ如キ實力手段ヲ執ル場合ノ伏線トシテモ必要ナルニ付右御含ノ上往電第二八號申進メノ「ライン」ニ依リ執拗ニ交渉ヲ繼續セラレ度尙ホ右交渉ニ拘ラス差當リ支那側ヲシテ本件優先權ノ實行又ハ利拂金ノ増額等ヲナサシムルコト至難ナル場合ニハ交通部ヨリ中日側ニ對シ本件優先權ヲ確認スルト共ニ今回限り例外的措置ノ默認ヲ乞フモ爾後ハ必ス契約ノ明文ヲ履行スヘキ旨ノ書面ヲ提出セシムルコトトシ一應型ヲ付ケ度考ナルニ付右御含置相成度

本件ニ付テハ二日上海着ノ筈ナル堀内書記官ヨリ委細御聞取相成度

ニ付キテハ中日側モ大ニ多トシ居ル所ナルカ支那側トシテハ右ハ當然ノ義務ノ履行ニ過キス蓋シ曩ニ上村總領事代理ノ時代ニ中日側ヲシテ青島電話局第一次材料購入ヲ默認セシメ且六萬元即時拂フ要求ヲ撤回セシメタルハ支那側ニテ右毎月一萬元ノ支拂ト優先權ノ尊重ノ口約ヲ忠實ニ履行スヘキコトヲ信賴セル結果ニ外ナラサル次第ニシテ現ニ中日側ハ今回第二次材料購入ニ當リ支那側カ再度優先權ヲ無視シタル以上違約金ノ意味ニ於テモ前記六萬元ノ要求ヲ復活シ度シト主張シ居ル譯ナルカ當方ニテハ滯納四ヶ月分ノ問題モ解決シタレハトテ之ヲ押ヘ居ル實狀ナリ

九月十四日有吉公使南京ニ出張中九月十四日汪行政院長ニ會見ノ際排日取締要求ニ引懸ケ本件ニ言及シ契約ノ明文アルニ拘ラス電話局當局者カ日本ノ材料購入ヲ忌避シ居ルノ不都合ナル次第ヲ述ヘ國民政府カ兩國接近ノ方針ニ決シ國民ノ排日取締リヲ爲シ居ルニ際シ官ノ當局者カ他ノ思惑云々ヲ口實ニ契約ノ義務履行ヲ回避セントスルカ如キハ甚タ奇異ニ堪ヘストテ日本材料購入實行ニ付指令方要求シタル處汪ハ本件ハ今週ノ行政會議ニ於テ交通

トノ書面ヲ差出シ我方ノ疑惑ヲ解クコト最小限度ノ必要ナリト説キタルニ對シテモ部内ノ事情ヲ云々シテ右文書ノ提出ハ實行困難不可能ナリトシ朱部長ヨリ日高總領事宛ニ書面ヲ提出スルコトスラ將來政敵ニ利用セラレテ朱ノ責任問題ヲ生スル恐れアリトテ承諾セス日高總領事ヨリ更ニ我方カ本件ヲ重大視スルコト及朱カ政治上ヨリ大觀シ我カ主張ニ從フノ得策ナルヲ力説シ朱ニ復命方依頼シ郭之ヲ引受ケタル由ナルモ交通部ノ内情及朱ノ性格ニ鑑ミ交通部側ヲシテ其ノ態度ヲ變更セシムルコト困難ナルヤニ認メラルル趣ナリ

編 注 「一」から「五」までは省略。

(別紙乙號)

中日實業ノ青島電話局實力接收ノ手順ニ關スル件  
一、政府ハ中日ノ右實力接收ヲ許容スルコトニ決意シタル上該決意ノ下ニ國民政府側ト引續キ種々交渉スルコト  
二、右交渉ニ拘ラス交通部カ我方ノ要求ヲ容レサル場合ニハ「爾後起ルコトアルヘキ一切ノ結果ハ支那側ノ責任ニ歸

部長ヨリ事情報告アリ未タ處理決定シ居ラサルモ同部長トモ相談シナルヘク契約ニ合致スル様措置方取計フヘシト約セル趣ナリ

他方日高總領事ハ引續キ朱交通部長及郭參事ニ對シ前記訓令ノ趣旨ヲ体シ在支邦人ノ權益擁護ニ關スル帝國政府ノ決意ヲ仄カシツツ從來支那側ノ理由トスル所ハ日本政府ヲ首肯セシムルニ足ラス即チ我方ハ支那政府當局者カ排日風潮ニ藉口シテ契約實行ヲ濫ルコトヲ容認セス況ヤ青島ニテハ日本品ヲ購入スルモ何等差支ヘナキ實情ナリトテ委曲ヲ盡シテ數回ニ亘リ説得セルモ朱部長等ハ毎回同様ノ口實ヲ繰返シ九月二十六日來訪セル郭參事ハ日本ノ言分ニ充分ノ理アルコトハ認ムルモ自分等ノ立場苦シキ故今更何トモ日本側要求通り取扱兼ヌルニ付夫レニテ日本側ノ満足ヲ得サレハ致方ナシト言フカ如キ棄鉢の言辭ヲ弄シ日高總領事ヨリ日本政府カ本件ヲ重要視スルハ今回ノ工事自体ニ日本品ヲ購入セサルヲ不都合トスルハ勿論ナルカ支那ノ常套手段トシテ將來事實上優先權無視ノ例ヲ開クニアラサルヤヲ恐ルルニ依ルモノナレハ何レニスルモ交通部ヨリ中日ニ對シ將來ハ契約ヲ履行スヘシ

スヘキ旨」ヲ表示シテ交渉ヲ打切ルコト

三、第一項ノ交渉ト併行シ又ハ該交渉不成功ノ直後關係領事ヨリ韓復榘及沈鴻烈ニ對シ本件實力接收ハ交通部ノ餘リニ甚シキ不法行為ニ對スル止ムヲ得サル措置ニシテ青島電話局接收以外他意ナキコトヲ説示シテ公安局等支那側「フォース」ヲ介入セシムヘカラサル旨ヲ警告スルコト  
尙此ノ間中日ハ在青島總領事館指導ノ下ニ青島公安局及電話局内適當ノ向ト内密ノ連絡ヲナスコト(交通部ハ此ノ邊ニテ屈服スルニ非ルカ)

四、中日社員ニ依リ實力接收ヲ行フコト右ニ對シテハ青島總領事館警察ニ於テ必要ニ應ジテ身邊ノ保護ヲ與フヘク尙ホ萬々一ノ場合ノ爲軍艦ヲ青島ニ派遣シ置クコト

(付記二)

中日實業對交通部電話借款材料供給優先權問題對策

(八、一〇、一一)

左記ハ終局ニ於テ萬已ムヲ得サレハ中日實業ニ依ル青島電話局ノ接收ヲ實行スル決意ノ下ニ執ルヘキ手續ノ具体案ナルカ特ニ三、以下ニ付テハ出先トノ間ニ詳細打合ヲ要スルモ

ノトス

一、先ツ中日側ニ於テ南京及青島ニ於テ青島電話局擴張材料ノ賣込運動ヲ熱心ニ行フコト(中日側ハ今迄數次ニ亘リ交通部ニ對シ文書ヲ以テ抗議シタルコトアルモ南京ニ人ヲ派シテ交渉セルハ唯一回ニ過キス而モ支那人社員ノ檢束等ノ爲簡單ニ切り上ケタリ他方青島電話局ニ對シテモ何等具體的「オフアー」ヲナシ居ラス)

ニ、右ト平行シ在南京總領事及在支公使ニ於テ左記趣旨ニ依リ國民政府<sup>(支)</sup>ニ對シ強硬ニ交渉スルコト

(イ)本件交渉ハ交通部當局者カ排日風潮ニ藉口スルノ不都合ナルコトヲ強調シテ次回材料購入ノ際ハ必ス中日ノ優先權ヲ尊重シテ處理スヘキ旨(但シ必スシモ優先權云々ヲ明示スルヲ要セス、實質的ニ上記ノ如キ趣旨ナレハ可ナリ)ヲ約スル書面ヲ交通部ヨリ取付クルコトヲ主眼トス(右書面ハ交通部ヨリ中日側ニ宛ツヘキモノナルカ交通部長ヨリ日高總領事ニ宛ツルモ差支ヘナシ尙又日高總領事ヨリ「先般來交渉ノ結果朱部長及郭參事ニ於テ次回ヨリハ必ス中日ノ優先權ヲ尊重シテ處理スヘキ旨(但シ必スシモ優先權云々ヲ明示スルノ要

ナキコト前記ノ通)言明セラレタルニ依リ右言明ノ次第中日側ニ傳言シ置キタリ」トノ趣旨ノ公文ヲ外交部經由交通部ヘ送付シ交通部ヨリ之ヲ了承セル旨ノ公文ヲ取付クル方法ヲ考慮シ得ヘシ)

(ロ)本件交渉ハ日高總領事ニ於テ主持スヘキモ九月十四日有吉公使汪行政院長ト會談ノ際同院長カ本件ニ關シテハ朱交通部長ト相談ノ上契約ニ合致スル様措置方取計フヘキ旨言明セル次第アルヲ以テ有吉公使ニ於テ日高總領事ト連絡ノ上適當ノ時期ニ右ノ經緯ヲ辿リ汪ニ對シ又ハ必要ニ依リテハ直接朱ニ對シ強硬ニ交渉スルコト可然

三、以上ヲ以テスルモ支那側カ我方要求ヲ容レサル時ハ愈々實力接收方止ムヲ得サルヘキ決意ノ下ニ更ニ左記趣旨ニ依リ交渉ヲナスコト

(イ)右有吉公使及日高總領事ノ交渉ニ拘ラス支那側カ我方ノ要求ヲ容レサル場合ニハ此ノ上ハ交通部側ニ於テ直接中日側ヲ納得セシムル外ナシトテ公使及總領事ハ交渉ヨリ手ヲ引ク

(ロ)中日代表ハ右ノ後ヲ受ケテ交通部ニ對シ「貴部ハ公使

及總領事ニ對シ次回材料購入ノ際ノ保證ヲ與フルコトスラ拒否セラレタル趣ナル處此ノ上ハ(イ)青島電話局擴張工事ヲ中止スルコト及(ロ)右工事豫定費金額ヲ電話借款ノ利拂トシテ中日側ニ交付スルコトヲ要求スル外ナシ」トノ趣旨ニテ實力行使ヲモ辭セサル強硬ナル態度ヲ以テ交渉ヲナシ先方カ右要求ニ應セサル場合ハ「天津ノ前例ニ依リ青島電話局ノ會計管理ヲ要求スル」旨ヲ書面ヲ以テ交通部ニ提出シ先方カ右要求ニ應セサル場合ハ其ノ儘南京ヲ引上ク

(イ)日高總領事ハ右ノ後ヲ受ケテ外交部ニ對シ「本件ニ關スル交通部ノ法外ナル態度ヨリ生スル一切ノ結果ハ支那側ノ責任ニ歸スヘキモノナリ」トノ趣旨ヲ通告シ且之ヲ交通部ニ轉達スルコトヲ要求スル公文ヲ送致スルコト(ニ)本項ノ場合ニ於ケル在南京中日代表ハ高木副總裁又ハ之ニ代ルヘキ有力ナル社員タルコトヲ要ス

四、右三ノ交渉ト平行シ(右三ノ(イ)ノ直後(ロ)ノ直前位カ最モ適當ナルヘシ)中日代表ハ在濟南及青島總領事ノ正式ノ紹介ニ依リ(單ニ業務上ノ事ニ付面談ヲ希望スル趣ヲ以テ紹介スルモノトス)韓復榘及沈鴻烈ニ面會ノ上南京ニ

於ケル前記三ノ(イ)迄ノ交渉ノ經緯ヲ説明シタル上中日側ニ於テハ更ニ前記三ノ(ロ)ノ交渉ヲナスヘキモ交通部ニテ依然トシテ誠意ヲ示ササル場合ニハ中日側ハ青島電話局ノ接收ヲ行フ外ナキ處右ハ天津ニモ其ノ實例アリ單ニ同局會計ノ管理ヲナサムトスルニ過キサルニ付韓及沈ニ於テハ傍觀ノ態度ヲ執ラルルト共ニ黨部其ノ他不逞分子カ不穩ノ行動ニ出テサル様嚴重取締ラレ度旨ヲ申入レ且青島ニ於テハ公安局側及電話局内ノ適當ノ向キトモ中日代表ニ於テ内密ニ折衝ス

五、右四ニ關聯シ韓及沈又ハ交通部等ヨリ我方出先官憲ニ對シ斡旋ヲ求メ又ハ其ノ他ノ申出アリタル場合ハ左記趣旨ニ依リ措置スルコト

(イ)本年六月以來日高總領事及有吉公使ニ於テ中日側ヲ押ヘ極力交通部ニ對シ斡旋セルニ拘ラス交通部ニ於テ反省スル所ナカリシ結果今日ノ事態トナリタルモノニシテ政府トシテハ交通部ニ於テ中日側ヲ満足セシムヘキ條件ヲ提示セサル限り斡旋ノ余地ナク中日側ノ措置ニ放任シ置ク外ナシトノ趣旨ニテ應酬ス

(ロ)右應酬ノ際韓及沈ニ對シテハ本件ニ關聯シ支那側不逞

八月末佛國公使館「ボデー」ト共ニ正太線ヲ視察シ十五日歸滬セル「パブロプスキー」ノ十六日須磨ニ對スル内話聞込ノ儘大要左ノ通り

(欄外記入) 二、正太線收入ヲ擔保トスル鐵道部對「フレンチ、シンジケート」ノ五千萬法鐵道材料借款ハ本年三月成立シ既ニ二千六百萬法ニ相當スル機關車其他ノ鐵道材料ヲ供給、殘部ハ來年七月迄ニ供給ノ事トナリ居レリ

三、五年内ニ右借款ノ完済ヲ見サル時ハ(正太線ノ收入確保ノ爲佛國側ヨリ會計主任、技師等ヲ入レ居ル事ハ既電ノ通りニテ五月ハ前年同月ニ比シ八萬元ノ增收ヲ見タル由)佛國側ニ於テ正太線ノ「コントロール」ヲ獲得スル事トナリ居リ又契約中ニ特ニ「アービトレーション、クローズ」ヲ設ケ必要ノ場合ニハ「アムステルダム」ノ萬國商業會議所ノ任命スル「アービトレーター」ニ依リ紛爭ヲ解決スル事トセリ

尙後日ノ紛議ヲ避クル爲鐵道部ハ本契約締結前監察院、行政院ノ了解ヲ得置キタリ

三、然ルニ今次山西旅行ニヨリ正太線側ニ於テハ佛國側ノ延長線敷設權ヲ無視シ支那銀行ヨリ四百五十萬元ノ借款ヲ

得テ檢次大谷間ノ鐵道工事ヲ開始シ更ニ平遙迄延長方計畫中ナルノミナラス閭錫山ハ正太線ト併行シテ別ニ太原榆次間ニ既ニ軍隊ヲ利用シテ枕木ヲ敷設シタル外榆次ヨリ前記延長線ト並行スル新線ノ敷設工事中ナルヲ(閭ノ計畫ニ依レハ右ニ線敷設ニハ約一千七百萬元ヲ要スル由)發見セルニ付閭ニ會見ノ上嚴重抗議シタルモ埒明カス近ク支那側ノ權利侵害ニ付鐵道部ノ注意ヲ喚起スル積リナリ

四、正太線及太原潼關線ニ關スル白耳義側ノ主張ハ一九一三年ノ同成線契約ニ基クモノナルモ右契約ニハ契約締結後六ヶ月内ニ起工スヘキ旨ノ規定アリ又右契約ヲ締結セル Société franco belge カ一九二二年ヨリ一九三二年ノ間ニ正太鐵道收入中ヨリ回收セル一千四百(萬)元ハ既ニ佛白兩關係會社ニ分割濟ミナルノミナラス

白耳義側會社ノ株ハ大半佛人ノモノナレハ「フレンチ、シンヂケイト」ニ於テハ右白耳義ノ主張ハ大シテ問題ト爲シ居ラス但シ支那側ノ「スキームス」ヲ極力防止スル爲ニハ支那鐵道中利害關係ヲ有スル列國ニ於テ密接ナル聯絡ヲ取ル事必要ニテ自分ハ更ニ進ンテ例ヘハ日英(英

分子等カ本邦人ノ生命財産ニ對シ危害ヲ加ヘサル様充分取締マラレ度ク尙ホ我方トシテハ必要ニ應シ領事館警察又ハ海軍力等ヲ以テ本邦人ノ保護ニ任スヘシトノ趣旨ヲ告グ

(イ)交通部カ我方當初ノ要求(書面ノ提出)ヲ満足セシムルニ於テハ中日側ヲシテ本件接收ヲ停止セシム

六、以上諸工作ヲ行フモ尙ホ交通部ニ於テ屈服セサル場合ニ於テ初メテ左記趣旨ニ依リ接收ヲ實行スルコト

(イ)接收ノ方法ハ概略別紙ノ通り豫定セラレ居ルモ中日ノ詳細ナル計畫ヲ徴シ又出先官憲ト打合セ且海軍側ト協議シテ立案スル筈ナリ

(ロ)接收實行ノ時期ハ前記三ノイ及前記四ノ後約一週間ヲ經タル時ト豫定ス

七、本件ハ國民政府ニ壓力ヲ感セシムルコトヲ趣旨トシ徒ニ聲ヲ大ニシテ世論ヲ刺戟スルカ如キハ成ル可ク避クルコト但シ支那側ヨリ宣傳ヲナスコトアルヘク其ノ他我方ヨリ宣傳ヲ行フノ必要生スルコトアルヘキニ付何時ニテモ之ヲ實行シ得ル様發表物等豫メ準備シ置クコト

(別紙)

(一)中日社員電話局ニ赴キ同局會計部ヲ接收ス(二)其ノ際電話局員ヨリ暴力行爲ニ出ツル等中日社員ノ身邊保護ノ必要アル場合ニハ領事館警察ヲ派遣シ右保護ニ任セシム(三)右接收ノ結果局長及數名ノ親歐米派(局長派)高級局員ハ南京ニ遁走スヘキモ親日派(現在ノ失意派)ハ豫テ中日側ニ聲息ヲ通シ居リ今同モ殘留スヘク又下級局員ハ動搖ナカルヘキ見込ノ由(四)萬々一ノ爲軍艦ヲ派遣シ置クモ一般治安力著シク亂ルル場合ノ外陸戰隊ハ上陸セス

~~~~~

348 昭和8年9月20日 在中国有吉公使より 広田外務大臣宛(電報)

正太鐵道收入を担保とする鐵道材料供給借款
の期限内完済不能の場合は同鐵道經營を仏國
側獲得の旨同國財團關係者内話について

上海 9月20日後發
本省 9月20日後着

第五三八號
北平發閣下宛電報第一九六號ニ關シ

國ハ開鑿炭擁護ノ爲井陘炭坑ノ進出ヲ極力警戒シ沽石鐵道其ノ他ノ計畫ヲ阻止セン野心ヲ有スル由北平發閣下宛第三二四號參照佛伊等ノ圓卓會議開催方然ル可シト考ヘ居レリ「バ」ニ對シテハ須磨ヨリ貴電合第一三三三號ノ趣旨ニ依リ滄石鐵道ニ對スル我方權利ヲ「インプレス」シ置キタル由

猶十八日白耳義公使ハ須磨ニ對シ正太線ニ關スル佛白間及隴海線ニ關スル英白間鐵道警爭ニ關シ近ク鐵道部ト交渉ノ意向ナル旨語レルニ付須磨ヨリ亞一機密合第八二二號貴信ノ次第ヲ内話シ今後トモ情報ノ交換方希望シ置ケル趣ナリ

支、天津、南京、滿へ轉電セリ

(欄外記入)

北支又ハ全支ノ利權ノ問題ニ付テ何等措置ノ必要ナキヤ例ヘバ中央政府又ハ北京ト交渉ヲ開クコト

349 昭和8年9月25日 在青島根根總領事より
広田外務大臣宛

ヲ得タルニ不拘鐵道側係員ハ日本品ハ不慣ナレハトノ難癖ヲ付ケ最高ノ禮和洋行ニ落札セシメムトシタルニ對シ葛委員長ハ價額ニ對比セハ少々不慣レニテモ日本品ノ方有利ナラスヤトノ意味ニテ相當強硬ニ指示シタル結果遂ニ二番札タル三電公司ノ品物ヲ購入スルコトニ局議纏マリ鐵道部ニ請訓セル次第大石ノ内報ニ依リ承知シタルニ付不取敢右盡力ニ對シ謝意ヲ表シタル次第ナリ尤モ右ニ對シ鐵道部ヨリハ更ニ右機械ハ多分津浦線鐵道工廠ニテ國產品入手シ得ラルル筈ニ付一應同工廠ニ照會可然旨同訓アリタルヲ以テ目下右照會中ニテ今以テ最後ノ決定ヲ見ルニ至ラス嚴重注意中ノモノナリ

本信寫送付先 公使 南京 北平 濟南

(欄外記入)

本件ハ今暫ク成行ヲ見、結局ウ、マク、行カサルトキハ高岩ノ數例(書類未着)等ト共ニ國府ニネヂ込ムコト可然スルコトハ機會均等ノ精神ニ正反對ス

右ハ此際機ヲ逸セズ鐵道部ニ談スルコト可然然ラサレバ反對ノ決定アリタル後ニ之ニ變更セシムルコトハ至難ナリ

膠濟鐵道材料購入に關する落札結果について
機密第四五二號 (10月2日接受)

昭和八年九月廿五日

在青島

總領事 坂根 準三(印)

(欄外記入)

外務大臣 廣田 弘毅殿

膠濟鐵路局日本品購入問題ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ九月十三日附亞一機密第一一三號貴信ヲ以テ御下問ノ次第有之敬承右ハ大体左記ノ如キ經緯ノモノニシテ結末ヲ附ケタル上報告申進スル心組ナリシ次第ナリ

左記

六月十二日會見後本官ハ葛委員長ノ約束實行振大石會計處長ヲシテ特ニ注意ヲ拂ハシメ居リタルカ漸次惡シキ方ニアラスト謂フノミニテ別段顯著ナル好轉振モ見受ケラレサリシニ付機會アル毎ニ五百木ヲシテ引續キ注意ヲ喚起セシメ來リタル矢先八月二十日電氣機械ノ購買入札アリ本邦商モ參加シタルニ依リ絶好ノ「テスト、ケース」トシテ成行注視中ノ處開票ノ結果、銀參千壹百元(菱田洋行日本)ニ銀參千七百元(三電公司日本)ニ銀六千元(禮和洋行獨逸)ノ札順

350 昭和8年9月30日 在中国矢野大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

原平・介休間鐵道建設計画など山西省交通問題および日本側との提携に關する閻錫山談話について

北平 9月30日後發
本省 9月30日後着

第四一號(極秘)

廿五日河邊村ニテ閻錫山ト會見セルカ其ノ内話中參考トナルヘキ點左ノ通

一、山西ノ交通問題ハ自分ノ最モ重視スル點ニテ殊ニ省内ノ產物ヲ省外ニ移出ノ方法ヲ速ニ考慮スル必要アリ客年「マルタン」トノ契約成立當時自分ハ此ノ見地ヨリ滄石鐵道ノ完成ヲ第一ニセント主張セルニ南京側及佛國側ハ同蒲鐵道ヲ先ニスルコトヲ主張セルカ同契約ハ其ノ後御承知ノ通ノ次第ニテ有耶無耶トナレリ滄石鐵道問題ハ何分ニモ南京鐵道部カ主司スル關係上自分ノ意ニ委セス現在ノ模様ニテハ何時出來ルヤ疑ハ數キニ付少クトモ自分ノ省内ニ於テ交通ノ路ヲ開クカ爲今後約三年間ニ大同、保定間(太原、保定間約一千支里、太原、大同間六百支里)

ニ輕便鐵道ヲ敷設スルコトシ現ニ原平、介休間ニハ土工モ略ホ完了ニ近ツキツアリ右支線ハ大体千五百萬元位ナルヘク省内募集ノ公債ニ依ル答(往電第三三一號參照)右起工ニ關シ關係外國側ヨリ既得權利侵害ノ故ヲ以テ抗議シ來レル旨南京政府ヨリ通報アリタルカ自分ハ將來南京側ニ於テ既定計畫ニ基ク鐵道ヲ建設スルニ於テハ何時タリトモ自分ノ鐵道ヲ取除ク可キ旨回答シ置ケリ

二、⁽²⁾自分ハ各種ノ問題殊ニ省外トノ種々ノ問題ニ付南京政府ヨリ掣肘ヲ受ケ萬事控目ニセサル可カラサル立場ニ在リ例ヘハ河北問題ニ付テモ自分ニハ種々考ヘハアルモ公然ト之ヲ主張スルコト能ハサル次第ナルカ唯黃郛ノ河北整理ニ付テハ全然之ニ贊成ナルニ付出來得ル丈之ヲ支持シ度キ考ヘニテ現ニ黃郛ニ對シ若シ必要アラハ二ヶ師位ノ兵ヲ送り黃ノ衛隊ト爲スモ差支無キ旨申シ送り置ケルカ未タ同人ヨリ何等回答無シ

三、前記ノ次第二ニテ自分ハ目下山西ノ發展ニ專念シ居レルカ現在省内ニハ土匪モ共產黨モ國民黨モ無ク至極平穩ナリ唯昨年及今年ハ水害多ク農作物ノ被害多大ナルノミナラス正太鐵道ノ運賃高キニ失セル爲省内ノ石炭農作物等省

内ニ停頓シ農作物安價ニテ農民ハ負債ニ困窮シ居レリ

四、中日兩國間ノ密接ナル提携カ東亞ノ大局上絕對ニ必要ナル事ハ自分ノ好ク注意シ居ル所ナルニ付自分トシテ將來時機到來スルニ於テハ日本側ト種々御相談致度キ考ヘナルモ差當リハ極秘ノ裡ニ相互ヨリ人ヲ派シ聯絡ヲ圖リ度ク現ニ自分ハ内密靳瑞萱ヲ出シ(往電第三五一號御參照)一方大倉洋行林ヲ顧問格トシ自今一箇月ニ一回北平、太原間ヲ往復セシムル事トセリ

五、⁽³⁾孫殿英(將兵三萬)ハ青海移駐ノ途未タ包頭ニ在リ當分動ク模様モナキカ右ハ青海ニ赴ク爲メ寧夏ヲ通過セハ同地ニ在ル馬鴻逵、胡宗南(兵力四萬)ニ依リ武裝解除セラルル虞アルカ爲メナリ同軍ハ殆ント土匪團ニテ地方ノ治安ヲ紊シ居ルニ付早晚解決スルヨリ外致方ナカル可シ云々要スルニ閻ハ先ノ南北戰爭ノ創痍未タ癒ヘス政務財政ノ建直シニ專心中ナルカ一方北平政局ハ學良時代ト異リ南京直屬トナリ他方韓復榘モ南京ニ忠誠ヲ裝ヒ居ル實情ニ付閻トシテハ兎角南京ニ遠慮勝ニテ其ノ態度頗ル消極的ニ見受ケラルルモ閻ノ率ユル山西ノ勢力カ當分華北ニ於ケル一勢力トシテ存續ス可キハ明カナルノミナラス太原

等ニ於テ會談セル山西要人中ニハ滿洲事件ニ對スル我方ノ措置ヲ是認シ南京ノ遣口ヲ非難シ此ノ際徹底的日支親善ニ入ルノ要アルヲ高調セル者多ク一般官民ノ對日感情極メテ良好ナルニ付此ノ際適宜彼等ヲ啓發善導シ我方ノ經濟上ノ發展ヲ計リ華北問題其ノ他ノ解決等ニモ資セシムルコト肝要ナルヤニ思料セラル

支、滿、南京、天津、青島、濟南、漢口、廣東、奉天ニ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

品ヲ排斥セムトスルモノナルコト想察ニ餘リアリ本件金額ハ左程大ナラサルモ將來ニ及ボス影響ニ顧ミ甚タ面白カラサルニ付此ノ際至急鐵道部ニ對シ青島ニ於ケル入札ノ結果ヲ尊重シ本邦品ヲ購入スル様鐵路局ニ指令方嚴談アリ度尙斯種差別待遇ニ付支那側ヲ嚴重追及スルノ要アルコトハ先般堀内書記官歸朝ノ際打合セ置キタル通ニテ目下當方ニ於テモ從來ノ事例蒐集方等努力中ナルカ貴方ニ於テモ今後同様ノ事例ヲ發見セラレタル場合ハ遲滯ナク支那側ニ對シ其ノ反省ヲ促サル様致度

南京、北平、青島、濟南ニ轉電セリ

351 昭和8年10月3日 広田外務大臣より 在中国有吉公使宛(電報)

膠濟鐵道材料購入に際する日本製品排斥問題
 に関し鐵道部に嚴重抗議方訓令

本省 10月3日後7時0分發

第二〇三號

本大臣宛青島來信機密第四五二號ニ關シ
 鐵路局カ獨逸側ニ落札セシメムトシタル事實ト云ヒ又交通部ノ鐵路局宛回訓ト云ヒ何レモ排日的意圖ヲ以テ殊更本邦

352 昭和8年10月3日 広田外務大臣より 在青島坂根總領事宛(電報)

膠濟鐵道材料として日本製品を購入するよう
 同鐵路局に交渉方訓令

本省 10月3日後6時30分發

第九五號

本大臣發在支公使宛電報第二〇三號ニ關シ本件日本側ニ對スル落札ヲ決定セシムル爲ニハ貴地ニ於テモ右電報ノ趣旨

御舎ノ上鐵路局側ニ適當ノ措置ヲ執ラル、コト肝要ト存ス
ルニ付右可然御取計相成度
支、北平、南京、濟南へ轉電セリ

353

昭和8年10月3日 広田外務大臣より
在仏国沢田臨時代理大使、在英国松平
大使、在ベルギー佐藤(尚武)大使他宛

華北における我が方權益發展策および列国の
对中国財政的援助に対する措置につき訓令

付記一 九月一日付、守島亜細亜局第一課長作成

「北支地方ニ對スル我方經濟的發展策ニ關ス
ル件(守島試案)」

二 九月二十六日付、守島亜細亜局第一課長作成

「對支不確實債權整理問題及北支方面ニ於ケ
ル我方權益ノ保全伸張方ニ關スル施策ノ件」

亞一機密合第一一三九號

昭和八年十月三日

外務大臣 廣田 弘毅

北支ニ於ケル我方權益ノ進展策及列國側策動ニ

題該鐵道布設ニ關聯シ井涇^{（漢）}其他所謂山西炭ニ對スル「コ
ントロール」ノ獲得モ考慮シ居レリ」等ハ其ノ尤タルヘキ
モノナリ(右兩問題ニ付何等御參考迄別紙第三號及第四
號送付スルモ右ノ中第三號ノ内容及本項我方ノ方策ハ特
ニ極祕トセラレ度)

三、因ヨリ敍上目的ノ達成ハ忍耐ト熱心トヲ以テ相當ノ期間
ニ亘リ慎重且執拗ナル畫策努力ヲナスノ要アルコト申ス
迄モナキ所ナルカ他面列國側ニテモ前記諸問題ニ付利害
關係ヲ有シ其ノ間種々ノ策動アル模様ナルニ付(例ヘハ
滄石鐵道ニ對スル正太鐵道關係佛國筋ノ策動(別紙第一
號及第二號參照)山東鐵道延長線ノ一タル濟南道口線ニ
對スル道清鐵道關係英國筋ノ利害關係(別紙第四號ノ三
參照)乃至井陘炭ニ對スル英國側ノ關心(別紙第二號ノ三
ノ(ト)參照ノ如キ然リ)我方ニ於テハ此等策動ニ對シ不斷
ノ監視ヲ加ヘ列國側ノ拔馳行動ヲ抑制シツツ我方目的ノ
達成ヲ計ルヘク又場合ニ依リテハ關係列國側トノ協力ノ
下ニ而モ出來得ル限り我方ニ有利ナル「ライン」ニ依リ
前記諸問題ノ解決ヲ期スルコトモ一策ナルヘシ(此ノ意
味ニ於テ別紙第二號ノ三ノ(ハ)圓卓會議開催ノ件ハ相當耳

對スル措置ニ關スル件

一、列國側ノ統制ナキ對支援助ハ支那ノ對外關係ヲ紛糾セシ
メ同國國內ノ和平統一ノ障害ヲナスニ過キス從テ該援助
ハ極東ニ於ケル帝國ノ權威ト實力ニモ顧ミ我方ヲ通シ若
ハ我方協力ノ下ニ行フヲ要ストノ主張ハ帝國政府ニ於テ
從來機會アル毎ニ列國側ニ對シ繰返シ説示シ來リタル所
ナルカ我方トシテハ此ノ上共右主張ノ徹底方ヲ計ルト共
ニ斯種援助ノ具體化、殊ニ我方ニ不利ナル列國側ノ對支
經濟的進出ニ不斷ノ注意ヲ拂ヒ之ヲ排除スルニ努ムルニ
止ラス進シテ我方經濟力ノ對支伸張ニ付一層ノ力ヲ致シ
必要ニ依リテハ列國側トノ協調ニ依リ我方ノ地歩ヲ確保
スルヲ要スルコト多言ヲ要セス

二、一方日支關係ノ好轉殊ニ北支停戰成立後同地方ニ醸成セ
ラレツツアル我方ニ比較的有利ナル特殊ノ事態ノ進展ニ
伴ヒ北支一圓ニ於ケル我方權益ノ伸張ヲ計ルハ啻ニ同地
方ニ於ケル我方ノ地歩ヲ確保スル爲ノミナラス對支全般
ノ關係上モ甚タ肝要ナル次第ナリ而シテ右權益ノ伸張ノ
對照ハ種々アルヘキモ就中我方トノ間ニ從來ヨリ種々ノ
關係乃至因縁アル山東鐵道延長線問題及滄石鐵道建設問

寄ノ話ナルカ差當リ我方ヨリ本件ヲ持チ出スコトハ勿論
其ノ他餘リ熱心ヲ示スコトハ考物ト存ス

四、敍上ノ次第ナルヲ以テ我方トシテハ此ノ際我方目的達成
ノ基礎工事的措置ノ意味合ニ於テ右別紙第二號「パブロ
ブスキー」談話等ニ關聯シ關係列國側ト當時連絡ヲ保ツ
ト共ニ前記諸問題其ノ他北支地方ニ於ケル同種ノ問題ニ
對スル我方ノ關心ヲ彼等ニ「インプレス」シ置クコト緊
要ナルヘシ(但シ前記第一項我方ノ方策ヲ嚴祕ニ付スル
ノ要アルコトハ上述ノ通ナリ)就テハ右基礎工事的措置
ノ意味合ヲ以テ爾今時々措置方申進ムルコトアルヘキモ
以上ノ次第御舎ノ上我方目的貫徹方最善ノ努力ヲ以テ可
然運用相成様致度尙ホ差當リ英佛等ニ於テ左記事項可然
御取計相成度

(一)別紙第二號佛國側鐵道材料借款ノ成立ハ恐ラク事實ナ
ルヘシト認メラルル處元來該借款ハ「アデイス」ノ正
金宛來信(別紙第一號)ノ正太鐵道延長線借款ニ代ルモ
ノト認メラルルヲ以テ在佛大使館ニ於テ佛國外務省方
面及「チオン、ド、ラ、シヨーム」邊リ等適當ト認メ
ラルル筋ニ對シ右「アデイス」來信ノ經緯ヲ辿リ「正

太鐵道收入ヲ擔保トスル同鐵道延長線ニ關スル佛支借款豫備契約ニ關シテハ客年末「ド、ラ、シヨーム」ヨリ「アデイス」ヲ通シ正金側ニ情報アリタルカ同借款ハ其ノ後如何ニナリタルヤ又同借款ニ代リ正太鐵道收入ヲ擔保トスル鐵道材料借款成立シタルヤノ聞込アル處右ニ關シ何等情報アリヤ」(情報ノ出所即チ須磨カ「パヴロウスキー」ヨリ聞込ミタル經緯ニ言及セサルハ勿論我方ニテ金額條件等詳細ハ情報ヲ有セサルカ如何同電アリ度(右質問ノ目的ハ情報入手ノミナラス本件借款ニ對スル我方ノ關心ヲ「インプレス」スルニアルニ付此ノ趣旨ヨリスルモ將又本件借款ニ對スル佛國官邊ノ意嚮ヲ「サウンド」スルカ爲ニモ佛國外務省方面ニ對シ適當ノ機會ニ本件ニ言及セラルルコト適當ナルヤニ思考スル次第ナリ他方後掲(三)ノ倫敦正金ヨリ「アデイス」ニ對スル照會ハ從來ノ例ニ依レハ「アデイス」ヨリ「ド、ラ、シヨーム」ニ轉達セラルヘシトハ存スルモ果シテ「ド、ラ、シヨーム」カ「アデイス」ニ如何ナル程度迄真相ヲ回答スルヤ疑問ニシテ「アデ

畫ハ絶對極秘トセラレ度キコト前述ノ通ナリ)尙佛國側トシテハ前記圓卓會議ニ關スル「パヴロウスキー」ノ須磨ニ對スル内話ノ外「マルソーリー」ノ重光公使ニ對スル日佛協力方ニ關スル内話(前記亞一調書第一六六頁末段參照)ノ次第アルニ付右御含置キアリ度尤モ差當リ右協力ノ件ヲ我方ヨリ持チ出スコトハ勿論其ノ他餘リ熱心ヲ示スコトノ面白カラサルハ前記ノ通ナルカ唯タ先方トノ話ノ都合ニ依リテハ將來協力ヲ可トスル場合發生スルコトアルヘキヲ考慮ニ入レツツ本件ニ付テモ適當應酬スルコト然ルヘシ

(三)別紙第一號「ド、ラ、シヨーム」ノ「アデイス」宛十一月五日附書翰ノ如ク佛國側借款カ公債ヲ募集スルモノナルニ於テハ借款國トシテ同團規約ニ基キ發言シ得ヘキハ勿論ナルモ材料供給借款ノ如キ公募セラレサル融通ニ付キテハ借款國規約ニ基キ抗議ノ餘地ハナカルヘキヤニ認メラルノミナラス將來我方ニ於テ同様ノ便法ヲ用フルコトアルヘキ場合ヲモ豫想スレハ此ノ種借款ニ付借款團ノ介入ヲ認ムルハ必スシモ好マシカラサル次第ナルカ唯タ此ノ際本件佛國側ノ措置ニ對スル

イス」ニ對スル照會ハ情報入手上ハ餘リ期待シ得サルヤニ思考セラルルノミナラス幸ヒ「ド、ラ、シヨーム」ハ近來對滿投資ノ關係等ヨリ在佛大使館ニ接觸アル模様ニモアリ將又我方ノ關心ヲ「インプレス」スル目的ヨリスルモ前記「アデイス」宛照會及外務省方面ニ對スル措置ト併行シ在佛大使館ニ於テ直接「ド、ラ、シヨーム」ニ對シテモ前記質問ヲ試ミラルルヲ得ハ好都合ト存ス

(二)滄石鐵道ニ對シ我方カ權利ヲ有スル次第ハ曾テ重光公使ヨリ在支佛國公使ノ注意ヲ喚起セル經緯(昭和七年十二月第六十四議會用亞一調書第二卷ノ二第一七〇頁參照)モアリ又須磨ヨリ「パヴロウスキー」ニモ話シ居ル譯(別紙第二號三末段參照)ナルカ前記(一)ノ佛國外務省方面等ニ對スル問合セ等ノ場合話ノ都合ニ依リテハ改メテ右權利ニ言及シ置クコト然ルヘク(右權利ニ關シテハ華昌公司ト滄石鐵道局ノ間ニ昭和四年締結セラレタル借款契約ニ依リ我方ハ同鐵道ニ權利ヲ有スト言フ程度ニ止メ該契約ノ内容其ノ取消云々ノ經緯等ニハ言及セサルコトト致度殊ニ別紙第三號二以下最近ノ計

我方ノ關心ヲ借款團及同團英國「グループ」ニ「インプレス」シ置クコトハ適當ト認メラルルニ依リ在英大使館ニ於テハ前記(一)佛國側ヘノ質問ト平行シ同様ノ趣旨ヲ正金側ヨリ「アデイス」ニ質問セシムルコトト致度シ(右正金本店ト打合濟ミ、本店ヨリ倫敦支店ヘ佛支鐵道材料借款ニ關シ在英大使館ト打合セノ上措置スヘキ旨訓令ノ筈)尙對英關係ニ於テハ左記ニ點御注意アリ度シ

(イ)別紙第一號中「アデイス」發「ド、ラ、シヨーム」宛附書翰ハ(a)隴海鐵道ノ改良及延長並ニ(b)滄石鐵道建設ノ借款ニ關シ情報ヲ求メ居ル處「ド、ラ、シヨーム」ヨリノ回答ハ隴海鐵道ニ言及シ居ラス、然ルニ佛國側借款ニ依ル材料ハ隴海鐵道ニ使用セラルル趣(別紙第二號二末段參照)ニシテ此ノ間何等カノ事情アルニ非サヤトモ思ハルルノミナラス英白間ニモ隴海線ニ關シ鐵道繫爭アルヤノ趣(別紙第二號ノ四參照)ニモアリ更ニ井涇炭ノ問題ニ付テ英佛間ニ問題アル趣(別紙第二號ノ三ノ(ト)參照、尙同炭坑ハ我方モ利害關係アルニ付同炭坑ノ問題ニハ差當リ言及セ

サルコトト致度シニ付此等英佛及英白間ノ利害關係ノ不一致ノ真相如何及之ニ對シ英國側ノ求ムル解決如何等ハ我方ニ於テ前記我方ノ方策ヲ進ムル上ニ於テ極メテ有益ト認メラレ前記「アデイス」宛照會モ我方ノ關心ヲ「インプレス」スル目的ノ外右英國側意嚮ヲ「サウンド」スル結果トモナラハ好都合ナリ

(四)前記井涇炭問題ハ滄石鐵道ニ關係アルモ英國側ハ同鐵道ニ對シ差當リ策動シ居ル模様モナク加之昭和四年ノ滄石鐵道契約ハ成立後間モナク取消云々ノ經緯ノ爲現實ニハ借款團トノ關係發生スル暇ナカリシモ當時帝國政府ニ於テ種々研究ノ結果該借款ノ成立ヲ借款團ニ通告スル等ノ措置ヲ執ラス又公募セラレサル融通ナルコト等ニ鑑ミ之ヲ借款團ニ「プール」セサル方針ニ略々內定シ居タル次第モアリ差當リ「アデイス」ニ對シテハ前記(二)我方カ滄石鐵道ニ權利ヲ有スル次第ヲ話シ置ク必要ナカルヘシ

(四)尙在支公使外五館宛亞一機密合第八二三號(佛白蘭宛機密合第八二三號)汴洛鐵道利權讓渡方申出ノ件ニ付テハ其ノ後ニ於ケル事態ノ變轉殊ニ本信冒頭ノ趣旨ニ

モ鑑ミ當時トハ別途ノ考慮ヲ加ヘ得ヘキ餘地生シ來レルヤニ認メラルル處差當リ在佛大使館ニ於テ右申出ノ權利ハ如何ナル契約ニ基ク何人ヲ權利者トスル如何ナル權利ナリヤ又果シテ該權利ノ讓渡カ可能ナリヤ等ヲ先方ニ就キ一應御確メノ上結果同電アリ度シ但我方カ本件申出ニ應スルヤノ趣旨ヲ「コムミット」セサル様特ニ御留意相成度

(五)前記(三)「アデイス」宛申入ハ自然「モルガン」側ニモ通報セラルヘキヤニ思考セラルルニ付右在米大使館等ニ於テモ御含ミ置キ相成度尙米國側ノ北支ノ鐵道鑛山等ニ對スル活動ハ曾テ大正六年十一月「シームス、ケリー」會社カ日本興業銀行ニ對シ滄石鐵道建設工事ヲ日米共同シテ引受ケンコトヲ提議シタルコトアルモ爾後最近ニ至ル迄特ニ見ルヘキモノナキカ如シ尤モ最近米資ニ依ル西北鐵道建設計畫(南京發外務大臣宛機密合第五二一號參照)ナルモノ傳ヘラルル處斯ノ如キ計畫ハ急速ニ實現スルコト到底不可能ト認メラルルモ「シームス、ケリー」「アメリカン、インターナショナル、コーポレーション」名義ノ大正六年取得セル河

南省周家口湖北省漢陽間其ノ他二線ニ對スル權利乃至同社ノ大正五年取得セル山西省豐鎮、甘肅省寧夏間外四線ノ權利等ハ確定的ニ拋棄セラレタルモノト解シ難ク此等關係ニ鑑ミルモ西北鐵道計畫ハ必スシモ絶對ニ有リ得ヘカラサルコトニモ非サルヘク旁々隴海鐵道ニ對スル白國側權利乃至英白間ノ繫爭等トモ關聯シ注意ヲ要スルモノアルヤニ認メラル

別紙第一號(祕)正太鐵道收入擔保ノ同鐵道延長線ニ關スル借款團關係往復書翰(昭和七年十一月二十三日附在英大使發外務大臣宛公信機密第四一二號ヲ以テ送付アリ佛白支ヘハ送付スミノ答)

別紙第二號(祕)正太鐵道擔保ノ佛支鐵道材料借款其ノ他ニ關スル情報(關係電信ノ一部ハ歐米ニ轉電スミノモノナリ)

別紙第三號(極祕)最近ニ於ケル滄石鐵道問題

別紙第四號(祕)山東鐵道延長線ノ權利關係及其ノ道清鐵道延長線トノ關係

本信宛先及送付方法

在佛大使(十月五日發加奈陀經由白國ヘ赴任ノ大鷹書記官ニ托送)

在英大使(同右)

在白大使(同右)

在米大使(郵囊便ニ依ル)

在紐育總領事(右ト同様在米大使館ヘ送付ノ上米ヨリ好便ニ托送ノコト)

在支公使(十月七日出發赴任ノ鎌田書記生ニ托送)

在南京總領事(右ト同様在支公使館ヘ送付ノ上好便ニ托送ノコト)

在北平大使館參事官(特別遞送ニ依ル)

在天津總領事 (同右)

在青島總領事 (同右)

在濟南總領事 (同右)

在滿大使(十月八日出發赴任ノ井上書記官ニ托送)

別紙第一號

The China Consortium
Central Agency

9 Gracechurch Street,
London, E.C. 3.
November 10, 1932.

My dear Nohara,

I enclose copy of a letter which I addressed to de la Chaune, and of his reply, regarding a Chinese Railway Loan agreement reported to have been signed by Mr. de Vos of the Société Française de Construction et d'Exploitation de Chemins de Fer en Chine.

The correspondence will no doubt be of interest to your Group.

Yours sincerely,
(Signed) C.S. ADDIS

D. Nohara, Esq.,
The Yokohama Specie Bank, Ltd.,
7, Bishopsgate, E.C. 2.

The Chinese Consortium
Central Agency

9 Gracechurch Street,
London, E.C. 3.
November 3, 1932.

My dear de la Chaune,

I hear from Shanghai that the draft of a Loan Agreement has been signed by the Ministry of Railways and the Société Française de Construction et d'Exploitation de Chemins de Fer en Chine, whose Representative in China is M. Robert de Vos, for (a) the rehabilitation and extension of the Lunghai (隴海) Railway, and (b) the construction of a line from Shichiachwang (石家莊) to Tientsin. The loan is stated to be secured on the earnings of the Chengting-Taiyuan (正定—太原) (Shansi) Railway, of which the construction loan of 1902 has now been paid off.

Can you tell me anything about this?

Yours sincerely,
(Sgd) C.S. ADDIS

Monsieur R. Thion de la Chaune,

Banque de l'Indo-Chine,
Paris, VIIIe.

BANQUE DE L'INDOCHINE.

Paris,
le 5 Novembre, 1932.

CONFIDENTIELLE.

Sir Charles Addis, K.C.M.G.,
c/o Hongkong & Shanghai Banking Corporation,
9, Gracechurch Street,
London, E.C. 3.

Cher Sir Charles,

CHEMIN DE FER DU TCHENG-TAI. (正太)

En réponse à votre lettre du 3 courant, voici ce que je sais sur le Contrat d'Emprunt qui aurait été conclu dernièrement entre le Gouvernement Chinois et la Société Française de Construction et d'Exploitation de Chemins de fer en Chine.

Aux termes du contrat d'Emprunt du 15 Octobre

1902, la ligne du Shansi (山西) (dite du Tcheng Tai) construite et exploitée par cette Société, devrait revenir au Gouvernement Chinois le 1er Septembre 1932, le service ayant été régulièrement assuré et toutes les obligations étant remboursées à cette échéance.

Toutefois, une discussion s'était élevée au sujet du règlement des coupons et des titres de cet Emprunt. Les porteurs ont demandé à être payés et remboursés "en or" et ils ont obtenu en 1928 un jugement du Tribunal de la Seine faisant droit à leur demande et nommant un séquestre des fonds destinés au service. Naturellement le Gouvernement Chinois refusait de reconnaître cette prétention. Après de longues discussions, un arrangement aurait été conclu le 14 Juin dernier.

Nous n'en connaissons pas le détail mais ses grandes lignes seraient les suivantes:

La Société Française se serait engagée à émettre un emprunt de frs. 400,000,000 à 6% aux taux de 90, garanti par les recettes de la ligne du Tcheng-Tai et destiné:

1. à construire une ligne de 320 kilomètres prolongeant le Tcheng-Tai de son terminus sur le Peking-Hankéou à Takou (大沽⁽⁶²⁾), à l'embouchure du Peiho (白河).

2. à construire un embranchement de 70 kilomètres environ partant de la ligne du Shansi à la hauteur de Yutze et allant à Tai-Kou (太谷) dans la vallée du Fen-Ho (汾河), cette voie empruntant le tracé du futur Tung Cheng. (同成)

Vous trouverez ci-joint, deux notes sur ces lignes dont le revenu d'exploitation servirait de gage supplémentaire à l'Emprunt à émettre.

Une partie des fonds serait d'ailleurs utilisée:

a) à indemniser les porteurs de titres de l'Emprunt de 1902, suivant des modalités que nous ne connaissons pas, mais qui seront forcément rendues publiques;

b) à rembourser les porteurs de la tranche d'obligations du Tung-Cheng émise en vertu du contrat de £ 10, 000,000 signé le 22 Juillet 1913 par la Société Française

che de cette somme.

L'Ingénieur en Chef de la Société Française qui a signé ce contrat, prétend, paraît-il, qu'elle n'a besoin de s'en procurer que le huitième, le reste étant déjà pris ferme par des Banques Chinoises. Je vous avoue que je suis sceptique sur l'issue de cette opération; car les Banques Chinoises souscriront peut-être mais auront de la peine à délivrer la marchandise, quant au public français ou belge, je doute qu'il se contente d'un intérêt de 6% pour prêter son bon argent avec des garanties aussi faibles. La ligne du Tcheng Tai a été remise au Ministère des Chemins de Fer et le contrôle des recettes de cette ligne sera maintenant bien difficile. Dans tous les cas, je sais que rien n'a encore été fait pour essayer de se procurer ici les fonds nécessaires et que le contrat du 14 Juin semble avoir été signé sans tenir compte des possibilités financières de l'opération.

Je ne manquerai pas à vous communiquer les renseignements complémentaires que je pourrai me pro-

de Construction et d'Exploitation de chemins de fer en Chine pour la construction de cette ligne et qui est depuis lors restée en souffrance. Cette tranche est d'environ £1,000,000. L'amortissement en aurait été déjà commencé depuis quelques années au moyen de prélèvements sur les bénéfices d'exploitation du Tcheng-Tai; mais par suite de l'accumulation des intérêts, la somme actuellement due serait supérieure au capital avancé.

Vous vous souvenez sans doute que lors des négociations qui ont précédé la formation du nouveau Consortium en 1920, Francqui avait demandé d'admission d'une Groupe Belge mais en émettant la prétention de faire rembourser par la communauté cette avance qui avait été faite pour obtenir la concession du Tung Cheng.

Voilà ce que je sais de l'accord signé le 14 Juin dernier.

Maintenant, il s'agit de trouver les frs. 400,000,000 du contrat d'emprunt, ou tout au moins une première tran-

cher sur cette affaire.

Vous le savez, cher Sir Charles, l'expression de mes sentiments les meilleurs.

R. TH. DE LA CHAUME.

CHEMIN DE FER DU TSANG CHE

(de Shihkiachwang à Takou).

Cette ligne, la plus importante puisqu'elle doit avoir environ 320 kilomètres, sera construite à l'écartement d'un mètre, et prolongera le Tcheng Tai jusqu'à la mer au port de Takou. L'écartement d'un mètre a été adopté pour éviter au fret venant de l'intérieur du Chansi une rupture de charge à Shihkiachwang. Une autre raison qui n'est pas officielle mais qui n'est pas sans valeur, c'est que le matériel utilisé sur cette voie ne pourra pas, en cas de confiscation par les militaires, être emmené sur les réseaux avoisinants qui sont tous à voie normale. Pour éviter toutefois de grosses dépenses au cas où déciderait plus tard de mettre la ligne à la voie normale,

l'infrastructure, le tracé et les ouvrages d'art seront prévus pour la voie normale.

La ligne traverse de Shihkiachwang à Takou une région de cultures assez riche. Du point de vue construction elle semble assez aisée, le pays étant à peu près constamment plat et en bon terrain d'un bout à l'autre. Pas d'ouvrages d'art importants; seulement à Takou, un port maritime à construire à l'usage particulier du chemin de fer. Le fret Shansi-Takou consistera surtout en charbon à destination du Japon anthracite de très belle qualité.

Le tracé comportera trois sections de l'Ouest à l'Est.
1ère Section: Shihkiachwang (石家莊) / Siao Fang (小範)
cette dernière localité à mi-chemin entre les lignes du Kin-Han (京漢) et du Tsin-Pou (津浦), sur une rivière navigable.

2ème Section: Siao Fang / Tsang Chow (滄州) sur le Tsin-Pou (津浦).

3ème Section: Tsang Chow / Takou (太沽).

n'apparaît cependant pas évidente; la construction de cet embranchement aurait été décidé pour fixer politiquement Yen Hsi Shan, Gouverneur du Shansi qui le réclamait, et amorcer ainsi le Tung Cheng.

La ligne suivra du Nord au Sud dans de bons terrains la vallée du Fen Ho (汾河), rivière qui va au fleuve jaune. C'est une région assez riche. Suivant les disponibilités, on poussera la voie jusqu'à Tai Kou (50 kilomètres) ou Pling Tao (70 kilomètres). Il n'est guère possible de prévoir le rendement de cette ligne.

The Yokohama Specie Bank, Ltd.,
7, Bishopsgate, London, E.C. 2.
11th November, 1932.

Sir Charles Addis, K.C.M.G.,

Hongkong & Shanghai Banking Corporation,
9, Gracechurch Street, E.C. 3.

Dear Sir Charles,

I beg to acknowledge receipt of your letter of the

L'achèvement de cette ligne demanderait deux ans à deux ans et demi. Une partie de l'infrastructure a déjà été faite en 1920 par les soins de la Famine Relief Commission qui y a employé les coolies dont elle avait charge. Complètement terminée, elle constituerait avec le Tcheng Tai un réseau de 560 kilomètres traversant un pays riche en ressources minières ou agricoles et aboutirait à la mer après avoir croisé les deux grandes artères que sont les chemins de fer du Kin-Han et du Tsin-Pou. Elle serait, nous dit-on, assurée d'un bon trafic payant.

TRONÇON DU TUNG CHENG (同成)
(de Yu Tzsu (滄次) à Tai Kou (太沽))

Cette ligne serait construite à l'écartement normal des voies d'Europe: 1m. 445.

Partant de Yu Tzeu sur le Tcheng Tai, elle prolongera ce chemin de fer vers le Sud. Son utilité immédiate

10th instant, enclosing copies of a letter which you addressed to Monsieur de la Chaume, and his reply, regarding a Chinese Railway Loan Agreement, for which I am much obliged.

Yours sincerely,
(Signed) D. NOHARA

別紙第二號
正太鐵道ヲ擔保ノ佛支鐵道材料借款其ノ他ニ關スル
情報

「昭和七年前半ニ於テ正太鐵道ノ收入ヲ擔保トスル同鐵道延長線(石家莊ヨリ滄州ヲ經テ太沽ニ至ル、滄石鐵道又ハ沽石鐵道ト稱ス)建設借款豫備契約佛支間ニ成立セル旨傳ヘラレタル次第ハ昭和七年十二月第六十四議會用亞一調書詳述ノ通ニシテ當時ヨリ在支公使館ニ於テハ白耳義「シンヂケート」在支代表者 Lambert ヨリ情報ヲ得居タル處昭和八年五月一日「ランペール」ハ在支公使館員ニ對シ左ノ趣旨ヲ内話セル由
沽石鐵道借款ニ關スル佛支間豫備契約ハ結局不成立ニ終

リ正太鐵道ハ佛國人「オーデイター」一名及佛人技師數名ヲ殘シ支那側ニ回收セラレタルカ鐵道部長顧孟餘ハ本年初メ更ニ自分ニ對シ隴海鐵道延長線潼關、西安間ニ用フヘキ鐵道材料「フィクスト、エクイップメント」及「ローリング、ストック」ノ購入ヲ「ファイナンス」スルタメ正太鐵道ノ收入ヲ擔保トシ「シンヂケート」ヨリ正太鐵道ニ會計主任「チーフ、アツカウナント」ヲ入ル條件ニテ三千五百万乃至四千万法ノ借款締結方ヲ提議シ來レルカ白耳義側ニ於テハ汴洛鐵道借款ニ關スル金法問題ノ未解決及正太鐵道ニ對スル白耳義「シンヂケート」ノ擔保權侵害ヲ理由トシテ右契約ノ引受方拒絕シタル經緯アリ其ノ後聞ク處ニ依レハ上海「フレンチ、シンヂケート」關係者 Pavlovsky (Le Matériel Technique 支配人) ハ二月末或ハ三月初大體前記鐵道部長ノ自分ニ對スル申出ト同一ノ條件ニテ極秘裡ニ鐵道部トノ間ニ本件契約ノ締結ヲ了シタルモノノ如ク白耳義公使館ハ正太鐵道ニ對スル擔保權侵害ヲ理由トシ又佛國公使館ハ正太鐵道借款支拂ニ關スル金法問題ヲ理由トシ夫々右ニ對シ支那政府ニ抗議ヲ提出シタル趣ニテ「パヴロウスキー」ハ本件ニ關

スル佛國公使館側ノ了解取付ノ爲北上スル筈ナリ」云々
 三、在支公使館須磨書記官ハ五月六日北平ニ於テ前記「パヴロウスキー」ニ面會セルカ其ノ際「パ」ハ極秘ノ含ヲ以テ左ノ趣旨ヲ内話セル由
 (イ) 三月初メ略前記「ランベール」内話ノ條件ニテ鐵道部ト上海「フレンチ、シンヂケート」トノ間ニ鐵道材料供給ノ契約ヲ締結シ之ニ基ク材料ノ供給ハ既二一ヶ月前ヨリ開始セラレ本年內ニ終了スル豫定ナリ
 (ロ) 支那側ハ右材料ヲ隴海線延長線潼關、西安間ニモ使用スルモ主トシテ正太線延長線榆次、太谷間(太原ノ南)三十六軒ノ建設用ニ供スル筈(支那側ハ今後全部「スタンダード、ゲージ」ヲ採用セントスル計畫ニナル爲正太本線ハ「ナロー、ゲージ」ナルニモ拘ラス今回ノ機關車ハ全部「スタンダード、ゲージ」用ノモノナリ借款ハ五年間ニ正太鐵道ノ收入ヨリ支拂フ
 (ハ) 本契約ハ材料ノ供給ヲ目的トスルモノニシテ該材料カ如何ナル鐵道ニ使用セラルヘキヤヲ特定シ居ラサルカ故ニ日本側ノ滄石案ニモ抵觸スル事ナク又一見白耳義側ノ正太鐵道收入上ニ有スル擔保權ヲ侵害スルノ感ナ

キニシモ非サルモ元來白耳義側ノ有^(ハ)スル權利ハ右鐵道收入ノ「サープラス」ニ對スルモノナル處從來支那側ハ事實上右「サープラス」ヲ流用シ居リ白耳義側擔保權ハ常ニ侵害セラレ勝ちナリシニ今回ノ條約ニ依リ「フレンチ、シンヂケート」側カ白耳義ノ分ヲモ鐵道收入中ヨリ支拂フ「シエデュール」ヲ建テタルニ依リ白耳義公使「ギヨーム」モ右ハ從來ノ實際上ノ擔保權侵害ヲ免カルコトヲ得テ却テ白耳義ニトリ利益ナリト欣ヒ居レリ

(ニ) 佛國公使「ウイルデン」トモ相談ノ結果正太鐵道ニ對スル佛國側ノ監督權ヲ嚴重ニスル爲再ヒ六名ノ技師ヲ更ニ増加シテ收入及其ノ確保等ノ方法ヲ講ス
 (ホ) 「マルタン」ノ活動ニ依ル例ノ滄石鐵道案ハ目下ノ所問題トナラサルモ佛國側トシテハ該鐵道案ヲ是非トモ實現シ度ク思ヒ居ル次第ナルカ實際上ノ見地ヨリ日本側ノ有スル契約ニ抵觸セサル様日佛合同ノ形式ニテ實現スルカ如キコトトモナラハ最モ妙ナルヘク何レ該案具體化ノ時期トモ成ラハ更ニ佛國側ヨリ日本側ニ協議スヘシ云々

三、「パヴロウスキー」ハ八月末佛國公使館「ボデー」ト共ニ正太線ヲ視察シ十五日歸滬セル趣ニシテ九月十六日須磨書記官ニ對シ左ノ通内話セル由ナリ
 (イ) 鐵道部對「フレンチ、シンヂケート」ノ正太線收入擔保五千萬法鐵道材料借款ハ本年三月成立シ既二二千六百萬法ニ相當スル機關車其他ノ鐵道材料ノ供給ヲ了シ殘部ハ來年七月迄ニ供給ノ事トナリ居レリ
 (ロ) 正太線ノ收入確保ノ爲佛國側ヨリ會計主任、技師等ヲ入レ居ル事前内話ノ通りニテ五月ハ前年同月ニ比シ八萬元ノ增收ヲ見タル由
 (ハ) 五ヶ年內ニ右借款ノ完済ヲ見サル時ハ佛國側ニ於テ正太線ノ「コントロール」ヲ獲得スル事トナリ居リ又契約中ニハ特ニ仲裁條項ヲ設ケ必要ノ場合ニハ「アムステルダム」ノ萬國商業會議所ノ任命スル「アービトリター」ニ依リ紛爭ヲ解決スル事トセリ尙後日ノ紛議ヲ避クル爲鐵道部ハ本契約締結前監察院、行政院ノ了解ヲ得置キタリ
 (ニ) 然ルニ今次自分等ノ山西視察旅行ノ結果正太鐵路局側ニ於テハ佛國側ノ延長線敷設權ヲ無視シ支那銀行ヨリ

四百五十萬元ノ借款ヲ得テ榆次^{ユウジ}大谷間ノ鐵道工事ヲ開始シ更ニ平遙迄延長方計畫中ナルコトヲ發見セリ加之閻錫山軍隊ヲ利用シテ別ニ正太線ト併行シ太原榆次間ニ枕木ヲ敷設シタル外榆次ヨリ前記延長線ト並行スル新線ノ敷設工事中ナルコトモ發見セリ(閻ノ計畫ニ依レハ右二線敷設ニハ約一千七百萬元ヲ要スル由)依テ自分等ハ閻ニ會見ノ上嚴重抗議シタルモ埒明カサリシニ付自分ハ近ク鐵道部ニ對シ右權利侵害ニ付注意ヲ喚起スル積リナリ

(ホ)白耳義側ノ正太鐵道及太原潼關線ニ關スル權利ナルモノハ一九一三年ノ同成鐵道契約ニ基クモノナルモ該契約ニハ契約締結後六ヶ月内ニ起工スヘキ旨ノ規定アリ又一九二二年ヨリ一九三二年ノ間ニ右契約ノ當事者タル Soci t  Franco-belge カ正太鐵道收入中ヨリ回收セル一千四百元⁷⁷ハ既ニ佛白兩關係會社ニ分割濟ミナルノミナラス白耳義側會社ノ株ハ大半佛人ノモノナレハ「フレンチ、シンヂケート」ニ於テハ右白耳義ノ主張ヲ重要視シ居ラス

(ヘ)但シ支那側ノ搾取ヲ極力防止スル必要アルヲ以テ支那

モ思考セラル

五、前記「パヴロウスキー」及印度支那銀行天津支店員「ドウメ」ト同行太原地方ヲ旅行セル南京駐在佛國公使館書記官「ボーデ」ハ日高總領事ニ對シ左記ノ通内話セル由

(イ)昨年支那側ノ正太鐵道回收後全鐵道管理局長王懋功(汪精衛派)ハ軍閥ノ搾取ヲ免ルル爲ニハ外國ノ利益ヲ存シ置クヲ有利ト認メタル結果支那側ニ於テ相當數ノ佛人技師ヲ存置スルト共ニ「パヴロウスキー」ニ於テ有效ナル會計監督ヲ行フコトヲ認メタルニ依リ佛國側トシテハ相當ノ成績ヲ收メツツアリ尙同線ノ廣軌改造ハ目下ノ處問題トナリ居ラス

(ロ)南京政府及管理局長等ニ於テハ前記ノ考慮等ヨリ閻錫山等ニ對シ今回「ボ」、「パ」等ノ來訪ヲ利用シ佛國側ニ於テ各種事業ニ投資スル計劃アル如ク大袈裟ニ吹聴シ御祭り騒キヲ演シタルカ實ハ佛國側ニテハ此ノ際積極的投資等ノ考ナシ

(ハ)閻錫山ハ單純ナル頭腦ノ所有者ニシテ同地方ニ鋼鐵廠其他各種工場ノ設置等ヲ夢見居ルモ現狀ニテハモノニナラサルヘシ

鐵道ニ利害關係ヲ有スル列國ニ於テ密接ナル聯絡ヲ取ル事必要ニテ自分ハ更ニ進シテ例ヘハ日英佛伊等ノ圓卓會議開催方然ル可シト考ヘ居レリ

(ト)英國ハ開鑿炭擁護ノ爲井陘炭坑ノ進出ヲ協力警戒シ沽石鐵道其ノ他ノ計畫ヲ阻止セン野心ヲ有ス云々

尙右内話ニ對シ須磨書記官ヨリ「パ」ニ對シテ滄石鐵道ニ對スル我方權利ヲ「インプレス」シ置キタル由

四、駐支白耳義公使ハ九月十八日須磨書記官ニ對シ隴海線ニ關スル英白間及正太線ニ關スル佛白間鐵道擊爭^{キウソウ}ニ關シ近ク鐵道部ト交渉ノ意向ナル旨語レルニ付須磨ヨリ白耳義側關係者ニシテ我方ニ對シ汴洛鐵道權利讓渡方申出テタルモノアル次第ヲ内話シ今後トモ情報ノ交換方希望シ置ケル趣ナリ

(註)右正太線ニ關スル佛白間ノ擊爭^{キウソウ}トハ前記(三)ノ(ホ)ヲ意味スルモノナルヘキモ隴海線ニ關スル英白間ノ擊爭^{キウソウ}トハ具體的ニ如何ナル擊爭^{キウソウ}ナリヤ判明セス固匪賠償金英國返還分ニ依リ購入供給セラルル鐵道材料(主トシテ粵漢鐵道ニ使用セラルル筈)ヲ隴海鐵道ニモ振向クル計畫アル由ナレハ何等カ此ノ邊ニ關係アルニ非スヤト

(ニ)太原以南ノ路線ハ支那側ノ手ニテ相當出來居ルモ目下之ニ敷設シアル軌條ハ貧弱ナルモノニテ正太線ニ使用セル車輛サヘモ運行出來サル程度ナリ 云々

六、在支大使館矢野參事官九月廿五日河邊村ニテ閻錫山ト會見ノ際閻ノ鐵道問題ニ關スル内話要旨左ノ通

山西ノ交通問題ハ自分ノ最モ重視スル點ニテ殊ニ省内ノ產物ヲ省外ニ移出スル方法ヲ至急考慮スル必要アリ正太鐵道延長線ニ關スル客年「マルタン」トノ契約成立當時自分ハ右ノ見地ヨリ先ツ滄石鐵道ノ完成ヲ期スヘキヲ主張セルニ南京側及佛國側ハ同蒲鐵道ヲ先ニスルコトヲ主張セルカ同契約ハ其ノ後御承知ノ通ノ次第ニテ有耶無耶トナレリ滄石鐵道問題ハ何分ニモ南京鐵道部ノ主管事項ナル關係上自分ノ思フ通りニハナラス現在ノ模様ニテハ何時出來ルヤ疑ハ敷キニ付省内ニ於テ交通ノ路ヲ開クカ爲今後約三年間ニ大同、保定間(太原、保定間約一千支里、太原、大同間六百支里)ニ輕便鐵道ヲ敷設スルコトトシ現ニ原平、介休間ニハ土工モ略ホ完了ニ近ツキツアリ右ニ要スル經費約千五百萬元ハ省内ニ於テ公債ヲ募集シテ之ヲ支辨スル筈ナリ南京政府ヨリ關係外國側カ右起

工ニ對シ既得權利侵害ノ故ヲ以テ抗議ヲ提出セル旨通報アリタルカ之ニ對シ自分ハ將來南京側ニ於テ既定計畫ニ基ク鐵道ヲ建設スルニ於テハ何時タリトモ自分ノ鐵道ヲ取除ク可キ旨回答シ置ケリ 云々

別紙第三號

最近ニ於ケル滄石鐵道問題

華昌公司(實ハ滿鐵)ト滄石鐵路局長何燈^電トノ間ニ昭和四年調印セラレタル滄石鐵道借款契約ニ關シテハ同年末華昌公司ヨリ該契約取消方承諾ノ旨支那側ニ通告セルモ其ノ後該通告紛失シ居ルコト判明シ從テ我方トシテハ引續キ右契約上權利ヲ主張シ得ヘキ義ナリ唯從來滿鐵側ニテハ國民政府ノ排日氣分ニモ顧ミ後日ニ於ケル支那側トノ折衝ノ餘地ヲ存シツツ差當リ不即不離ノ態度ニテ進ム外ナシトノ意向ナリシノミナラス偶々滿洲事件ノ勃發ヲ見タルニ依リ本件ニ付積極的態度ニ出ツルコト愈々困難トナリ客年佛國側「マルタン」活動ノ際ニモ在支公使ヨリ國民政府ニ抗議(六月三日附覽書)スルニ止メタリ尤モ滿鐵側ニ於テハ其ノ後狀況ノ變動ニ伴ヒ本件再議ノ結果右佛國側計畫ヲ阻止スルコト

望マシキモ不可能ナルニ於テハ華昌公司ヲシテ割込マシムルコトニ方針ヲ決定セル次第ナルカ當時政府ニ於テハ佛支契約ナルモノノ内容探查ニ努ムル一方今暫ク事態ノ推移ヲ見守ルコトトセル次第ナリ(第五十七及第六十四議會用亞一調書鐵道ノ部参照)

然ルニ前記佛國側計畫ハ滄石鐵道建設ニ關スル限りハ停頓ノ形ニアル模様(使用スヘキ鐵道ヲ特定セサル鐵道材料供給借款ニ變セル由)ナル一方近來國民政府ノ對日態度轉換ノ傾向アルノミナラス本件鐵道ハ北支政權ノ管轄區域内ニ存スル次第ニモアリ又黃郛等ヲ相手方トシテ本件ヲ實現スルハ同人等ニ或程度ノ利益ヲ與フルコトトモナルヘク支那側關係者ニ於テ本件計畫ヲ再燃セシムル可能性アリト認メ居ル旨ノ情報モアリ旁々昭和四年契約ノ復活又ハ新契約ノ締結ヲ計リ以テ北支ニ於ケル我方ノ立場ヲ確保スルコト事宜ニ適スト認メ滿鐵側ノ意嚮ヲモ確メタル上關係在支公館ニ對シ敍上ノ次第ヲ含ミ本件契約ノ復活又ハ新契約ノ締結ニ有利ナル氣運ノ醸成ニ資スル様可然措置スヘキ旨訓令セリ尙七月下旬ノ情報ニ依レハ天津ニ於ケル河北省出身要人ハ井陘炭坑(河北省有)ヲ委任經營等可然組織ニテ開發シ右石

炭ノ運搬ノ爲石家莊ヨリ馬廠ヲ通過シ塘沽ニ至ル鐵道ヲ敷設シ年額五百萬元ノ利益ヲ得ン計畫ニテ之カ爲代表者一名黃郛ノ同意ヲ取付クル爲北平ニ赴キタル由ニシテ之ニ黃郛カ同意ナラハ右ハ滿鐵ヲシテ出資セシムル可能性ナキニ非サル由ナリ

別紙第四號

山東鐵道延長線ノ權利關係及其ノ道清鐵道延長線トノ關係

一、山東鐵道及其ノ延長線

線名經路	沿革及利權關係	摘要(經濟的價值)
(一) 充開線 津浦線兗州ヨリ隴海線開封迄 (兗州濟寧間ハ一九一二 年開通セリ)	獨逸ハ一九〇九年其ノ敷設權ヲ獲得セルカ 一九一三年ニ至リ之ヲ拋棄セルモ尙ホ「人、 資本及材料ニ關スル優先權」ヲ留保セリ、 日本ハ右優先權ヲ繼承セル理ナルモ山東懸 案條約附屬書ニ依リ之ヲ拋棄セルモノト稱 セラル	獨逸カ津浦線ニ權利ヲ有セシ時代ノ計畫ナ ルカ本線ハ濟南ヲ隴海鐵道ニ結フ最短距離 ノモノナリ 尙最近米資(棉麥借款)ヲ以テ本鐵道ヲ完成 スル計畫アルヤニ傳ヘラル

膠州灣租借條約ニ依リ山東鐵道ノ敷設權ヲ得テ之ヲ完成セル獨逸ハ山東ヨリ更ニ西北方及西南方ニ進出セントシ同鐵道延長ノ計畫ヲ樹テ相次テ數個ノ延長線ニ對スル權利ヲ獲得セルカ該權利ハ歐洲大戰ノ結果「ヴェルサイユ」條約ニ依リ山東ニ關スル權利ト共ニ我方ノ手中ニ歸シ次テ華府條約ニ依リ此等權利ノ大部分ハ支那側ニ還付セラレタリ今左ニ獨逸時代ノ延長線計畫及最近支那側ニ於テ畫策シツツアル右以外ノ延長線計畫ノ主ナルモノヲ表示スヘシ

ニ右等延長線ト我方トノ關係
次ニ我方ノ此等延長線ニ關スル權利關係ニ付概説スルニ大
正四年（一九一五年）ノ日支條約ニ依リ支那政府ハ山東ニ於
ケル獨逸ノ權益ノ處分ニ付將來日獨間ニ協定スヘキ一切ノ
事項ヲ承認スル旨ヲ約シタルカ大正七年（一九一八年）日支
兩國政府ハ山東地方經濟開發ノ爲高除、濟順兩鐵道建設ノ
急務ナルヲ認メ（獨逸トノ協定ヲ待タスシテ）日資ヲ以テ之
ヲ建設スヘキ旨ノ公文（九月二十四日附）ヲ交換シ之ニ基キ
同月二十八日支那政府ト興業臺灣朝鮮ノ三銀行トノ間ニ兩
鐵道貸解豫備契約締結セラレ三銀行ヨリ前貸金二千萬圓ノ
交付ヲ了シタリ（所謂西原借款ノ一部）次テ一九一九年「ヴ
エルサイユ」條約第百五十六條ニ依リ獨逸ハ山東ニ關スル

一切ノ權益ヲ日本ノ爲ニ拋棄シ日本ハ膠濟鐵道（高除、濟
順線等ヲ含ム）ニ關スル權利ヲ完全ニ取得セル次第ナリ
然ルニ其ノ後前記兩豫定線ニ關シ三銀行ノ獲得セル權利ハ
一九二〇年十月紐育ニ於テ開催セラレタル新借款團會議ニ
於テ日本團體ヨリ四國借款團ニ提供セラレ且一九二二年二
月四日華府ニ於テ日支兩國間ニ調印セラレタル山東懸案解
決條約ニ於テ兩鐵道ノ特權ハ「支那共和國政府ト國際財業
團間ニ協定セラルヘキ條件ニ伴ヒ右財業團ノ共同事業ニ開
放セラル」ヘキ旨規定セラレタル處右ハ我方トシテ兩鐵道
ニ對スル權利ヲ拋棄セル次第第二ハ非スシテ單ニ之ヲ國際財
業團ニ「プール」スルコトトシ且之ヲ支那側ニ承認セシメ
タルモノト解スヘク換言スレハ我方トシテハ日本資本ヲ以

(五)新濟彰線
濟南彰德間ノ外途中龍王
廟ヨリ道口迄支線ヲ作ル

一九三一年六月膠濟鐵路局カ改メテ濟順、
濟彰、濟道ノ三線ヲ實測セル結果最近本線
ノ建設ニ關シ相當詳細ニ亘ル案ヲ發表セル
由、右案ニ依レハ濟彰線工費一千二百萬元
弱道口支線工費約四百萬元ノ由、但シ資金
ノ調達ハ未タ考究中トノコトナリ

前記濟彰、濟道兩線ノ折衷案ト認メラルル
處濟彰線ハ山西方面ニ延長ノ可能性アルモ
之カ實現セサル限り大ナル價值ナカルヘシ

(二)高除線

高密ヨリ津浦線除州迄

獨逸ハ一九一三年充開線等拋棄ノ代價トシ
テ高除濟順兩線ノ敷設權ヲ獲得セリ（一九
一三年十二月三十一日附獨支豫借交換公文
及一九一四年六月二十四日細目協定）
日本トノ關係ハ別ニ詳述ス

隴海線東段除州海州間ノ完成前本線ニ依リ
隴海線ノ終點ヲ事實上青島トスル計畫ナリ
シ次第ナルカ右除州海州間既ニ完成シ且海
州港ノ築港行ハレタルモ右ハ規模少ナルノ
ミナラス將來大規模ノ築港ヲ行フコト困難
ナルヘキニ顧ミ本線ノ實現ハ青島港ノ發展
ニ資スルコト尠ナカラサルヘシ

(三)濟順線

濟南ヨリ平漢線順德迄
下記ノ經緯ニ依リ濟漳線、
濟道線ヲモ含ム

前項ト同様、尙ホ前記一九一四年ノ協定ニ
付最モ信賴スヘキ情報ニ依レハ該協定ニ於
テ終點ヲ順德ヨリ彰德又ハ道口ニ變更スル
「オブシヨン」ヲ付シタルモノノ如シ
（濟南道口間ハ道清鐵道側ニモ同鐵道ノ延
長線トシテノ計畫アルコト前記ノ通り）

獨逸ノ計畫ハ順德ヨリ更ニ山西ニ延長シ山
西炭等ヲ青島ニ輸送スルニアリシカ如キモ
順德以西ハ工事不可能ノ由、尤モ終點ヲ彰
德トスレハ山西方面ヘノ延長可能ノ由、次
ニ終點ヲ道口トスレハ道清線ニ聯絡シ澤州
ヲ經テ山西方面ニ延長シ得ヘク又孟ニ延長
シテ隴海線ニ連絡シ得ヘシ

(四)濟臨線

濟南ヨリ臨清迄（前記道
順線ノ一部）

滿洲事變直前膠濟鐵路局ハ同鐵道國庫證券
支拂延滞分ノ利用ニ依リ本線ヲ建設スル計
畫ヲ樹テ日本側ニ對シ右延滞ノ默認方ニ付
内密接衝シ來リタルコトアリ

臨清ニ於テ大運河ニ聯絡シ得ルニ依リ膠濟
鐵道ノ價值ヲ増スコト尠ナカラサルヘシ、
但シ之ヲ順德ニ延長スルハ前項記載ノ如ク
有利ト言ヒ難キモノノ如シ

テ該鐵道ヲ建設セシムル權利(借款優先權ニ非スシテ借款權ナリ)ニ代フルニ國際財團ヨリ借款セシムル權利ヲ以テシタル次第ナルヲ以テ支那カ自國資本又ハ第三國資本ヲ以テ之ヲ建設セントスル場合ニハ帝國政府ハ支那政府ニ對シ前記山東條約ニ基キ國際財業團ヨリ借款スヘキコトヲ要求スル權利アリ又三銀行ハ大正七年豫備契約ニ依リ支那政府ニ對シ三銀行ヨリ借款スヘキコトヲ要求スル權利(但三銀行ハ之ヲ借款團ニ提供スルコトヲ要ス)アリ右ノ權利ハ日支兩國政府間ノ條約及三銀行支那政府間ノ契約ニ基クモノナレハ該條約及契約ノ當事者ニ非サル借款團又ハ借款團關係國政府ハ直接支那政府ニ對シ何等ノ權利ナキモノト解セラルニ英國系ノ道清鐵道

道口清化間約五十料、英商福公司(ベキン、シンジケート)ノ手ニ依リ一九〇四年完成セル鐵道ニシテ現在京漢線ノ培養線トシテ又福公司ノ炭鑛經營ノ補助機關トシテノ價值アルニ過キサルモ西端清化ヨリ澤州ヲ經テ山西方面ニ延長スル計畫及清化ヨリ孟ニ延長シテ隴海線ニ聯絡スル計畫アリ又東端道口ヨリ濟南ニ延長スル計畫アリ、最近道清鐵路局長ノ談話トシテ新聞紙ニ報セラルル所ニ依レハ「同鐵道ハ

距離短少ナル爲營業頗ル不振ニシテ收入ノ大宗ヲ占ムル石炭ノ運輸モ毎月ノ平均收入僅カ二十萬餘元ニ過キス英商福公司ニ對スル未拂債務ハ現在巨額ニ上リ居ル次第ニシテ營業發展ノ爲豫定計畫通り濟南迄延長スルコトニ決定セリ尤モ之カ爲ニハ相當巨額ノ資金ヲ要スルヲ以テ二期二分チ實行スルコトトシ第一期大名迄ノ延長工事ノ所要經費四百萬元ハ福公司ニ於テ材料費ヲ出資スル希望ヲ有シ居リ鐵道部側ニ於テ何等問題ナクハ遠カラス起工ノ運ヒトナルヘク又第二期ハ更ニ之ヲ濟南迄延長シ以テ石炭運輸ノ發展ヲ期セントスルモノナリ」トノコトナリ

同鐵道ノ借款ハ三種アリ何レモ福公司關係ノモノニシテ鐵路借款八十萬磅、車輛借款十二萬六千磅、清孟借款(清化ヨリ孟ニ至ル鐵路)八萬七千磅、計百餘萬磅ナルカ鐵路借款ハ一九二六年ヨリ元金ヲ償還シ居ラス、車輛借款ハ一九二五年下半年ヨリ利息ノ支拂ヒヲ又一九二六年ヨリ元金ノ償還ヲ爲シ居ラス、目下毎月收入ノ百分ノ十ヲ積立テ本年末ヨリ先テ五十萬元ヲ償還スル答ナリトノコトナルカ舊債不拂ノ現狀ニ於テ前記延長計畫カ急速ニ實現スルヤハ疑問ナリ右道清鐵道ノ東方延長線ハ山東鐵道トノ關係ニ於テ特ニ注

意ヲ要スル次第ナル處山東鐵道ノ濟順延長線ニ對スル獨逸側權利カ其ノ終點ヲ道口トスル「オプシヨン」ヲ含ミ居タリト傳ヘラレ居ルコト前記ノ通ニシテ我方ハ「ヴェルサイユ」條約ニ依リ之ヲ承繼セル理ナルノミナラス日支兩國間政府間ノ大正七年(一九一八年)ノ交換公文ニ於テモ「兩(清順、高除)線路ニシテ鐵道經營上不利益ナリトセハ別ニ適當ノ線路ヲ協議決定スル旨」ヲ記載シ居リ且山東縣案華府交渉第二十三回會合ニ於テ日支兩全權共右線路變更權ヲ認メタル經緯アルヲ以テ國際財團ニ「プール」セラレタル濟順延長線ニ關スル權利ハ右線路變更權ヲ含ミ居ルモノト解セラル

(付記一)

北支地方ニ對スル我方經濟的發展策ニ關スル件(守島試案)

(八、九、一)

北支時局ノ好轉ト相俟ツテ同地方ニ對スル我方ノ經濟的發展ヲ促進スルコト肝要ナル處右發展ニ付テハ北支地方ノ平靜維持ヲ計ルト共ニ同地方官憲ノ排日取締ヲ督勵スル外我

方ノ投資ヲ伸張スル爲差當リ左記方針ヲ以テ進ムヘク尙ホ今後我方ヨリ北支政權ニ對シ財的援助ヲ與フルノ要アル場合ニハ本件ト關聯セシメ處理スルコト可然
一、北支地方ニ於ケル我方既得ノ利權ニシテ未タ實行セラレ居ラサルモノノ中有望ナルモノヲ活用スル等ノ方法ニ依リ新規ノ投資ヲ計ルコト(世界戰爭中及直後ノ好景氣時代ニ獲得セラレタル不健實ナル雜多ノ利權ヲ生カサムトスルカ如キハ本項ノ趣旨トスル所ニ非ス)

二、新規利權ハ北支地方ノ平靜化及同地方政權ノ安定並ニ我方ト該政權トノ親善關係ノ増進等ニ伴ヒ漸ヲ追ツテ之カ獲得ヲ計ルコト

三、右二ノ目的ニ添フ爲本邦資本家ヨリ成ル北支投資團ヲ組織スルコト(我方カ山東炭及山西炭等ヲ支配スルコトハ今後ニ於ケル日本ノ石炭政策上ノ急務ナルニ鑑ミ本邦石炭業者ヲ中心トシテ斯種投資團ヲ作ルコトモ一案ナルヘシ)

四、右二ニ基ク投資ノ保護ニ付テハ從前ヨリモ一層積極的態度ヲ執ルヘク必要ノ場合ニハ帝國直接又ハ我方ノ援助スル政權ヲ利用シテ之カ實力保護ヲ行フコト
追記、本件ニ付テハ別紙甲號及乙號參照ノコト

編 注 別紙甲号「滄石鐵道ニ就テ」および乙号「山東鐵道延長線ニ關スル件」は省略。

(付記二)

對支不確實債權整理問題及北支方面ニ於ケル我方權益ノ保全伸張方ニ關スル施策ノ件(八、九、一二六)

一、本件施策ノ根本義

(一)滿洲事變發生以來我方ハ支那側ニ對シ不斷ニ軍事の壓力ヲ加ヘ來レルカ其ノ結果ハ他ノ原因トモ相俟チ北支停戰成立ノ前後ヨリ支那側ヲシテ其ノ對日方針ニ轉換ヲ加ヘムトスルノ余儀ナキニ至ラシメタリ然レ共右支那側ノ方針轉換タルヤ東亞ノ大局ニ覺醒セルカ爲ニ非スシテ前記我方ノ軍事の壓力堪エ難キニ至リシ結果此ノ上日本側ノ軍事行動ヲ挑發セサル限度ニ其ノ抗日策ヲ緩和スル一方外國側ノ財力的及技術的援助等ヲ利用シテ我方ニ對シ執拗ニ對抗セムトスルモノナルコト各般ノ事情ニ照シ推察ニ難カラス

(二)敍上ノ次第ナルヲ以テ我方トシテハ支那側ニ對スル壓力ヲ緩ムルコトナク東亞ノ大局ニ對スル支那側ノ覺醒

ルモノノ一ハ北支方面ニ於ケル我方權益ノ保全伸張就中一九三七年ヲ以テ滿期ニ達スヘキ山東鐵道國庫證券ノ償還ヲ阻止シ以テ同鐵道ニ對スル我方ノ把握ヲ相當年限持續スル一方山東鐵道延長線及沽石鐵道ノ建設ヲ促進シ且此等鐵道ヲ出來得ル限り我方ノ勢力下ニ歸セシムルニ存ス仍テ今不確實債權整理要求及山東鐵道其他ニ對スル我方權益ノ保全伸張ニ關シ具體的實行策ヲ畫定スルコト別紙甲號及乙號^{附略}ノ如シ

甲號

不確實債權整理方要求ノ件

一、目下交渉繼續中ナル興業、朝鮮、臺灣三銀行ノ交通銀行ニ對スル借款整理問題ノ話合付キタル場合或ハ話合付カサリシ場合右ニ關聯セシムルカ又ハ其ノ他ノ適當ノ機會ヲ捉ヘテ(例ヘハ在支公使ヲ事務打合ノ爲歸朝セシメタル上其ノ歸任ノ機會ニ持チ出スコトモ一策ナルヘシ)本件要求ヲ提起ス

二、右要求ハ左ノ趣旨トス

(イ)不確實債權整理ニ關スル交渉ハ昭和六年春頃ヨリ全然

ヲ招來セムコトヲ期スルヲ要ス唯タ前記ノ如ク支那側ニ於テ此ノ上我方ノ軍事行動ヲ挑發セサル様腐心シ居ルニモ顧ミ同國ニ對シ軍事の壓力ヲ加フルノ機會少クナレル次第ナルカ我方トシテハ此ノ上トモ其ノ根底ニ於テ武力的脅威ヲ感セシメツツ支那側ノ條約又ハ契約不履行等幾多ノ不法乃至不當措置中ヨリ適當ノ案件ヲ抽出シテ嚴重追及ヲ加ヘ以テ支那側ヲシテ結局我方トノ提携ニ依リ國內ノ整備ヲ計ル外立國ノ方途ナキコトヲ痛感セシメサルヘカラス

(三)但シ以上ノ如ク支那側ニ對シ不斷ノ壓力ヲ加フヘシト云フハ其ノ間既存權益ノ保全及新規權益ノ獲得等建設的努力ヲ蔑ニシ可ナリトナスニ非スシテ要ハ右壓力ト建設的努力トヲ具體的ノ事態ニ適應シテ併用シ我對支地歩ノ確保ヲ期スルニ存スル次第ナリ

(四)而シテ此ノ際支那側ニ對シ加フヘキ武力以外ノ壓力トシテハ前記ノ如ク條約及契約不履行等不法乃至不當措置タル各種案件ニ亘ルヘキコト勿論ナルカ就中最モ重要ナルモノノ一ハ不確實債權ノ整理要求ナリ又前記建設的努力モ各種ノ問題ニ亘ルヘキモ其ノ中最モ重要ナ

行ハレスシテ最近ニ及ヒ居ル處本邦債權者トシテハ前途ニ何等ノ目度^{附略}ナクシテ荏苒待チ居ル譯ニハ行カサル一方債權者會議ノ急速開會ハ支那側條約上ノ義務ナリ就テハ此ノ際本件ヲ進捗セシメ債務整理ノ實行ヲ期セラレ度

(ロ)支那側ハ昭和四年一月ノ堀、王正廷交換公文ニ依リ債務整理ニ當ツル爲毎年少ク共五百萬元ヲ積立ツルコトヲ約束シ次テ昭和五年五月ノ重光、王正廷交換公文ニ依リ該約束ヲ確認スルト共ニ右五百萬元ノ増額方ニ關シテモ約束スル所アリタルカ五百萬元積立ハ忠實ニ實行セラレ居ルヤ且該積立金ハ如何ニ管理セラレ居ルヤ承知シ度尙又前記増額ヲ至急實行セラレ度(右増額ニ統稅收入ヲ當ツヘキヲ要求シ且支那側カ舊債ノ整理ヲ抛擲シテ新規募債セルコト殊ニ統稅ヲ擔保トセル米國五千萬弗借款ノ不都合ヲ責ムルコト可然)

(ハ)不確實債務全部ノ整理ヲ急速ニ實行スルコト困難ナリトセハ右整理ノ交渉ヲ進行セシムル一面ニ於テ急速整理方可能ナル個々ノ債務ノ整理ヲ實行セラレ度(例ヘハ山東公有財産國庫證券ノ整理ノ如シ、而シテ右國庫

證券ノ整理要求カ山東鐵道等ニ關スル我方權益ノ保全
伸張策ト牽聯スヘキコトハ別紙乙號ニ記載ノ通

(二) 尙ホ本件ニ關聯シ帝國政府及本邦人ノ支那政府ニ對ス
ル債權中ニハ金拂(ゴールド、パー)ノモノアル處帝國
政府ハ之カ元利ノ支拂ニ付其ノ金拂ナルコトヨリ生ス
ヘキ一切ノ利益ヲ主張スルノ權利ヲ留保スルモノナリ
尙ホ委細ハ當方研究ノ結果ヲ俟チ改メテ交渉スヘシ
(右金拂ニ關スル申入ハ山東鐵道國庫證券償還阻止ノ
伏線ナルコト別紙乙號記載ノ通)

三 以上(一)乃至(二)ノ各項ハ必スシモ一時ニ申入ルルニ及ハス
シテ先方ノ應答ニ伴ヒ順次提起シ差支ナキモノトス將又
先方ノ應酬ニ伴フ新ナル折衝振ハ必要ニ應シ研究ス

編 注 本試案には以下の覺書が付されている。

「九月十二日次官室ニ於ケル打合ニ基キ一應別稿ヲ
作成セルカ更ニ推敲ヲ加ヘ度考ナリ 九月十九日
守島記」。

タルニ葛ハ自分ノ關スル限りハ出來得ル限り右ノ如キ惡印
象ヲ排除シ度キ考ニテ今回モ日本品購入ヲ決意シタル次第
ナルカ不幸中央ノ容ルル處トナラサリシ次第ニシテ鐵道部
關係ノコトハ直接鐵道部ニ御交渉ヲ願フ外差向キ策無キ次
第ナルカ當地限りノ購買ニ付(二千元以上ノ購入ハ鐵道部
購料委員會ノ許可ヲ要ス)此ノ際改メテ係員ニモ篤ト注意
ヲ與ヘタル上出來得ル限り日本品購入ニ力ヲ盡ス可シ云々
ト答ヘタリ

355 昭和8年10月27日 在中國有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

平綏鐵路の借款償還計画について

北平 10月27日後発
本省 10月27日後着

第四五六號

平綏鐵道ノ借款問題ニ關シ大倉洋行林カ周作民及平綏路新
局長沈正ヨリ聞込メル情報左ノ通

二十五日周作民談

354 昭和8年10月11日 在青島坂根總領事より
広田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道材料には中国製品を使用する旨決定
について

青島 10月11日後発
本省 10月11日後着

第二〇〇號
貴電第九五號ニ關シ

其後大石ヲシテ成行ヲ内偵セシメタル處先般津浦鐵路工廠
ヨリ製造可能ナル旨回答アリタルヲ以テ遂ニ右國產品ヲ採
用スルニ決シタル趣ナリシニ付九日本官葛委員長ニ會見貴
下折角ノ御骨折ニ依リ從來久シク當地日本人間ニ喧傳セラ
レタル鐵路局ノ日貨排斥ナル惡印象モ漸次薄ラキ來ル可シ
ト鮮カラス期待ヲ持チ居リタル次第ナルニ計ラスモ鐵道部
ノ反對ニ會ヒ又復局面打開ノ機ヲ逸シタルハ眞ニ残念至極
ナルカ右ノ如キ鐵道部ノ遣口ハ表面ハ國產品獎勵ナル美名
ノ下ニ一應尤モラシク説明セラル可キモ實際ニ於テハ鐵路
局ハ依然排日ヲ行ヒ居レリトノ惡印象ヲ一層深クシ結果甚
タ面白カラサルニ付何トカ打開ノ道ヲ講セラレ度シト申入

同鐵道ハ元來中國、交通、金城、大陸、鹽業ノ五銀行ヨ
リ夫々別口ニテ借款シ居タル處今回之等五銀行ヲ合シテ
一口二百五十萬元ノ借款トシ今後毎年五十萬元宛ノ元利
ヲ償還スルコトナレリ尙現在材料購入其他建設事業費
ハ上記銀行團ニテ保證ノ上鐵路局ニ於テ之ヲ支拂フコト
トセリ

三二十六日沈正談

○泰康洋行ニ對シ未拂金ヲ利子ヲ引當トシ元金ヲ倍額ニシ
テ向フ八百ヶ月ニ分期償還ノコトニ決定シ既ニ假契約ヲ
了シ不日正式調印ノ答ナルカ一方東亞興業公司ニ對シ借
款五百二十萬元モ右ノ方法ニ依リ償還シタク即チ元金及
利子引當合計一千四十萬圓ヲ毎月一萬三千圓宛八百ヶ月
ニ分ツテ完済シタク東亞ニシテ右ニ同意ナレハ平綏鐵路
總局ヨリ南京政府鐵道部捺印ノ約束手形八百枚ヲ東亞ニ
交付シ之ト引替ニ支拂フコトトスヘシ尙三井洋行ニ對シ
テモ現ニ右方法ニ依リ償還方諒解ヲ求メ居ルニ付何分ノ
回答アル筈

支、南京、天津へ轉電シ張家口へ暗送セリ

356 昭和8年11月11日 在仏国沢田臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

汴洛鐵道利権譲渡の申出当事者は現在中国および満州国訪問中のため利権詳細確認は困難な状況について

パリ 11月11日後発
本省 11月12日前着

第五二一號(極秘?)

十月三日附亞一機密合第一一三九號ニ關シ
極東部長病氣引籠中ニ付來週初政務通商局長往訪ノ筈ナル處汴洛鐵道權利譲渡方申出當事者「バイアン」男ハ八月一日附機密公第四四二號天羽情報部長宛拙信所報ノ通り八月初出發極東ニ赴キ目下支那若ハ滿洲國旅行中ノ筈ナルヲ以テ其ノ所在御突止ノ上本人ニ就キ本件御確メ相成様致度ク其ノ上ニテ當方ニテ聯絡ヲ執リ得ル向アラハ御電報相成度シ英、米、白へ轉電セリ

357 昭和8年11月13日 在仏国沢田臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

何等情報ヲ承ルヲ得ハ幸ナル旨ヲ述フルト共ニ「バ」局長ニ對シ實ハ本件御尋ネニ來リタルハ去ル七月宋子文渡歐ノ砌各國ニ於テ彼ノ借款運動ノ噂アリシ際特ニ極東部長ノ注意迄ニ申入レタルコトアル通り元來外國側ノ統制ナキ對支援助ハ結局支那ノ内爭ヲ助長セシメ以テ支那ノ對外關係ヲ紛糾セシムルニ過キササルヲ以テ日本政府トシテハ我國ノ協力ナキ援助ニハ主義トシテ反對スルモノナルヲ以テ此ノ點篤ト御含ミ置キアリタク且又滄石鐵道ニ關シテハ昭和四年華昌公司ト滄石鐵道局トノ間ニ締結セラレタル契約ニ依リ我方ハ同鐵道ニ權利ヲ有スルモノニシテ從テ支那側カ同鐵道ニ付他ノ方面ト別ニ協定セントスルカ如キハ我方ノ看過スヘカサル所ニテ此ノ點ニ付既ニ客年支那政府ノ注意ヲ喚起シタル經緯アル問題ニ付此ノ點モ御含ミ置キアリタク旨ヲ述ヘタルニ同局長ハ承リ置クヘキ旨答ヘタリ英、米、白へ轉電セリ

358 昭和8年11月14日 広田外務大臣より
在仏国沢田臨時代理大使宛(電報)

汴洛鐵道利権譲渡申出当事者への利権詳細確認は

正太鐵道收入を担保とする鐵道材料供給借款
と我が方既得の滄石鐵道借款契約との關係につ
つき仏國側に注意喚起について

パリ 11月13日後発
本省 11月14日前着

第五二三號

往電第五二一號ニ關シ

十三日政商局長「バルジユドン」氏ヲ往訪シ正太鐵道佛支借款豫備契約ニ付客年末「ド、ラ、シユーム」ヨリ「アデイス」ヲ通シ正金側へ通報アリタルカ同借款ハ其ノ後如何ニナリタルヤヲ尋ネタル處同局長ハ極東部係官ヲ呼寄セ本官ノ質問ヲ繰返シ同係官ハ右豫備契約ハ調印セラレタル旨聞キタルモ其ノ後如何ニナリタルヤ何等聞込ナキ旨ヲ答ヘタリ次テ本官ハ右借款ニ代リ鐵道材料借款成立シタルヤノ噂アル處右ニ關シ何等情報ナキヤヲ尋ネタルニ右係官ハ該正太鐵道問題ニ關シテハ「ウイルデン」公使ヨリ餘程以前報告アリタルノミニテ其ノ後現地ニ於テ如何ニナリ居ルヤハ更ニ同公使ニ問合セサレハ當方ニハ御話スヘキ材料ナシトテ多クヲ語ラサリシヲ以テ本官ハ之ニ對シ御問合セノ上

同人の満州国などでの行動觀察後とする旨訓令

本省 11月14日発

第二六〇號(極秘扱)

貴電第五二一號ニ關シ

「バ」ハ本邦ヲ經由セス滿洲及北支ニ赴キタル模様ナルカ亞一機密合第一一三九號中四ノ(四)ニ付テハ天羽宛貴信ノ次第ヲモ參酌シ且全人今後ノ行動ヲモ見更メテ考慮ヲ加ヘ度考ナリ就テハ差當リ右四ノ(三)迄ノ措置ヲ採ルコトト致度シ英へ轉電シ米白へ暗送アリ度シ

359 昭和8年11月14日 在中國有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

平綏鐵路局の東亞興業に対する借款償還案提議について

別電 十一月十四日発在中國有吉公使より広田外務

大臣宛第四九〇号

右償還案

北平 11月14日後発
本省 11月14日後着

第四八九號

往電第四五六號第二項ニ關シ

其後林カ沈正ヨリ得タル情報ニ依レハ泰康洋行ハ十一月一日平綏鐵路總局トノ間ニ正式調印ヲ了シ既ニ契約書ヲ南京鐵道部ニ同送セル由ナルカ一方日本側ノ分ハ東亞興業ヨリ八百ヶ月償還ハ長期ニ失スルヲ以テ今少シ短期トスル様希望シ越セルヲ以テ林ヨリ沈正ニ其旨申入レタル處沈ハ右償還方法ハ泰康洋行ニ對スルト同一條件ナリトテ別電第四九〇號(冒(頭)往電ト同一内容)ノ通ノ償還試案ヲ提示シ來レル由ナリ

會議ニ對スル措置振ハ今後他ノ借款ニモ影響ヲ及ホス惧アルニ付本省ニ於テ御方針確定ノ上近ク來平(脫)ナル内田東亞社長ニ對シ篤ト御指示相成様致度シ

本電別電ト共ニ支、南京、滿、天津ヘ轉電セリ

張家口ヘ暗送セリ

(別電)

北平 11月14日後発

本省 11月14日後着

滄石鐵道修築ニ關スル龔委員ノ談話要領報告ノ件

(欄外記入) 本件ニ關シ津浦鐵路委員龔伯齡ハ過般來同鐵路濟南段職員及工人ノ消費合作社整理情況視察ノ爲來濟中ナリシカ本月十日其ノ任務ヲ了ヘ南下セル處離濟ニ際シ中國新聞記者ニ對シテ津浦鐵路總局ニ於テハ路政ノ整頓ニ對シ夙ニ計劃ヲ樹テ順次進行中ナリトテ其ノ情況ヲ話シタル上滄石支線ニ就キテモ既ニ修築計劃ニ基キ滄州、石家莊間ノ鐵道々路修築ヲ完成セリ蓋シ山西ノ石炭ハ豊富且ツ低廉ナルモ交通不便ナル爲省外ニ移出方法ナク從テ其他ノ土產物モ亦山西ニ移入スル途ナカリシカ本支線開通ノ曉ハ畜ニ交通上ノミナラス山西石炭ノ發展ニ資スル所甚大ナルヘシ該道路完成後其他ノ工程モ積極的ニ進行中ナリ云々ト談話セル趣ナリ

右何等御參考迄報告ス

本信寫送付先

公使 北平 青島 天津 上海 南京

(欄外記入)

滄石線ニハ古クヨリ道路ハ出來上リ居リ其ノ上ニ鐵道ヲ敷設スル計画ナリシ次第ナルカ右道路荒廢セルニ依リ之ヲ修築

第四九〇號

第一條 東亞興業會社ノ舊債五百二十萬圓及其利息ハ茲ニ一千四十萬圓ト議定シテ解決ス

第二條 前記一千四十萬圓ハ民國二十三年一月ヨリ毎月八百分ノ一ヲ償還シ八百ヶ月ヲ以テ完済ス

第三條 鐵路財政狀況進歩セハ毎月償還ノ金額ハ増加ス但シ其總額ハ一千四十萬圓ヲ限トス

第四條 本契約成立セハ舊契約一律ニ取消無効トシ抵當品(緩包公債)ヲ回收ス

360 昭和8年11月14日

在濟南服部(恒雄)總領事代理より
広田外務大臣宛

滄石鐵道敷設のための道路修築に関する津浦

鐵道関係者の新聞談話について

普通第四六三號

(11月27日接受)

昭和八年十一月十四日

在濟南

總領事代理 服部 恒雄(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

シタルナルヘシ

361 昭和8年11月14日

在中國有吉公使より
広田外務大臣宛

膠濟鐵道の外資借入れおよび路線延長問題など
に關する青島日本商工会議所の陳情について

機密第六二八號

(12月30日接受)

昭和八年十一月十四日

在中華民國

特命全權公使 有吉 明(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

青島日本商工会議所ヨリノ陳情ニ關スル件

十一月十二日本使ヲ來訪セル在青島鈴木格三郎(本日附機密第六二七號往信參照)ハ又同時ニ青島日本商工会議所會頭ノ資格ニ於テ膠濟鐵路ニ關シ左ノ二件ノ陳情ヲ爲シタル處前顯拙信所報ノ通本省ニ出頭ノ際併セテ具陳スヘキニ付不取敢別紙提出書類送付ス御查收相成度

記

一、膠濟鐵路ノ外資借入ニ關シ陳情ノ件

一、膠濟鐵路延長線急設方ニ關シ陳情ノ件
本信寫送付先 堀内一等書記官

上海 天津 濟南 (別紙省略)
青島 南京

(別紙)

商工發第一七六四號

膠濟鐵路ノ外資借入ニ關シ陳情ノ件

昭和八年拾壹月壹日

青島日本商工會議所

會頭 鈴木 格三郎(印)

特命全權公使 有吉 明殿

肅啓

陳者我借款鐵道タル膠濟鐵路管理局ニ於テハ昨年一月同鐵路輸送設備充實ノ爲メ英國ノ團匪賠償金中ヨリ三十五萬磅ノ借入方ヲ締結シ其後二十三萬磅ニ減額シタルモ本件借入ニ對スル民國當局ノ眞意ハ本鐵道力純然タル我借款鐵道タル關係上特ニ外資ヲ借入シ我勢力ヲ牽制セント企圖セル次第ナルコト首肯シ得ル所ニシテ民國傳統ノ政策ヲ具現セシ

借款計畫ヲ提議シ若クハコレ以上本件借入金ノ増額ヲ圖ラ

ントスル場合ハ絕對ニ之ヲ阻止サルト同時ニ本件借入金ノ返還未了中ト雖モ英國ノ發言權ヲ生スルコトナカラシムル様御賢慮願上度此段及陳情候也

商工發第一七六五號

膠濟鐵路延長線急設方ニ關シ陳情ノ件

昭和八年拾壹月壹日

青島日本商工會議所

會頭 鈴木 格三郎(印)

特命全權公使 有吉 明殿

拜啓

陳者水運ノ便ヲ有セサル山東ニ於テハ海港ト奥地トノ聯絡關係頗ル不便ニシテ膠濟鐵路以外交通機關ノ見ルヘキモノナク而モ該鐵路ハ僅ニ青島濟南間三百九十三杆ヲ通スルニ過キス濟南以西トノ交通全ク不能ノ狀態ニテ住民ノ往來、貨物ノ運輸等ニ甚大ナル支障ヲ來シツツアル實情ニ鑑ミ膠濟鐵路延長線(濟道豫定線)急設方ニ關シ特別ノ御高配相仰度此段奉願候也

五 華北における日本の權益發展策

メタルモノト謂フヘク勿論本件借入ハ我借款金ノ返還ヲ目的トスルモノニ非ス又膠濟鐵路ニ屬スル財産收入ヲ擔保トセルモノニモ非ス從テ表面上ハ何等我權益ヲ侵害スルモノニ非サルカ如キモ本件借入金ノ性質上英國ノ對華政策ヲ濃厚ニ含有シ且ツ何等擔保ヲ提供シ居ラスト謂フモ返還未了中ハ膠濟鐵路ノ債務ニ屬スルコト論ヲ俟タス若シ帝國政府力擔保權ノ行使ヲ必要トスル事態ノ發生ヲ見タル場合若クハ該借入金返還不能ニ陥リタル場合ニ於テハ必スや英國側ノ發言ヲ招來スルコト相俟^俟ニ難カラス加之本鐵道所要材料購入ニ際シテハ我國始メ各國ハ均等ナル參與權ヲ有スルニ拘ラス本件借款ハ其ノ目的タル材料購買ニ當リ絕對ニ英國ヨリ購入スヘキコトヲ條件トセルカ故ニ均等ノ參與權ヲ全ク阻止サレ居ル次第ニテ現下各國ノ生産狀態ト爲替相場ヨリ想定スル時本件借款ニ依ル購買品ヲ公平ナル各國ノ競争入札ニ委スル場合ハ全額換算銀四百六十萬元ニ相當スル材料ノ大部分カ日本側ニ落札スヘキハ當然ナルニ我國商品ハ厘毫ト雖モ之ニ參與シ得サル次第ニシテ我國對華經濟發展上ヨリスルモ遺憾至極ニ被存候

事情右ノ如クニ有之候間向後民國側ヨリ再ヒ斯カル性質ノ

濟道豫定線

濟道豫定線トハ濟南、道口鎮間三百十杆ノ延長線ヲ稱スルモノニシテ此ノ延長ニ依リ頭足ナキ百五十杆ノ道清鐵路ハ濟南、青島間三百九十三杆ノ膠濟鐵路ト接續シテ一躍八百五十三杆ノ橫斷鐵路ヲ形成シ西端孟縣(道清鐵路ノ黃河埠頭驛ニシテ對岸ニ河南ノ洛陽ヲ控ユ)ハ黃河ノ舟運ニ呼吸シ東端ハ遙ニ青島ノ港灣ト首尾相應シテ始メテ幹線ノ体ヲ爲スヘシ更ニ清化鎮ヨリ山西ノ澤州ニ出ツレハ鐵ト石炭ノ無盡藏ト稱セララル寶庫ニ突入スルモノニシテ再轉東西ニ走り烽州^{フウシュ}、蒲州ヲ過キ黃河ノ最狹部ヲ渡リテ潼關ニ於テ之ヲ隴海鐵路ニ結付ケ同線ノ徐ニ蘭州ニ至ルヲ待テハ遂ニ約二千杆ニ及フ大幹線ヲ現出スルニ至ルヘシ

362

昭和8年11月18日

広田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

平綏鐵道債務整理については今後への影響が
大きいことに鑑み償還案詳細など査報方訓令

本省 11月18日後8時20分發

貴電第四八九號ニ關シ

(一)本件債權整理ノ望マシキコト勿論ナルモ右整理振如何ハ今後ニ於ケル他ノ對支債權ノ整理ニ及ホス影響大ナルヘキニ付毎月債權者ノ受領スル金額「リーゾナブル」ナルヲ要スルハ勿論同時ニ出來得ル限り右金額ノ根據即チ現在額ノ計算法、月賦拂計算法等ニ付適當ノ「フオーミチュラ」ヲ定メ建前ヲ明ニスルコト可然他面東亞及三井契約ノ有スル擔保及附帶條件ハ出來得ル限り保留スルコト望マシク殊ニ東亞契約第八條ノ續借優先權ノ如キハ北支ニ於ケル我方權益ノ伸張ヲ計ル足掛リノ一トシテ甚タ重要視スヘキモノト認メラレ目下右兩面ノ見地ヨリ慎重考慮中ナルカ東亞側交渉員峯十太郎(内田ニ非ス三井側ト協議シ三井ノ分モ同人ニ於テ交渉ニ當ルコトトナレル由)ハ二十一日東京發濟南經由月末迄ニ貴地着ノ豫定ナル趣ニ付夫レ迄ニハ當方意嚮詳細申進スヘシ(林ニ於テ夫レ以前ニ交渉ヲ進ムルコトナキ様當業者側ノ希望ナリ)

(二)東亞及三井側ニ對シテハ前記ノ點ヲ然ルヘク説明シ峯貴地着ノ上ハ委細貴館ヨリ指示ヲ受クヘキ旨及内國銀行團

及外國商社ノ整理案ヲ充分調査ノ上此等他ノ同種債權(東亞ノ分ハ擔保附借款、三井ノ分ハ賣掛代金)ノ振合モ充分考慮ニ入ルルノ要アル旨申聞ケ置キタルカ當方詮議上ノ必要モアルニ付出來得ル限り速ニ左記ノ諸點貴館及本電轉電先公館ニ於テ御探索ノ上結果同電アリ度シ

(イ)貴電第四五六號(一)ノ五銀行借款ノ整理案ノ内容、殊ニ其ノ整理前ノ現在額、整理前及整理案ニ於ケル擔保如何、二百五十萬元ヲ五十萬元宛償還シ今後利子ヲ附セサル次第ナリヤ、五ヶ年ノ短期ニテ償還スル理由如何等

(ロ)泰康洋行ノ整理案内容、殊ニ整理前ノ現在額、整理前及整理案ニ於ケル擔保如何等

(ハ)客年十一月七日亞一機密合第一二五六號天津聯合商業會議所ノ國有鐵道債務履行方交渉ハ最近ニ至リ入手セル本年三月一日附ノ三井天津支店ノ同本店宛報告ニ依レハ其ノ後英國商社ノミニテ上海ニ本部ヲ置キ別ニ交渉スルコトトナリ鐵道部トノ間ニ殆ト交渉成立セルヤノ趣ニテ其ノ條件等ハ天津香上銀行側ニテ承知ノ筈ノ由ニ付天津聯合商業會議所ヨリ同銀行ニ照會セルモ同銀行ハ内容通報ヲ溢リ居リ唯傳聞セル所ニ依レハ昭和

七年末迄六分其ノ後五分ノ利子(何レモ單利)ヲ附シニ十五ヶ年年賦ニテ償還スル案ナル由ナリ右ニ關シ三井、正金側、英商其ノ他適當ノ筋ヨリ何等カ信賴スヘキ情報ヲ得ラルヘキヤ

支、天津、南京、張家口ヘ轉電セリ

~~~~~

363 昭和8年11月18日 在濟南服部總領事代理より 広田外務大臣宛(電報)

膠濟鐵道延長線敷設計画に關する同鐵路管理委員會委員長の新聞談話について

濟南 11月18日後發  
本省 11月18日後着

第二七四號  
往電第二七一號ニ關シ

韓主席一行ハ昨十七日夜歸濟セル處本日ノ漢字新聞ニ依レハ韓ノ談話トシテ魯南方面農村ノ疲弊ヲ救濟スルノ要アル事ヲ述ヘタルヲ報シタルノミナルモ維縣ヨリ同行セル葛膠濟鐵路委員長ハ濟聊支線修築問題ニ付左ノ通り談話セシ趣ナリ。膠濟鐵路ノ「レール」交換ハ既ニ青島ヨリ維縣ノ西方大圩。

河迄達セルカ舊「レール」ヲ以テ濟南聊城間約百四十軒ノ支線修繕ヲ計畫セル處同方面ハ高山大河無キ爲毎軒約三萬元合計約五百萬元ノ工事費ニテ足り車輛ハ膠濟鐵路ヨリ借用スル事トシテ目下鐵道部ニ稟請中ナリ云々

支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

支、北平、青島、天津、南京ニ轉電シ芝罘ニ暗送セリ

~~~~~

364 昭和8年11月18日 在仏国沢田臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)

正太鐵道收入を担保とする鐵道材料供給借款問題に關するド・ラ・ショームとの會談について

パリ 11月18日後發
本省 11月19日前着

第五三八號
往電第五二三號ニ關シ

十六日「ド、ラ、ショーム」ヲ往訪シ客年同人ノ「アデイス」宛書翰ニ言及シ該借款ハ其ノ後如何ニナリタルヤヲ尋ネタルニ「ショーム」ハ右借款ノ話ハ勿論「アデイス」トノ往復ノ經緯スラモ忘レタリトテ秘書長ヲ呼ヒ當時ノ「フ

「イル」ヲ取出シ再ヒ右書翰ヲ一讀シタル後其ノ當時斯ル不確實ナル保障ニテ六分位ノ利息ニテハ佛國ニテハ何人モ其ノ公募ニ應スル者無シト感シタルヲ以テ自分モ聞流シ置キタルカ果シテ其ノ後何等聞込無ク今日自分ハ全然此ノ話ヲ忘却シ居タリシ事實ハ本件ノ發展セサリシ何ヨリノ證據ナリト答ヘタリ次テ本官ハ正太鐵道收入ヲ擔保トスル鐵道材料借款成立ノ噂アル處何等情報無キヤヲ尋ネタル處「シヨーム」ハ本年三月末三千五百萬法ノ額ニ對スル材料賣込契約成立シタル趣ニテ自分ノ銀行ニテ引受方持込來リシ者（何人ナリヤ等尋ネタルニ「パブロースキ」ナリト答フ）アリシカ其ノ條件ハ充分記憶セサルモ自分ノ銀行ニテハ保障不充分ト認メタル爲右資金融通方ヲ拒絕シタルコトアリ其ノ後「バンク、ド、シーヌ」ニテ引受ケタリトノ聞込アリ恐ラク夫レカ噂ニ上リ居ルモノナルヘシト答ヘタリ依テ本官ハ同借款ノ條件ニ付詳細ナル情報ヲ得ラレタル節ハ御知ラセアリ度キ旨ヲ述ヘルト共ニ日本側方對支借款其ノ他ノ財政的援助ニ付大ナル關心ヲ有スル次第冒頭往電外務省側ニ對スル申入同様ノ趣旨ヲ述ヘタルニ「シヨーム」ハ大額ノ借款ニテ公債募集ノ必要アルモノニ付統制無ク貸

附行ハルルカ如キハ自分達モ借款團ノ一員トシテ默過（脱）ニシテ日本側希望ト同様ナルモ公募ヲ要セサル材料供給資金融通（大体一億法以下ノ額ナラハ別ニ財政當局ニ届出ツル必要無ク從テ公募セスシテ一銀行ノ資金ニテ融通可能ト見テ差支無キ旨ヲ漏ラセリ）ノ如キハ單純ナル「オペラシオン、コンメルシアル」ニシテ是等ニ付テハ何レヨリモ苦情ノ起ル筋合ノモノニ非サルヤニ認ムル旨ヲ答ヘタルヲ以テ本官ハ素ヨリ此ノ種借款ニ付テハ借款團規約ニ基ク苦情ノ餘地ハ無カルヘキモ何分支那ノコトナレハ供給セラルヘキ材料カ何時ノ間ニカ資金トナリテ政客督軍等ノ利用スル所トナルコト無キヲ保セス且又佛國側供給ノ材料ヲ以テ蒼石鐵道敷設用ニ充テラルルコト等アルニ於テハ我方ニ於テハ昭和四年ノ支那側トノ契約ニ依リ同鐵道ニ權利ヲ有スル關係上之ニ無關心ナル能ハサル次第ナリト述ヘ置キタリ英、米、白へ轉電セリ

365

昭和8年11月21日 広田外務大臣より
在中国有吉公使、在中國堀内公使館
一等書記官、在南京日高總領事他宛

中国有鐵道債務不履行に関する天津連合商

業會議所の交渉振り探査方訓令

亞一機密合第一三四三號

昭和八年十一月廿一日

外務大臣 廣田 弘毅

在中國特命全權公使 有吉 明殿

在中國公使館一等書記官 堀内 干城殿

在南京總領事 日高 信六郎殿

在天津總領事代理 田中 莊太郎殿

支那國有鐵道債務不履行ニ關スル天津聯合商業會議所

交渉ニ關スル件

最近入手セル別紙情報ハ平綏鐵道問題トモ關聯シ不取敢査報方電報ノ次第アル處本件英商側交渉成功ノ事實ナルニ於テハ右ハ我方トシテモ早晚開談ノ要アルヘキ對支債權整理問題ノ端緒トモナルコトアルヘク旁々一般債務整理ノ問題トシテモ重要視スル次第ナルニ付今後共各方面ニ付本件眞相探査方御配慮相成度尙結果ハ隨時同電相成様致度

追テ本件英商側交渉力大體事實ナルコト判明セハ上海正金支店ヨリ「キャッセルス」邊リニ對シ書面ヲ以テ質問セシ

ムルモ差支ナシト思考シ居ルニ付右御含迄ニ申添フ

本信宛先 支 北平 南京 天津

（別 紙）

昭和八年三月卅一日

天津支店長

三井物產本店調査課長殿

「支那國有鐵道債務不履行ニ關スル天津聯合商業會

議所ヨリ交渉ノ事

三月十六日附弊狀ヲ以テ上海聯商宛上海聯商ニ於テモ當地聯商同様南京政府ニ交渉中ニ候ヤ否ヤ問合セノ書狀ヲ當地聯商ヨリ差出シ候旨申上置キ候處上海ヨリ返事有之候トテ昨日債權者ノ會合ヲ催シ仕候、然ルニ會スルモノ僅カニ

Jardine Matheson & Co.

Arnhold & Co.

Shining Trading Co.

Dollar Lumber Co.

及ヒ當社ノ五社ナリシ所「Jardine Matheson 及 Arnhold」ハ會議ニ入ル前、全英國商社ハ英國商社丈ニテ或ル種ノ交

涉團體ヲ組織シ上海ニ其ノ本部ヲ置キ今後ハ當聯商トハ別々ニ行動スルコトナリタル旨ヲ告ケ引上ケ候、就テハ殘餘ノ三社ニテ會議ヲ進メ申候處上海聯商ニテハ當聯商カ曩ニ照會セシカ如キ交渉ハナシ居ラサルコト判明セルカ一方前記ノ如ク英國商社カ鐵道部トノ交渉殆ト成立セシ由ニテ其ノ條件等ハ當地香上銀行承知ノ筈ト來狀アリシヲ以テ當地聯商ヨリ照會セシ處上海本部ニ照會ノ上ナラテハ内容通知シ難キ旨返答有之候由ニ候、恐ラク此ノ内容ハ他ヘハ洩ラス間敷ト存候得共新民洋行力間接ニ傳聞セシ處ニテハ、昭和七年十二月卅一日迄ハ金利ヲ六%トス、昭和八年一月一日以降ハ金利ヲ五%トス、(但シ右何レモ單利ノコト)一、元金ハ本協定成立後廿五ヶ年間年賦償還ノコト等ニ御座候英國商社カ別個ノ行動ヲトルニ至リタルヲ以テ所謂各社聯商ヲ通シテノ交渉ハ又々力弱キモノトナリタル上條件ノ如キ各國一致スルモノニ非ス又々以前ニ立歸リ各自別々ノ交渉ニ出ツル外ナキモノト被存候先ハ右御報告申上候 勿々

想像相成ルヘキ通ナリ而シテ右自力ニ依ル建設トシテハ同鐵路ノ剩餘金ヲ利用セシムルコト該鐵路同收問題ノ對策トシテモ至極妙案ト存スルモ(之ニ反シ例ヘハ團匪賠償金英國返還分ノ利用ノ如キハ甚タ好マシカラス)唯タ支那側カ日本ノ山東ニ對スル特殊ノ關係殊ニ前記條約上ノ義務ニモ顧ミ我方ニ相談ナク事ヲ進メムトスルカ如キハ到底容認シ得サル所ナリ以上貴官御含迄就テハ本件我方針實現ニ付テ絶エズ御努力ヲ煩シ度尙ホ差当リ貴官若ハ木村ニ於テ適當ノ機會ニ葛光庭邊リニ對シ本件膠濟鐵路局側計畫ヲ質問スルト共ニ前記條約上ノ義務等ニ顧ミ支那側ハ豫メ日本ト相談スヘキ筋合ナルコトヲ「リマインド」(但シ差當リハ輕ク「リマインド」スルニ止ムルコト可然)セラルルモ一方法ト思考セラル

支、北平、南京、濟南ヘ轉電セリ

昭和8年12月1日 在英國松平大使より
広田外務大臣宛(電報)

正太鐵道收入を担保とする鐵道材料供給借款
に關シアデイスに照会について

366 昭和8年11月24日 広田外務大臣より
在青島坂根總領事宛(電報)
膠濟鐵道延長線敷設計面に際しては我が方と
相談すべき旨同鐵路局側に注意喚起方訓令

本省 11月24日後4時45分発

第一〇九號(極秘扱)
濟南發本大臣宛電報第二七四號ニ關シ
濟南聊城線ハ濟南ヨリ彭德又ハ道口ヘノ延長線ノ一部ヲナス譯ナル處膠濟鐵路延長線ノ建設ニ付支那側カ國際財團ヨリ資金ヲ借入スヘキ條約上ノ義務(即チ法理上ハ支那資本ヲ以テスルモ不可ナル譯ナリ)ヲ我方ニ對シ負ヒ居ルハ十月三日附亞一機密合第一一三九號附屬第四號一ノ四、二及三末段ノ通ナルカ我方トシテハ支那側カ日本ノ意圖ヲ尊重スル限り必スシモ右權利ヲ固執スルモノニ非スシテ(但シ此ノ點ハ差當リ絶對ニ支那側ニ「コミット」セサルヲ要ス)支那側自力ニ依ル建設ヲ默認スルノミナラス場合ニ依リテハ相當ノ援助ヲモ考慮スヘキ立場ヲ執リ居ルコト曾テ國庫証券利子ノ一部支拂延期ニ依リ臨清線建設費ノ融通ヲ考慮シタル經緯(昭和六年往電第五一號參照)ニ依リテモ御

ロンドン 12月1日前発
本省 12月1日後着
第六六七號

十月三日附貴信亞一機密合第一一二九號ニ關シ
當地正金野原ト打合ノ上御訓令ノ次第二從ヒ同人ヨリ十六日「アジス」ニ對シ正太鐵道收入ヲ擔保トスル佛支契約ハ其ノ後ノ成行如何又右借款ニ代リ正太鐵道收入ヲ擔保トシテ他ノ鐵道ニモ使用セラルル鐵道材料借款成立セルヤノ噂アル處右ニ關シ何等知ル處無キヤ其ノ他類似ノ情報ヲ有セサルヤヲ問合サシメタル處「アジス」ヨリ二十三日附ヲ以テ本件ニ關シテハ客年十一月五日附「ラシヨーム」ヨリノ來翰中ノモノ以外何等情報ニ接シ居ラサル旨「ラ」ハ右來翰ノ末尾ニ於テ本件ニ關シ今後情報ヲ入手セル場合ニハ通知スヘキ旨約シ居ルニ拘ラス同人ヨリ斯ル通知ニ接セサル所ヲ以テ觀レハ「ラ」モ情報ヲ入手セサルモノト考ヘサルヲ得サル旨並若シ御希望ナラハ改メテ巴里ニ問合スヘキモ十日以内ニ「ブリテイツシュ、アンド、チャイニーズ、コーペレーション」ノMayers支那鐵道視察ヲ終ヘ當地ニ歸着スル豫定ニテ同人ヨリ本件ニ關スル多少ノ材料ヲ得ルコ

ト或ハ可能ナルヘシト回答シ來レリ依テ野原ヨリ重ネテ「アジス」ニ對シ「メヤーズ」氏ヨリ本件ニ關シ何等情報ヲ得ハ通報アリ度キ旨依頼シ置キタリ

昭和8年12月4日 広田外務大臣より 在中国有吉公使宛(電報)

平綏鐵道債務整理は続借優先権を変更せずか
つ对中国債務整理全般への影響を考慮した返
濟額設定方訓令

付記 十一月二十九日發菊池支那駐屯軍參謀長より

植田參謀次長宛電報天第二三九号

平綏鐵道債務整理に関する現地陸軍側意向に
ついて

本省 12月4日後7時30分發

第一七四號

往電第一六八號ニ關シ

同電所掲兩方面ヨリ研究ノ結果當方意嚮左ノ通ニ付峰特派員可然ク御指導相成度シ

(一)東亞及三井契約ノ有スル擔保其ノ他ノ附帶權利殊ニ東亞

契約ノ續借優先権ハ我方ノ重要視スル所ニ付支那側カ債務全額ヲ履行スル場合ハ兎モ角小額ノ月賦拂ト交換ニ之ヲ拋棄(貴電第四九〇號先方提案第四條)スルカ如キハ我方ノ承認シ難キ所ニシテ本件債務整理ハ右現契約上ノ權利ヲ積極的ニ確認シ又ハ少クトモ之ヲ變更セサルモノナルヲ要ス

(二)右(一)ノ趣旨ニ悖ラサル限り本件整理ハ極メテ望マシキ次第ナル處他ノ對支債權ノ整理ニ及ホス影響ヲモ考慮シ(イ)債務者支拂能力及(ロ)他ノ債權者トノ振合ヨリ見テ妥當ナルヲ要ストノ原則ハ之ヲ確保スルヲ要ス

本件ニ付具體的ニ言ヘハ(イ)毎月ノ入金額ハ鐵道營業狀態ヨリ見テ妥當ナルヲ要シ(ロ)米商及内國銀行團ニ對スルヨリ不利ナル條件ハ受諾シ難シ右(イ)鐵道營業狀態殊ニ最近ノ成績ハ(峰トモ協力シ查報アリ度シ)三井側情報ニ依レハ平綏鐵道ハ毎月三十萬圓ノ營業純收入アリトノコトナルモ客年度統計ニ依レハ一ヶ年ノ營業純收入八十萬元ニ過キス

故ニ若シ(ロ)ニ付交渉ノ當初ヨリ米商等トノ平等待遇ヲ要求シテ此ノ點ヲ「コミット」スルニ於テハ右小額ノ營

業收入ヲ各債權者ニ按分スルコトナリ到底満足ナル金額ヲ入金セシムル能ハサルヘク加之果シテ米商側カ支那側提案ト同様ノ整理案ヲ受諾シ居ルモノトセハ夫レヨリ有利ナル條件ノ取得ハ困難トナル俱レアルニ付差當リ前記他ノ債權者トノ振合ハ債權額ノミナラス債權ノ確實性(即チ擔保)ヲモ考慮スル必要アル旨ヲ主張シ東亞側債權ニ付テハ擔保タル公債ニ依リ營業收入ノ二割四分ヲ積立テシムル權利、三井側債權ニ付キテハ一九二一年機關車賣込契約ニ附隨スル期票證書第四條ニ依リ鐵道收入ニ對シテ有スル擔保權ノ關係上他ノ債權者ニ優先シテ支拂ヲ受クヘキモノナルコトヲ主張スルコト然ルヘク當初ヨリ米商等トノ平等待遇ヲ要求シテ言質ヲ與フルコトナラサル様峰ニ御注意アリ度シ

(三)右(二)(イ)及(ロ)ノ見地ヨリ見テ妥當ナル毎月支拂額決定セハ(金額少ニ過クル場合ハ内拂ノ形式トスル外ナルカヘキモ)或ル期間ノ支拂ニ依リ債務ヲ完済スル様整理案ヲ立テ差支ナシ(前記(一)ノ點ヲ確保スルヲ要スルハ勿論ナリ)支那側提案ノ如ク過去ノ利子ヲ元金ト同額迄切捨ツルカ如キ又今後無利子トスルカ如キハ惡例ヲ作ル俱アルニ付

毎月支拂金額及年限決定ノ上ハ現在額ノ計算、將來ノ利子等ニ關シ成ルヘク合理的ナル「フォーミュラ」ヲ考慮スルコト然ルヘク此ノ點ハ交渉進捗ノ上更メテ請訓アリ度シ冒頭往電末段ニ對スル同電ニ接セサルニ付詳細訓令困難ナルカ右不取敢(本電ノ趣旨東亞及三井承知、峰及貴地三井出張員ニ御傳ヲ乞フ)

支 天津 南京 張家口ヘ轉電セリ

編 注 同月十三日發訂正電報により「擔保タル」以下「積立」までを「營業收入中ヨリ二十四萬元(第五次短期公債規定第八條及包展綫公債規定第六條參照)ヲ積立」と訂正。

(付記)

天 津 11月29日後2時50分發
參謀本部 11月29日後8時20分着
天第二三九號

(欄外記)滿洲國ノ發展ニ關聯シ京綏鐵道ノ重要性ヲ増大シ來レルコトハ申ス迄モナキコトナルカ最近該鐵道ト借款關係ヲ有ス

ル邦人側ヨリ聞ク所ニ依レハ該鐵道ノ借款ハ東亞興業五百二十萬元本年四月十日調元利合計千二十萬元、三井側八百萬元同調元利合計千六、七百萬元其他米國系會社元利合計二千萬元、支那銀行側二百五十萬元ナルカ其中支那銀行ノ分ハ既ニ書替ヲ終リ米國會社ノ分モ元利合計セルモノヲ新借款ニ書替エ八百月約六十六年償還ノ約束ニテ畧々話定リ日本側ニ對シテモ同様ノ形式ニテ交渉ヲ試ミントシツ、アリトノコトナリ

帝國トシテ本鐵道ニ關スル此借款ニ對シ此際ニ明確ニ支那ニ認定セシメ置クコト固ヨリ必要ナルカ一面又僅カ許リノ金ノ償還ニノミ眩惑サルルコトナク巧ニ之ヲ利用シ鐵道ノ將來ニ就テ一石ヲ投シ置クコトモ亦得策ト考ヘラレ目下其好機會ト觀ラルルヲ以テ中央部ニ於テ東亞興業三井等ヲ指導セラレ先方ノ申出ニ對シ最モ適切妥當ナル手段ヲ講セラルルコト緊要ナリト思考ス

右既ニ御承知ノコトト信スルモ參考迄ニ

(欄外記入)

本件ハアマリ債務整理ノ方面ヲ閑却シ利權ノミヲ重要視シテ

以上

(第拾號)

昭和八年十二月四日

北平

峯 十太郎

本社

内田常務取締役殿

拜啓 柴山中佐往訪ノ件

十一月三十日午後三時林氏ノ案内ニテ陸軍武官室ヲ訪問シ柴山中佐ニ紹介サレ面談致候同中佐ハ公使館附武官(少將、南京「上海」駐在)ノ補佐官ニ有之候モ實質ニ於テハ何等ノ指揮ヲ仰カス直接參謀本部ニ隸屬シ居ル由ニ御座候

平綏鐵路債務整理案ニ關シテハ已ニ林氏ヨリ柴山中佐ニ話シ濟ミナルコトハ林氏發貴方宛十一月十三日附書面ニ記載シアル通りニ有之候ニ付小職ハ單ニ内交渉ニ來リタル旨ノ挨拶ヲナスコトニ止メ申候同中佐ハ其後天津ニ赴キタル際北寧鐵路局長殷同氏(北寧鐵路ハ元ノ京奉鐵路ノ一部ナリ現今ハ北平、山海關迄ノ鐵道ニシテ天津北平間ノ運行ハ順

モ困ル故当方來往電ヲ軍側ニ送付シ当方ニマカセテ心配ナキ旨申聞ケ置カルルヲ得ハ好都合カト存ス

369 昭和8年12月15日 東亞興業株式会社より 守島亞細亞局第一課長宛

平綏鐵道借款整理に関する武官補佐官および 黄郭との会谈内容報告について

(外信第二二一號)

(接受日不明)

昭和八年十二月十五日

東亞興業株式会社

外務省

亞細亞局第一課長殿

平綏鐵道借款整理ニ關スル件

拜啓在北平峯特派員ヨリ本件ニ關シ左記ノ報告ニ接シ候ニ付該寫茲許同封奉供尊覽候 拜具

追テ右寫ハ北平公使館ヘ差上濟ノ趣ニ候間御含置被下度候

左記

一、峯十太郎報告第拾號寫 一

二、同 第拾壹號寫 一

調ニテ相當ノ成績ヲ擧ケ居ル模様ナリ現局長殷同氏ハ前ニ魯大公司ノ經理タリシ人其後青島ヨリ南方ニ鹽ヲ送り數十萬元ヲ利セシコトアリトノコトナリ日本語カ出來ル上ニ日本人側特ニ軍部方面ト好キ故停戰協定ノ際軍部ノバツクニテ北寧局長トナルコトニ内定シ間モナク局長ニ就任セリ、関ハナキモ個人トシテハシツカリシテ居ル人物ナリ)ニ對シ北寧線ヲ平綏線ニ併合スルトノ嚮アルカ眞カト問ヒタルニソシナ馬鹿ナコトハナイ、北寧コソ平綏ヲ併合スルノ地位ニアリ營業成績カ劣ルモノカ成績優良ナルモノヲ併合スルカ如キ不合理ノコトアルヘカラスト一笑ニ附シ又今回ノ平綏整理案ニツキテモ其餘リニ長期ナルコトヲ冷笑シ居タリトノコトヲ語ラレ候同中佐ハ平綏整理案ニ關シテハ先方カ毎月債務ヲ支拂フト云フナラハ債權者トシテハ之ヲ受取ル方宜シカラン鐵道ニ對スル從來ノ利權ナトハ若シ日本カ該鐵道ヲ取ラント欲セハ實力ヲ以テ之ヲ占領スルコト容易ナルヘキニツキ今日利權ノコトサマテ心配スルニモ及フマシト鼻息荒キコトヲ述ヘラレ候償還期限ノ長キニ失スルコトハ恰モ九十九ケ年ハ國際間ニ永久ヲ意味スル慣例ナルニ照シ六十六年餘ノ長期ハ半永久トモ云フヘキモノナリトノ

意見ニ有之候

中佐ハ過般林氏ヨリ聞キタルコトヲ已ニ參謀本部ニ報告サ
レ居ルナラント推察致候中佐カ果シテ如何ナル意見ヲ申出
テタルヤ參謀本部ノ意向モ御訊シ相成ル方可然ト存候
右御報告迄得貴意候 敬具

追テ三井北川氏ヨリハ柴山中佐へハ是迄何等申出ナカリ
シ由ニ御座候

(第拾壹號)

昭和八年十二月四日

北平

峯 十太郎

本社

内田常務取締役殿

拜啓 黃郭氏往訪ノ件

黃郭氏ニ面會致スコトニ付其都合問合セ方ヲ袁良氏ニ依頼
致置キ候處二日袁良氏ヨリ四日午後三時半ニ面會スルコト
ニセリト電話ニテ通知シ來リ候依テ本四日午後三時半外交
大樓ニ赴キ黃郭氏ニ面會貴狀ヲ差出シ來平ノ挨拶ヲ申述へ

レ沿線カ發展スレハ收入モ増加スヘク其際増額スルコト
ニセハ宜シカラシ

五、從來ノ局長ハ何レモ材料ヲ購入スルノニコンミツシヨ
ヲ取レリ(例へハ十元ノ石炭ヲ十二元トシテ二元ノコン
ミツシヨヲ取ルカ如シ)然ルニ現局長ハ絕對ニ之ヲナ
サス又從來ノ軍閥ハ鐵道收入中ヨリ幾何カヲ取立テ居タ
リ然ルニ自分ヤ何應鈞^(タカ)ハ絕對ニ之ヲ要求セサルヲ以テ此
ノ二點タケニテモ從來ニ比シ相當多額ノ收益ヲ上ケ得ル
次第二ニ自然整理ニモ手ヲツケ得ル譯ナリ

六、將來時局ノ爲メ鐵道ノ收入減少シ或ハ他ノ局長カ替リテ
モ今同ノ整理案ヲ標準トシテ行クトキハ整理案ノ繼續實
行可能ナルヘシト自分ハ思フ

七、沈局長歸來ノ上ハ自分ヨリモ誠意ヲ以テ貴方ト協議スル
様申傳フヘシ

右ニ付貴役過日南京ニテ既ニ沈局長ト會見サレタル趣ヲ話
シ又小職天津ニテ曹汝霖氏ニ面會セシコトヲ申述へ置キ候
次ニ福建獨立問題ニツキ意見ヲ訊ネ候處

福建問題ハ誠ニ困ツタモノテ續々來ル報告ニ依レハ表面
ノ主要人物ハ從來世ニ知ラレタル人々ノミナルカ第二流

候黃氏カ十年前馮玉祥ノクーデターヲ行ヒタル際王正廷、

袁良氏等ト當方ニ一時避難シ來ラレタル事トモヲ語り往時
ヲ回想シ久瀾ヲ敘シ申候黃氏ハ貴狀ヲ披讀シテ後貴殿ノ近
狀ヲ尋ネラレ候ニ付過日赴滬、今日頃日本へ歸着ノ豫定ナ
ル旨ヲ答へ置キ候左ニ黃氏ノ談話要項ヲ御報告申上候

一、沈局長ハ十日許リノ豫定ニテ南京ニ赴キタレハ最早歸リ
來ル頃ナルヘシ

二、今同ノ平綏整理案ハ沈局長自身カ發意セシモノニテ決シ
テ他ヨリ命セラレテ整理ヲナサントスルモノニ非ラス
三、沈氏ハ年ハ若ケレトモ頗ル熱心ナリ最初自分ニ平綏鐵道
ノ整理ヲナス旨話アリタルカ自分ハ平綏カ支那側以外ニ
日米へ債務アル事位ハ知り居リシモ日本側ニ東亞興業カ
アルコトハ始メテ知りタリ東亞ナラハ袁良氏ト密接ノ關
係アルニ付先ツ袁良氏ヲ經テ東亞側ニ通スルカ宜シ東亞
ニテハ内田常務カ專ラ日本側ノ對華債權者ノ世話ヲサレ
居リ支那ノ事情ニ通シ居ル仁ナル旨ヲ話シ置キタレハ沈
局長ハ袁良氏ヲ經テ内田氏へ通シタル筈ナリ

四、今同ノ平綏整理案ハ自分モ期限カ餘リニ永イ様ニ思フモ
現在ノ處是以上ノコトハ出來サルヘシ將來鐵道カ改善サ

處ノ地位ニ着ケル者ノ中ニ共產黨ノモノ已ニ二十三名ニ達
シ居レリ之等共產黨ノ者カ任命サレ居ルヨリ見ルニ共產
黨トノ聯絡アルコトハ全ク事實^(ツマ)ラシ表面ノ主要人物ハ單
ニ立テラレタルモノニテ實際ノ勢力ハ第二流所ノ地位ニ
アル働キ手カ掌握シ居ルモノト見ルヘク今同ノ福建獨立
問題ハ今後如何ニナルカ誠ニ心配ナリ

ト語り候此時于學忠(河北省主席)來訪セシニ付再會ヲ約シ
辭シ申候

370

昭和8年12月16日

広田外務大臣より
在中国有吉公使、在南京日高總領事、
在中国中山公使館一等書記官他宛

道清鐵道の大名への延長計画に対し我が方の
既得権に抵触する旨英國側に注意喚起方訓令

亞一機密合第一四五九號

昭和八年十二月十六日

外務大臣 廣田 弘毅

在支特命全權公使 有吉 明殿
在南京總領事 日高 信六郎殿

在北平公使館一等書記官 中山 詳一殿
在天津總領事 栗原 正殿

道清鐵道延長計畫ニ關スル件

最近南京領事來電ニ依レハ道清鐵道管理處長張居平ハ該鐵道ノ管理及延長線建設問題ニ付鐵道部長ト商議ノ爲十二月九日着寧セルカ全人ハ新聞記者ニ對シ膠濟鐵道側ノ大名經由彰德延長線計畫ニモ鑑ミ道清鐵道ノ西方延長線計畫ハ一部ヲ變更シテ道口大名間ノ延長ヲ遂行スルコトトナリ經費ハ一部ヲ福公司ヨリ借入シ他ハ鐵路局ヨリ支辨スル方針ナル旨ヲ語リタル由ナリ然ルニ濟南道口間ノ鐵道ニ關シテハ濟順豫定線ニ對スル權利ノ「オプション」ノ關係上建設費ヲ支那側乃至外國單獨ノ資本ニ依ルヲ得サルコト御承知ノ通ナルニ付テハ(十月三日附亞一機密合第一一三九號別紙第四號御參照)在支英國公使館方面乃至ハ關係英商等適當ノ筋ニ對シ機會アル毎ニ前記新聞記事等ヲ「リファア」シ反復我方ノ關心ヲ「インプレス」スルト共ニ然ルヘク右我方權利ニ言及セラルル様御配慮アリ度尙結果隨時報告相成様致度右申進ス

本信宛先 支、北平、南京、天津、

本信寫送付先、滿、青島、濟南、英、佛、白、米、紐育

371 昭和8年12月20日 在英國松平大使より
広田外務大臣宛(電報)

中国視察から帰国した英國人マイヤースよりの正太鐵道収入を担保とする鐵道材料供給借款などに関する情報について

ロンドン 12月20日後発
本省 12月21日前着

第七一〇號

往電第六六七號ニ關シ

「マイヤース」ハ十二日歸英セルニ付野原ハ十九日「アジス」ニ面會「マ」モ同席シ野原ヨリ口頭ヲ以テ質問ヲ爲シタル上得タル情報左ノ通り

「正太鐵道延長線ニ關スル佛支豫備契約ニ代ヘ佛支ノ間ニ鐵道材料借款成立セリトノ情報ニ關シテハ上海ノ「フレンチ・シンジケート」カ佛國對支借款團ニ加入シ居ラサル關係上「ラシヨーム」ニ於テモ何等聞知スル所無キモノト見エ前記往電ニテ申進ノ通り同人ヨリ別段報告ニ接セス又

五 華北における日本の權益發展策

372 昭和8年12月22日

在青島坂根總領事より
広田外務大臣宛(電報)

「ア」及「マ」自身モ何等情報ヲ直接聞込ミタルコトナキ趣ニテ從テ右材料カ正太鐵道延長線ノミナラス隴海線ニモ使用セラルルヤ否ヤノ點モ同人等ハ知悉セサル由
ニ英白間ノ隴海線ニ關スル擊爭ナルモノハ大体貴信別紙第二四號ノ註ニ在ル通り約一年前英國團匪賠償金返済部分ヲ以テ買入レタル鐵道材料ヲ隴海線ニ使用セントノ議アリ白耳義側ハ右鐵道ニ關シ優先權ヲ有スル旨唱ヘタル爲問題トナリ一時中止セラレタルコトアル趣ニテ右ニ付テハ
Report of Board of Trust on Administration of Boxer Indemnity 一九三二年七月乃至十二月分第六頁第五項ニ報告アル由
ニ井涇^(同) Hannecken ノ遺族ノ經營ニ係ル小規模ノ純然タル支那會社ニ過キス其ノ石炭ハ開濼炭トハ品質相異スル爲市場ニテ競争ヲ惹キ起サス又附近ノ京漢正太兩鐵道關係ヨリスルモ英佛間ニ別段利害ノ衝突アルヲ聞カサル由
米、佛、白ニ轉電セリ

膠濟鐵道延長線敷設計画に關し我が方と常時密接に連絡すべき旨同鐵路管理委員會委員長に申入れについて

青島 12月22日後発
本省 12月22日後着

第二四二號

貴電第一〇七號ニ關シ

昨二十一日本官葛委員長ヲ往訪懇談ノ席上他用ヲ辯シタル上態ト一時ノ思付ナルカ如キ体ヲ裝ヒ地方ノ漢字新聞ニ依レハ貴委員長ハ先般濟南ニテ中國新聞記者ニ對シ延長線ハ膠濟鐵路ノ不用材料ヲ利用シ經費モ膠濟線ノ剩餘金ヨリ支辨スルコトニ決定セル由語ラレタル趣ナル處(濟南發閣下宛電報第二七四號參照)最近ノ上海「ニュース」ニ依レハ道濟鐵路局長ハ延長線ハ先ツ道口ヨリ大名ニ延長スヘク經費ハ福公司ヨリ借り入ルルコトニ決定セル由報道セラレ居リ何レカ真相ナルヤ、捕捉ニ苦シム次第ナル處事實ハ如何ナル成行トナリ居ル次第ナリヤト水ヲ向ケタルニ葛ハ實ハ計劃ハ種々アリタルモ目下ノ處何レモ行キ惱ミニテ毫モ進展ヲ見居ラサル次第ナリト前提シテ(一)道濟線ノ福公司借款說

ハ一時其ノ計畫進メラレタルモ目下ノ處福公司ノ方資金難ニテ實現ノ望ナク(一)又膠濟線ノ材料及剩餘金利用ハ日本ヨリノ借款ニ異ナラストノ理由ニテ黨部方面ノ反對激烈ナル爲是亦差シ向キ着手困難ナリ
(2)去リトテ外國資本ノ借入ハ高徐濟順線ニ關スル條約ニ絡ミ日本ヨリ抗議アルヘキニ付尙更不可能ナリ
(四)次ニ考慮セラルルハ中國銀行團ヨリノ借款ナルモ之モ銀行團カ政變ヲ危惧シ應諾ノ色ヲ示サルヲ以テ急速實現困難ナリ

(五)殘ルハ自分(葛)カ最近韓復榘ト相談中ナル山東省政府トノ合作案ニシテ大体濟南聊城間ノ修築ニ著手シ資金(約六百萬元)ハ山東省政府ニ於テ調達シ材料ハ膠濟鐵路ヨリ省政府ニ相當ノ價格ヲ以テ賣渡シ土工ハ沿線附近ノ村落ニ賦役ヲ命シ土地買収ニハ省政府庫券ヲ發行スト謂フモノニシテ大体韓ニ於テモ贊成シ居レハ尙商議ノ上實現セシメ度考ヘ居レル程度ニテ容易ニ進行ヲ見サル次第ナリ云々ト内話シタルヲ以テ本官形式ノ如何ヲ問ハス此際日本ヲ差置キ外國ヨリ借款スルコトハ御説ノ通り日本政府トシテ到底承諾シ得サル次第ナルモ本官ニ於テ豫テ延長線自体ノ實現ハ山

(欄外記入)

行ヲ見タル上韓ヲ通シ我方参加ヲ認メシムルコト可ナリト言フニアリ

373 昭和8年12月25日 在中国中山公使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

平綏鐵道債務整理に関する中国側の新たな讓

歩事項について

北平 12月25日後発
本省 12月25日後着

第五四一號

往電第五三七號ニ關シ

廿三日沈局長ヨリ峰ニ對シ往電第四九〇號ノ條項ヲ正式ニ提案シ來リ其ノ際利息ヲ元金ト同額トシ今後無利息トスル事ヲ交渉ノ先決問題ト爲セル趣ナリ(三井ニ對シテモ同様但シ(一)新契約不履行ノ場合元契約ニ復歸ヲ認メ

(二)東亞ノ擔保品ヲ強ヒテ回收スルヲ要セス日本側銀行ニ於テ將來債務完済ニ至ラハ該擔保物ヲ返却スル旨ノ保障ヲ與フレハ之ヲ同銀行ニ保管セシメ差支無キ事
ノ二點ニ付讓歩ノ色ヲ示セル由、委細峰電參照

東經濟發展上緊要事ナリト認メ居リ其ノ點屢々御話シタル通りナルニ付今後ハ如何ナル場合ニ於テモ先ツ以テ本官ニ腹藏ナク相談ヲ掛ケラルルコト絕對ニ必要ニシテ其ノ場合ニハ本官個人トシテ出來得ル限り援助ヲ致スヘシト述ヘ更ニ參考ノ爲日本トノ權益關係ヲ「レマインド」シテ措置ヲ誤ラサル様セラレ度キ旨希望シ置キタリ
支、南京、北平、濟南ヘ轉電セリ

(欄外記入)

○支那資本ヲ以テスル場合モ我方ハ之ニ反對シ得
○山東省政府ノ出資トスレハ鐵路局ノ資金ヲ使ハセテ國庫証券回收阻止スルノ目的ハ達成シ得ス
○又其ノ完成後ニ至リ「既成線ト一体ヲナスヲ以テ國庫証券ノ担保タルヘキモノナリ」トノ主張ヲナスコトハ困難ナリ
○故ニ本件(五)ニハ反對スルヲ可トス(尤モ山東開發ノ爲延長線建設ヲ急務トシ其ノ出資者カ外國ナラサル限り差支ヘナシトノ考慮ニ出資セハ別問題ナリ)

守島了(課長ノ意見ハ成ルヘク韓ヲ本件ニ関與セシメ其ノ成

支、天津、南京、張家口ヘ轉電セリ

374 昭和8年12月26日 広田外務大臣より
在中國中山公使館一等書記官宛(電報)

平綏鐵道債務整理に關し現契約上の權利確認

を先決とすべき旨東亞興業側を指導方訓令

本省 12月26日後7時25分發

第一八三號

貴電第五四一號ニ關シ

東亞側ヨリ「利子ノ減免ハ先方ノ希望ヲ參酌シテ考慮スル心算ナルモ鐵路局現在ノ營業狀態及其ノ將來改善ノ見込等ニ付充分説明ヲ受クルニ非サレハ減免ノ程度ヲ回答シ難シ」トノ趣旨ヲ峯ニ同電シ度キ趣ヲ以テ當省ニ相談アリタル處我方トシテハ往電第一七四號(一)ノ點ヲ先決問題トスル次第ナルヲ以テ此ノ點ニ付満足ナル解決(新契約ニ依ル支拂ヲ開始スルモ其ノ完済迄ハ續借優先權等ヲ拋棄シ難ク貴電後段(一)ニテハ不充分ト思考ス)ヲ得ルニ非サレハ利子ノ減免等ハ考慮シ得ストノ趣旨ニテ交渉スルコト然ルヘキ旨
東亞側ニ注意シ置キタリ

就テハ右御含ノ上此ノ際峯ニ於テ交渉ヲ急キ我方先決問題
ノ解決ヲ見サルニ先立チ利子ノ減免等ニ付「コンミット」
スルコトナキ様峯ヲ指導方特ニ御配慮相成度
張家口ヘ轉報アリ度シ

支、天津ヘ轉電セリ
支ヨリ南京ヘ轉報アリ度シ

六 中国の欧米における財政的援助要請

1 棉麦借款問題

375 昭和8年6月5日 在米出淵大使より
内田外務大臣宛(電報)

米國復興金融会社(RFC)と国民政府間に棉
花および小麦の信用取引契約調印について

ワシントン 6月5日後発
本 省 6月6日前着

第五三九號

曩ニ「レコンストラクション、ファイナンス、コルポレイ
ション」ニ於テ小麦ノ對支輸出ヲ計ル爲支那政府ヘ信用供
與案アリ(客年往電第四九六號及第五〇六號)又棉花ニ付テ
モ同様ノ案アリタルカ支那政府提供ノ擔保方法ニ付問題アリ
實現ニ至ラサリシ處其後大ニ議熟シ居リタル矢先宋子文
ノ來華アリ話合ヒ頓ニ進捗シ宋ノ渡英直前RFCト國民政
府間ニ棉花及小麦信用取引契約調印セラレタル旨四日RF

Cヨリ公表セラル右公表ニ依レハ契約ノ要點左ノ通り

一、支那ノ米國內ニ於ケル棉花及小麦ノ購入ヲ容易ナラシム
ル爲RFCヨリ支那政府ヘ五千萬弗ノ額迄信用ヲ供與ス
ヘシ右額ノ約五分ノ四ハ棉花(九十萬「ベールズ」見當)
ノ購入ニ約五分ノ一ハ小麦及小麦粉(二千五百萬「ブツシ
エルズ」見當)ノ購入ニ使用セラルヘク之レカ運搬ハ大體
米國船ニ依ルヘシ

二、右ハ米國內市場ヨリ支那代表者ニ於テ購入セラルヘシ

三、信用ニ對スル擔保ハ一定數ノ支那國租稅(卷煙草、小麦
粉、綿絲、燐寸、「セメント」等ニ對スル稅ヲ含ミ之等ノ
租稅全體ニテ昨年中二千二百萬弗ノ收入ヲ舉ケタル由)
ニ對スル「ファースト、チャージ」ヲ以テ之レニ充テR
FCハ支那側カ倉庫ヨリ物品ヲ引出ス迄右物品ニ對シ
「ウエーヤハウス、レシート」其他ノ書類ニ基キ留置權
(lien)ヲ保有スヘシ支那側ハ物品ヲ倉庫ヨリ引出ス際代
價ノ一割ヲ現金ヲ以テ支拂ヒ更ニ一割五分ヲ九十日以内